

下院ニ出席ス
可キ官吏ノ員
數ヲ減少ス

善行間ハ其職
ニ居ルヲ得可
キ官吏ヲ上下
兩院ヨリ拒絕

ハ下院ニ新元素ノ注入シ行政小部局ト王家ノ事務掛トチ
シテ直接ニ是ニ代表セシムルノ新例ヲ出セリ
千八百三十二年議院改革條例制定後議院ノ輿論ハ益々ア
シテ女王ノ議定法ニ從ヒ冗員拒絕ノ主義ヲ嚴行セント欲
スルノ傾斜ヲ現ハシ王室ノ下ニ官職ヲ有スル者ノ下院ニ
出席ス可キ員數ヲ減少シ又下院ニ出席シテ直接ノ功用ナ
キ者ハ皆ナ之ヲ拒絕セリ議院ノ輿論ノ傾斜スル所既ニ此
ノ如シ其無用ノ官職ヲ廢棄シ冗員ヲ沙汰シ嘗テ下院ニ出
席セル有俸吏員ヲ減少セル一毫モ怪ムニ足ラサルナリ
失行ナキ間ハ其職ニ居ルヲ得可キ規程ニテ新ニ設置セル
或ル職員モ亦上下兩院ヨリ拒絕スルノ法ヲ定メ前十年間
ニ於テ更ニ拒絕主義ヲ擴張セリ例ハ印度太守ヲ補佐ス可

ス

會議員ハ終身官ニシテ失行ナキ間ハ其職ニ居ルヲ得可キ
者ナレト千八百五十八年ニ制定セル印度政府ノ章程ハ之
ヲ以テ上下兩院ニ出席シ投票ス可ラサル者ト爲セリ又千
八百六十六年ニ王室ヲノ會計検査官全副官各々一名事務
總監全監督各々一名ヲ任命スルヲ得セシメタル議定法ハ
此等ノ官吏ヲ以テ其終身官ニシテ實際執政官ヨリ獨立ス
スルニモ拘ハラス下院ニ撰舉セラル可ラサル者ト爲シ兼
テ上院議員ハ右ノ官職ニ就クヲ得スト云ヘル一條ヲ設
ケタリ又千八百六十八年ノ議員撰舉法ハ撰舉ニ關スル詞
訟ヲ擔任ス可キ劣等判事ノ任用法ヲ定テ曰ク法官ニシテ
上院議員タル者ハ皆ナ撰舉判事ト爲ルヲ得スト撰舉判
事モ亦他ノ法官ト同シク固ヨリ下院ニ出席スル能ハサル

諸官省ノ常置顧問官

者ナリ

千八百六十七年諸官省ノ常置顧問官ノ位地ニ關シテ重要ナル一疑問ヲ起セリ此常置顧問官ナル者ハ唯々法律上ノ疑問ニ對シテ其意見ヲ陳述ス可キ職任ヲ有スルノミナレハ尋常ノ官吏ト異ナリ常ニ有名ナル狀師ヲ擧テ顧問官ト爲ス此類ノ人物中議院ニ出テ、國事ニ參與センコトヲ希望スル者多シ海軍會議局ノ顧問(年給五百磅ヲ受ク)ハ内閣ノ更迭セルニモ拘ハラズ多年ノ間下院ニ出席シタリ蓋シ該官ハ議院ニ出席スルモアンチ女王ノ議定法ニ抵觸スル者ニ非ス何トナレハ常置顧問ノ官職タル新設ノ官職ニ非スシテ國王[○]之ヲ任命セス海軍會議局之ヲ任命スレハナリ印度事務局ニ屬スル常置顧問ノ如キ

諸官省ノ常置顧問官

モ亦常ニ異議ヲ受ケス下院ニ出席セリ千八百五十八年事務局ヲ廢シテ新ニ印度部尙書ノ官ヲ設置セルニ方リ常置顧問ウグラムハ下院議院ニテアリシカ爾後モ依然トシ出席セリ然ルニ千八百六十六年此職ニ居レル[○]ルシズノカムブリヂノ代議士ニ撰舉セラレ、ヤ撰舉掛之ヲ斷シテ曰ク印度ノ統理權ヲ王室ニ移セル上ハ印度尙書ノ常置顧問官ハアンチ女王ノ議定法ニ所謂ル新設ノ官職ト爲レリ故ニ此職ニ居ル者ハアンチ女王ノ議定法ト千八百五十八年ノ議定法トニ因テ下院ニ出席スルノ權理ヲ失フト是ニ於テ平フルシスハ議席ヲ去リ千八百六十六年四月議院ハ補欠員撰舉令ヲ出セリ然レモ下院ハ[○]フツルシスチシテ其官職一變ノ後ニ依然下院ニ出席

セルカ爲メ受ク可キ刑罰ヲ免レシメントテ保救令ヲ議定シタリ是レ知ラス識ラスノ犯セル罪科ナレハナリ次回ノ會期ニ於テハ右ノ官職ニ居ル者ヲシテ下院ニ出席スルヲ得セシメ以テ不規則ナル制限ヲ除去ス可シトノ議案ヲ提出セシガ其第二讀會ニ至テ本案ノ如キハ毫モ謂ハレナフシテ一定ノ制法ヲ亂リ以テ政略上ニ基源セル重大緊要ノ議定法ヲ破ラントスル者ナリトテ大ニ之ヲ駁撃スル者アリタリ是ニ於テ乎アンチ女王ノ議定法ニ因テ起レル制限ヲ終正シテ一層廣濶普通ナラシメンカ爲メ精撰委員ヲ設置ス可シトノ暗約ニテ議案ヲ引ケリ然レモ今日ニ及ンテ尙未タ之ヲ履行セズ

執政官ト爲ル

議院ノ事務官職ニ就ク者ハ下院ニ出席スルヲ得ストノ説

者ヲシテ再撰
ノ手數ヲ經過
セシムル法制
ヲ論ス

ヲ主張スル逐日愈々熱心ナルコト明ケシ之ニ反シテ千八百三十二年改革法實施後諸黨ノ政治家ハ益々アンチ女王ノ議定法中執政官職ニ就ク者ヲシテ必ス再撰ノ手數ヲ經過セシムル條章ノ不便ヲ明知シ多少之ヲ改正スルニ非スンハ今日ノ政態ニ適合ス可ラサルコトヲ明知セリ此法制ハ固ト王者ノ勢力ノ議院ニ跋扈センヲ恐レ之ヲ防ンカ爲メ設定シタル者ナレモ此点ニ於テハ既ニ無効ノ贅法ト爲レルノミナラス就職後再撰セラル可キ見込アル者ニ非スンハ施政府ニ登用スルヲ得サルカ故頗ル人物撰擇ノ區域ヲ狹隘ナラシメ爲メニ國家ノ公利ヲ傷害セルコト少ナカラス此法制ノ不便ナルヤ千八百六十七年ヲ以テ稍ヤ之ヲ修正シタリト雖モ猶ホ其不便ヲ減スル能ハス之ヲ廢棄スルニ

非スハ到底之カ爲メニ生スル所ノ障害ヲ免ル、能ハサル可シ

再任ハ議席ヲ去ラス

是ニ一言ノ讀者ノ注意ヲ惹ク可キ者アリ則チ内閣變更其他ノ原因有テ一ヒ辭セル官職ニ再任セラル、モ未ダ何人モ其後任ヲ命セラレサル以前ナレハアンチ女王ノ議定法ハ之ヲ視テ新ニ官職ヲ拜セル者ト爲サ、ルハ是レナリ蓋シ執政官ノ職任ハ單ニ辭表ヲ奉レルノミニテ之ヲ避ケ得可キ者ニ非ス後任者命セラレテ初テ之ヲ避クルヲ得可シ」千八百三十二年上院當ニ改革案ヲ討議スルニ方リノルカムプトン侯ハ本案ニ一條ヲ加ヘ下院議員ノ政務官職ニ就ク者ヲシテ其議席ヲ棄ルヲ要セサラシメノヲ發議ス大宰相グレー侯曰ク余ハ現行法ヨリ生スル所ノ不便實ニ大

執政官ノ再撰ヲ要スニ法律ヲ廢止セント發議スル者アリ

ニ設ヘ之カ爲メ如何ナル利益ノ生スルアリトスルモ終ニ之ヲ償フ能ハスト信スルカ故余ノ持論ヲ演フレハ動議者ト同説ナリ然レハ斯ル修正説ハ頗ル世人ノ誤解ヲ招キ易キ者ナレハ今マ之ヲ主張シテ或ハ改革案ノ敵勢ヲ増加ス可キ危險ヲ侵スハ得策ナラサルカ如シト是ニ於テ乎ノルサムプトン侯ハ一個獨立ノ議案トシテ之ヲ提出シタルニ上院反對黨ノ首領タルウエリントン侯論シテ曰ク改革案ヲ實施セント欲セハ斯ル法制ヲ設クルニ必要ナル可シト雖モ余カ見ル所ヲ以テスレハ此議案ハ政府ヨリ提出ス可キ者ナルニ似タリト他ノ諸貴族モ多クハ之ヲ可認シタレモ熟考ノ時日ヲ得ノヲ望求セルカ故暫ク討議ヲ延期シ終ニ之ヲ放棄シタリ

官職ノ徳ニ因
テ施政員ニ議
席ヲ與ヘント
欲スル者アリ

千八百三十四年下院ニ於テ同趣ノ動議ヲ提出セル者アリ
シカ之ヲ賛成スル者少ナシ是ニ於テ一議員修正説ヲ起シ
施政府ノ吏員ニハ其官職ノ徳ニ因テ當院ニ出席スルノ權
理ヲ許與ス可シ然レモ人民ノ公撰ヲ得タル者ニ非スンハ
投票權ヲ與フ可ラサル旨ヲ説キタリシカ衆員ノ好待ヲ得
サルヲ原議ヨリ甚ダシク出納検査長ロード、アルソルプ一
論ヲ演ヘタル後動議ト修正説ト共ニ廢棄セラル論中云ヘ
ルアリ現行法ノ不便ナルヲ疑テ容レスト雖モ未ダ以テ人
民ノ重要ナル特許ヲ奪フノ口實ト爲スニ足ラス設ヘ向後
不便愈々増加シテ斯ル發議ヲ採納スルニ至ルヲアル可キ
モ今日ハ未ダ此程度ニ達セサルナリト
爾後多年間此疑題ヲ議院ニ提出スル者ナカリシカ千八百

轉任ノ爲メニ
議席ヲ棄テシ
ム可ラストノ
發議

五十二年議院改革説再ヒ喧シキニ方リロード、ジョン、ラッセル
此難問ヲ提出シテ衆員ノ考案ヲ促セリ新ニ議院ヲ改革シ
テ撰權被撰權ヲ擴張スレハ執政官下院ニ入ルノ便利ハ大
ニ減少セサルヲ得ス是レ現行法改正論者ノ勢力ヲ増加セ
シ所ニロード、ジョン、ラッセルハ千八百五十二年其内閣破壊
スルノ前新改革案ヲ下院ニ附スルニ方テ之ヲ改正セシ
テ企圖シタリ氏ハ戒テ前車ノ覆轍ニ取リ氏カ撰舉セラレ
タルニ際シテ政府ニ居レル下院議員ハ啻々其轉任セルカ
爲メ再撰ノ手數ヲ經過スルヲ要セサラシム可シトノ發議
ヲ以テ自ラ満足セリ再撰法廢止説ニ反對スル者常ニ謂フ
其代議士トシテ自由且ツ獨立ナル人物ヲ撰擇セル撰舉人
ハ其政府ノ羈絆ヲ受ケ官職ノ責任ヲ負擔スルニ方テ撰擇

ノ歸スル所ヲ再考ス可キ權理ヲ有ストロード、ジョン、ラッセル
ハ此駁議ニ當ランカ爲メ故ラニ右ノ如ク發言セルナリ
ノ言ニ曰ク撰舉人一ヒ其代議士ノ就職ニ際シテ取捨ヲ定
メタル上ハ其轉任セルカ爲メ再ヒ撰舉人ノ前ニ出テ、意
見ヲ問フコトヲ要セサル可シト此議案モ終ニ經過セスシテ
再撰ノ法律ハ依然其舊ニ因レリ

再撰法ヲ廢セ
ントスルノ說
アリ

千八百五十四年ロード、ジョン、ラッセルハロード、アベルデーン
ノ聯立内閣ノ代表者トシテ再ヒ改革案ヲ提出シ下院議員
ニテ執政官ト爲ル者ノ再撰法ヲ廢止ス可キヲ主張セリ氏
ハ現行法ニ因テ生スル所ノ不便ト困難トヲ舉テ本案ヲ維
持シ又論シテ曰撰舉人ハ其代議士ノ就職ニ關係セル疑題
ヲ考案セルコト極テ少ナク再撰ヲ拒ムノ理由常ニ全ク就職

ト關係ナキ所ニ在リ且ツ議員ノ政府ニ入ル者ハ下院ニ對
シテ責任ヲ負擔ス可ク撰舉人ニ對シテ之ヲ負擔ス可キ者
ニ非ス代議士ハ新ニ撰舉人ノ信任ヲ求ムル迄ハ其政說ヲ
變更ス可キ充分ノ自由ヲ有スト此議案モ亦下院ヲ經過セ
カリキ

第二ノ再撰ヲ
要セストノ優
議

千八百五十九年デルビー侯内閣ノ機關タルチスレーリハ
一種改革案ヲ下院ニ提出ス其第六十六條ニ曰ク利益アル
官職ニ居ルニ方テ撰舉セラレタル議員ハ其議員タル間ハ
再ヒ利益アル官職ニ就クモ再撰ノ手數ヲ經ルコトヲ要セス
ト是レ従前アンチノ議定法ヲ改正セント欲セシ諸般ノ企
圖ニ異ナレル一種特別ノ意見ニシテ改革案討議ノ際ハ特
ニ此個條ヲ辨論スル者ナカリシカ第二次會ニ於テ全案終

ニ廢棄セラレ

千八百六十年ロード、ジョン、ラッセルハロード、パーメルストンノ内閣ノ爲メニ再ヒ改革案ヲ提出ス此際氏ハ唯タ「小郡邑ハ執政官ヲ容易ク議院ニ出席スルヲ得セシメ以テ大ニ憲法上ノ利益ヲ生スル旨」ヲ演說セルノミニテ直接ニ目下吾人ノ疑題タル再撰法ヲ論セサリキ然レハ改革案ノ第三十條ハ前年デスレリーノ提出セル議案ニ從フテ「官吏タルニ方テ撰擧セラレタル下院議員ハ其議員タル間ハ他ノ職官ニ就クモ再撰ノ手數ヲ經ルヲ要セス但シ第二ノ就職ハ向キニ占居セル官職ヲ辞スル時若クハ之ヲ辭スルノ前ニ在ル可シ」ト云ヘル趣旨ヲ記セリ議院ハ盛ニ改革案ノ可否ヲ討議シタレト別ニ本條ヲ討議セスノ全案ヲ廢棄ス

引續テ在職ス
ル時ニ處ス可
キ方法

是ヨリ多年間議院改革ノ一大議題ハ妨害セラレヌシテ安眠スルヲ得タリ

千八百六十六年ロード、パーメルストン長逝ノ後チグラッドストーンハラッセル侯ノ機關トシテ改革案ヲ提出シ再ヒ下院ノ注意ヲ促セリ此議案中一語ノ再撰法ニ及フ者ナカリシハ甚タ怪ム可シト雖モ願フニロード、ラッセル數々現行法改正ヲ主張シテ奏功セサリシカ故グラッドストーンハ覆轍ヲ避テ之ヲ履マサリシナラン本案モ亦前者ト其運命ヲ同ウセリ

此ノ如クアンチノ議定法中ニ掲ケラレタル再撰法ノ改正ハ累代ノ施政府皆ナ多少之ヲ主張シ前三十年間ノ有力著名ナル政治論者之ヲ賛成セリト雖モ立法府ハ斷乎撓マス

千八百六十七年ノ發議

シテ之ニ抗抵シ設ヘ何等ノ場合ニ於ケルモ又何等ノ事情
 アルモ議員ニシテ官吏ト爲ル者ハ其撰擧人ノ認承ヲ得サ
 ル可ラストノ説ヲ維持シテ千八百六十七年ニ至レリ
 千八百六十七年デスレリハデルビー侯内閣ノ機關トシ
 テ再ヒ人民ノ代議法ニ關スル法律改正案ヲ提出シ下院ノ
 審案熟議ヲ經テ終ニ兩院ノ可決ヲ得タリ初メ之ヲ提出セ
 ルニ方テヤ本案ノ第三十七條ハ千八百五十九年ヲ以テ提
 出セルチスレリノ改革案ノ第六十八條ト全ク同一ナリ
 シガ調査委員之ヲ不可トシテ曰ク斯クテハ既ニ敗北セル
 内閣モ再撰ノ手數ヲ經スシテ再ヒ就職スルヲ得可シ故ニ
 當院ハ之カ區域ヲ限定シテ既ニ再撰セラレタル後チ現存
 政府中ニ於テ轉任セル者ニノニ適用センコトヲ希望スト政

府ハ議院ノ意見ニ從テ本條ヲ改正スルコトヲ諾ス原條ヲ抹
 殺シテ之ニ代ユルニ新條ヲ以テスルヤ衆員皆ナ之ヲ贊成
 シ異議ナク之ヲ可決セリグラッドストーン之ヲ贊成セルノ
 言ニ曰ク現行法ハ下院議員ノ官職ヲ拜スル毎ニ之ヲ取捨
 スルノ權理ヲ人民ニ與フト雖此之カ爲メニ生スル所ノ不
 便ハ遠ク此細少ナル憲法上ノ特許ニ因テ生スル便益ニ超
 過ス今マ本條ノ如キハ此大不便ヲ芟除スル者ナリト
 改革案ノ上院調査委員ノ手ニ在ルヤグレイ侯ハ唯タ議席
 ナ棄テスシテ一官ヨリ他官ニ轉シ得可キ自由ヲ議員ニ與
 フルヲ以テ満足セス本條ヲ修正シテ下院ノ議席ト共ニ併
 占スルヲ得可キ官職ニ就ク者ハ皆ナ再撰セラレトマ要セ
 サルニ至ラシメノコトヲ企圖シタリ侯ノ説明中云ヘルアリ

今日ハ王者ノ以テ最モ國家ノ大任ヲ負擔セシムルニ適セ
リトスル所ノ人物ヲシテ再ヒ當撰セシムルノ困難大ニ増
加セルノミナラス斯ル人物ヲシテ議席ヲ保有センカ爲メ
或ル撰舉体ニ從屬セシムルハ實ニ國家ノ大害ナリ故ニ此
ノ如キ無用ノ制限ハ之ヲ排除セサル可ラス又改革案中ニ
議員三名ヲ出ス可キ或ル州若クハ郡ノ撰舉會ニ於テハ何
人モ二名以上ノ候補人ニ投票スルヲ得スト云ヘル一條有
テ少數代議ノ新法ヲ加ヘタルカ故侯ハ之ヲ舉テ更ニ該條
修正ノ理由ト爲セリ其言ニ曰ク此等ノ撰舉地ニ於テ少數
ノ爲メニ撰舉セラレタル者ヲシテ官職ニ就ケルカ爲メ再
撰ノ手數ヲ經過セシメハ必ス其議席ヲ失ス可シト
グレイ侯ノ修正說ハデールビー侯ノ爲メニ駁撃セラレ多數

ノ賛成者ヲ得ル能ハスシテ廢棄セラレタリ駁議ノ要領ニ
曰ク撰舉人ノ代議士ヲ撰ムヤ常ニ之ヲ其時ト注意トノ全
部ヲ人民ニ對スル職任ノ爲メニ費スヲ得可キ獨立且ツ自
由ナル位地ヲ占ムル者ニ取ル此議員ニシテ其時ノ大半ヲ
要シ又幾何カ判斷ノ自由ヲ失フ可キ官職ニ就ケハ撰舉人
ニ向テ位地變更スルモ依然其代議士タラシメント欲スル
ヤ否ヤヲ問フコソ理ノ當然ナレ設ヘ政府ニ如何ナル便益
アルモ之ヲ問フコト要セサラシムレハ撰舉人ノ憲法上ノ
權利ヲ侵犯ス且ツ政府ハ一體トシテ下院ノ信任ヲ有セサル
可ラサルノミナラス之カ組成分子タル諸有司モ亦各々己
ヲ下院ニ出セル撰舉人ノ充分ニシテ完全ナル信任ヲ有セ
サル可ラス是レ亦議員ノ官職ニ就ク者ヲシテ必ス一ヒ議

終ニ再撰ニ關
スル法律ヲ變
更ス

轉任ノ爲メ再
撰セラル、チ
要セサルニ至
レリ

席ヲ去ラシムル法律ノ必用ナル所以ナリト
議院ハ終ニ左ノ如ク再撰ニ關スル條項ヲ議定セリ
議員ノ之ニ就ク者ヲシテ議席ヲ去ラシムト雖モ再撰セ
ラル、ヲ許ス所ノ利益アル官職ニ關スル法律ヲ修正ス
ルヲ便宜トシテ之ヲ改ムルヲ在ノ如シ
本法H号附録ニ載セタル官職ニ就クノ後チ議院ニ於テ
勤務ス可キ議員ト爲レル者ハ爾後該附録ニ載セタル或
ル他ノ官職ニ轉スルモ之カ爲メ其議席ヲ去ルヲ要セ
ス
久シク政治家ノ争点ト爲レル一大疑問モ此改正有テ巧ニ
決定セラレタルカ如シ新法ハ或ル人物ノ未ダ官職ノ羈絆
ヲ受ケサルニ方テ之ヲ撰ンテ代議士ト爲セル各撰舉地ニ

與フルニ其官職ノ羈絆ヲ受クルニ及ンテ取捨ヲ再考スル
ノ機會ヲ以テス是レ新法ノ能ク議員ヲ制シテ其撰舉セラ
レタル所以ノ場合ト有様トチ放擲セシメサラシムル所タ
リ之ニ反シテ新法ハ撰舉人ノ爲メニ既ニ其就職ヲ可認セ
ラレタル議員ヲシテ容易ニ轉任スルヲ得セシム是レ其再
撰ノ手數ヲ經過スルカ爲生ス可キ一身上ノ困難ト公務上
ノ不便トチ排除スル所タリ但シ一職ヲ去テ他職ニ就クノ
變更ハ急速ナルヲ要ス又就ク所ノ官職ト去ル所ノ官職ト
ハ共ニ附録ニ載セタル者ニ限ル
H号附録ハ議院ノ議席ト併占スルヲ得可キ利祿アル官職
ヲ列記スルヲ左ノ如シ
ロー、ハ、ト、レ、シ、ニ、ラ、
財務長官

大英國出納檢査院ノ財務官及ヒ愛蘭財務長官ノ職務ヲ
 執行ス可キ事務掛
 樞密院議長
 教育會委員副長
 宮内監視官
 宮内財務官
 宮内「グアイス、チアムブレ」
 宮内司廐官
 國務諸尙書
 出納檢査院長及ヒ檢査官
 支出局長
 驛遞總監

海軍會議局長
 海軍會議局長ノ職務ヲ執行ス可キ事務掛
 王室ノ工事及ヒ公立家屋ノ事務掛
 樞密院貿易及ヒ殖民委員長
 愛蘭尙書
 英國貧民救助法執行掛
 ランカスター侯國大法官
 軍事裁判所檢事長
 英國檢事長
 英國檢事副長
 蘇國檢事長
 蘇國檢事副長

愛國檢事長

愛國檢事副長

右ハ粗ホ内閣會議篇ニ舉ケタル通常施政府ヲ組成スル官吏ニ同シク其異ナル所ハ唯タ宮内ノ劣等官職二三ヲ畧セルニ過キス則チ近衛歩兵隊長及ヒ貴人隊長ノ如キ者ニシテ此等ノ吏員ハ時ニ下院議員中ヨリ舉ケラル、トアリ此等ノ縉士ハ其就職ニ方テ必ス議席ヲ去ルト雖モ必スシモ再撰ヲ求ムルヲ要セス、且ツ右ニ抄出スル所ノ附録ハ副尚書ニシテ政務官タル者ヲ記セス余輩既ニ述ヘタルカ如ク此政務副尚書ハ就職ニ方テ議席ヲ去ラス然レモ一層高貴ナル執政官職ニ昇等セラレハ其議席ヲ去テ再撰ノ手順ヲ履行セサルヲ得ス

加那太ノ法律

英國議院制度專ラ行ハル、所ノ加那太ニ於テモ就職ノ際議席ヲ去ルノ法律ハ千八百五十三年以來同様ノ變更ヲ受ケタリ初ハウヰクトリア第十六号第百五十四款ノ議定法ヲ以テ之ヲ改正シ次ニ第二十号第二十二款七條ノ修正議定法ヲ以テ更ニ之ヲ改正シ立法會ノ議員ニシテ當州ノ施政府ヲ組成スル所ノ(俸給アル)官職ニ居ル者若シ其職ヲ辭シ辭職後一個月以内ニ指定セラレタル官職ニ就ク時ハ該會ノ議席ヲ去ルヲ要セスト爲セリ

アウストレーリアノ法律

千八百五十五年南アウストレーリア殖民地ノ初テ責任政治法ヲ誘入スルニ方テ設定セル憲法ハ上下兩院議員(當時ハ兩院共ニ公撰議院ヲ以テ成レリ)ニ與フルニ再撰ノ手數ヲ經スシ施政府ノ政務官職ニ就クノ自由ヲ以テ

セリ是レ再撰ノ一大疑問ニ關スル殖民地ノ意見ヲ窺フニ足ル可キ者ニシテ南アウストレーリアハ此点ニ於テハ全クニューサウスウエールズ^{オーストラリア}等ノ諸殖民地ト異ナレリ嘗ニ異ナレルノミナラス英國ノ模範ニ準據セル憲法ヲ設定シ官吏再撰法ノ可否ヲ實驗セル者ハ獨リ此殖民地アルノミ其目的ハ固ヨリ數々議員ヲ撰擧スルカ爲メニ生スル所ノ費用ヲ省キ人心ノ激勵ヲ制シ又内閣變更ニ際シ容易ク新政府ヲ組成スルヲ得セシムルニ在リシト雖也結果豫算ト背馳シ官吏再撰法ヲ廢メ内閣變更ノ妨害物ヲ排除セタルカ爲メ動搖不定ノ元素ヲ注入セリ是レ議院政治法ニ隨伴ス可キ弊害中ノ特ニ大ナル者トス南アウストレーリアノ責任政府ヲ設

立シテヨリ初九年間ニ内閣ノ變更セルコト十五回ニ過キ内閣中一二人ノ進退ハ指ヲ屈スルニ違アラス官吏再撰法ニシテ苟モ存セハ内閣ノ變更ハ決シテ此ノ甚ダシキニ至ラサリシナラン千八百六十五年南澳殖民地ノ執政官ハ憲法中右再撰ヲ不用トスルノ條章ヲ改メ之ニ換フルニ執政官職ニ就ク者ハ必ス再撰ノ手數ヲ履行ス可シトノ趣旨ヲ以テセンコトヲ發議シ之ヲ議院ノ衆議ニ附セリ殖民政治家ノ其說ヲ一變シ憲法上ノ舊慣ヲ復セント欲スルノ心ヲ生シタルコトヲ見ル可キナリ然ルニ議員ハ内閣ノ意見ニ反對シテ頻ニ之ヲ攻撃シ其第二讀會ニ於テ之ヲ廢棄セリ攻撃ノ要点ハ立法府議院ノ任期ハ僅ニ三年ナルカ故此上更ニ執政官職ニ就ク者ヲ再撰ス

ルカ如キハ徒ラニ人民ヲ勞スルノ害有テ之ニ伴フノ利益ナシト云フニ在リキ爾後再ヒ右ノ如キ改正ヲ憲法ニ加ヘント企タル者ナク且ツ現行法モ今日ニ至テハ圓滑良好ノ運動ヲ爲スト聞ケハ向後ト雖モ之ヲ變更スルコトナカル可シ

如何ナル之ヲ
官職拜命ト云フ

既ニ下院議員ノ官職ニ就ケル後チ法律上議席ヲ去ルコトヲ要ヒラル、情狀ヲ説キタレハ余輩ハ是ヨリ改撰令ヲ出スニ充分ナル官職拜命ハ如何ナルモノナルヤヲ觀察ス可ベシ
單ニ不合格ナル官職ニ就クコトヲ承約スレハ議席ヲ去ルヲ以テ普通且ツ便宜ノ事ト爲ス此承約ハ欠席ノ根據トシテ之ヲ明説ス可シ且ツ再撰ノ手順ヲ履行スルニ方リ候補人

ハ其或ル官職ヲ拜スルノ後ニ及ンテ新チ撰舉有功ナラシメンガ爲メ現ニ該官ヲ占ムル者トシテ其撰舉人ニ對セサル可ラス

時ニ下院議員タリシアッヂントンノ千八百一年ヲ以テ新内閣組成ノ命ヲ受クルヤ自ラ出納検査長ノ位ニ就クコトヲ決シカチ内閣組成ニ盡スニ方リ偶々國王ノ不豫ニ遭遇シテ其事ヲ妨ケラル氏ハ猶豫ノ短促ナル可キヲ信シ一チルテルン、バンドレッツ、バキンガムシヤノ中央チ東西ニ橫斷スル白墨山ノ山脈ニ於ケル王室有地ノ職ニ就テ奏功ヲ迅速ナラシメント欲シ二月十九日ヲ以テ改撰令ヲ出セリ氏心ニ謂フ出納検査長ヲ拜命スル當ニ其再撰セラル、ノ前ニ在ル可シト然ルニ國王續テ不豫ナルカ爲メ空ク豫定ノ時日ヲ經過シ未

ヲ出納検査長ヲ拜命セサルニ方テ再ヒ當撰シ二月二十七日執政官ノ資格ヲ以テセス一人ノ資格ヲ以テ下院ニ着席ス三月十四日ニ至リ王漸ク恢復シ印綬ヲビットヨリ受テアヂントンニ與フルヲ得タリ是ニ於テ乎アヂントンハ再ヒ下院ヲ去リ其執政官トシテ下院ニ着席セルハ全月二十三日ニテアリキ其初ニ方テ氏若シ出納検査長ノ職ニ就クハ約諾シタルノ故ヲ以テ議席ヲ去ルヲ得シナラハ斯ク二重撰擧ノ勞ヲ費スヲ要セサリシナル可シ是レ固ト不當ノ事ニ非スト雖モ王ノ不豫ニ際シテ之カ爲メ新内閣組成ノ功ヲ奏スルヲ得タルヤ否ヤニ至テハ余輩之ヲ斷スル能ハス

千八百六十四年ブルースハ教育會副議長ノ職ニ就ケリ

此位地ハ唯々樞密院議官ノミ之ニ居ルヲ得可キ者トス氏カ爲メニ改撰令布達ノ議ヲ起スニ方リ氏ハ未ダ誓ヲ納レテ樞密院議官ト爲ラストテ動議ニ反對スル者アリシカハサー、ジョーシ、グレイハ此官職ヲ拜セル者ニ改撰令布達後ト再撰後ト迄誓ヲ納レテ樞密院議官ト爲ラサリシ者甚タ多キヲ説テ之ニ答フ當時一ヒ此動議ヲ引クト雖モ同夜再ヒ之ヲ提出ノ異議ナク之ヲ可決シタリ他日之ヲ不可トスル者アルニ方リ検事長辨ノ曰クアンチ女王ノ議定法第六号第七款ニ命スル所ノ退席ハ就職承諾ノ最モ早キ徵証ニ伴フ可キ者ニシテ此徵証ハ文書若クハ口舌若クハ吸手等如何ナル方法ニ因テ之ヲ現ハスモ決メ問フ所ニ非ス就職承諾ノ徵証一ヒ明瞭ナレハ改撰

何レノ時ニ於
テ改撰令公布
ヲ猶豫スルヲ
得可キヤ

令ヲ出シテ撰擧會ヲ開クコトヲ得決シ拜命式ノ終ルヲ待
ツヲ要セサルナリ他日ニ至リ保証狀辭令書其他ノ形式
ニ因テ任用ヲ整備スルモ之カ爲メ更ニ退席ヲ要セス何
トナレハ是レ唯タ向ニ欠席ヲ生セル就職承諾ニ隨伴ス
ル儀式ニ過キカレハナリ(中略)此故ニ向ニ改撰令ヲ頒布
セルハ當院ノ驚ク可キ所ニ非サルノミカ之ヲ頒布セサ
リシナラハ却テ法律違背ノ責ヲ免ル、能ハサル可シト
下院ノ議席ト併占ス可ラサル官職ニ就クコトヲ承約スルヤ
否ヤ直チニ改撰令ヲ頒布スルヲ以テ常例ト爲スト雖モ單
一ナル承約其者ハ必スシモ議員ヲ退席セシムルニ非ス國
王ヨリ官職ヲ拜スルコトヲ承約スレハ議員ハ之カ爲メアッ
子女王ノ議定法ノ配下ニ入ルコト疑ヲ容レスト雖モ若シ理

由ノ以テ猶豫ヲ得ルニ足ル可キ者アレハ下院ハ直チニ改
撰令ヲ頒布セスシテ就職式ノ終ルヲ待ツテ常慣トス此間
ハ就職ヲ承約セル議員モ妨碍セラル、所ナク其立法職分
ヲ盡スヲ得可シ

例ハ千八百二十二年ノ會期ニ際シカンニンダハ印度太
守ノ任ニ當ルコトヲ承約セル後モ數々下院ニ出テ、演說
シ又投票シタルノミナラス其演說中當會期ノ終ニ於テ
任地ニ赴ント欲スル由ヲ演ヘシコトアリ然レモ氏ハ唯タ
太守ト爲ルコトヲ承約シタルノミニテ未タ之ヲ拜命シタ
ルニ非ス其別ヲ撰擧人ニ告ント欲シテリヴァプールニ赴
クノ途上一報ヲ得テ終ニ英國ニ止レルノ一事以テ之ヲ
証ス可キナリ

千八百四十年コッケルマウスノ代議士ホルスマンハ五月十八日附ノ書ヲ以テ其撰舉人ニ告テ曰ク余ハ大藏大輔ニ就ンコトヲ懇懇セラレ之ヲ諾スルヲ以テ余ノ義務ト考ヘタリ故ニ當時討議中ナル或ル議案ヲ決定シタル後ハ諸君ニ向テ再撰ノ勞ヲ煩ハヌ可シトコッケルマウス改撰令ヲ公布セルハ五月二十一日ニシテ此間ホルスマン依然下院ニ出席シテ發議シ又投票シタリ翌二十二日下院初テ此等ノ事實ニ注意シ右記ノ書面ヲ新聞番ヨリ朗讀ス其記スル所ノ確實ナルコト疑ヲ容レヌト雖モ單ニ新聞紙ヲ證據トシテ事ノ可否ヲ斷スル能ハヌ又政府ハホルスマンノ就職セル時日ヲ報告スルコトヲ否メルカ故中途ニシテ此疑問ヲ廢棄セリ

千八百四十一年九月サー、ロベルト、ピールノ新ニ内閣ヲ組成スルヤサー、イー、ピール、サグデンニ與フルニ愛蘭大法官ノ職ヲ以テス全月二十日下院中氏ヲ指名セルニ方テ何ニ故改撰令公布ノ議ヲ出サ、リシヤトノ疑問ヲ起ス者アリサー、サグデン答テ曰ク余ハ就職ヲ諾スルヲ以テ余カ義務ト考ヘタルコト確實ナリト雖モ前任者ヲ退カシムルニ必要ナル措置ハ未ダ之ヲ執行セサリキトサー、ロベルト、ピールモ亦之ヲ保証シテ曰ク氏ヲシテ就職セシムルノ企アリト雖モ吸手ノ儀式スラ未ダ之ヲ行ハスト同夜再ヒサー、イー、ピール、サグデンノ退席ス可キ官職ニ就クコトヲ承約セル後依然下院ニ止レルヲ以テ憲法違背ノ行爲ト論スル者アリシニ氏又之ニ答テ曰ク余カ當院ニ

出席スルハ議員タルノ權理ニ因テ然ルナリ余ハ就職ヲ承約シタレヒ未タ拜命セサルカ故之ヲ受占セル者ト云可ラス抑モ愛蘭大法官ノ職ハ命令狀ニ因テ之ヲ保占シ大璽授與ニ因テ之ニ就カシムル者ナリ故ニ余未タ命令狀ヲ得ス大璽ヲ授與セラレス則チ尙ホ法律上代議士タルノ權理ヲ有スルニ方テ代議士タルノ任ヲ盡サ、リシナラハ是レ撰舉人ニ對シ其義務ヲ怠ルモノニ非スヤトロード、ジョン、ラッセルハ「明ニ就職ヲ承約スレハ改撰令頒布ノ動議ヲ起ス」常例ニシテ儀式ニ從テ拜命スル迄數週日ヲ經過スルコトアルモ尙ホ多クハ直チニ議席ヲ避ケタル事實ヲ演ヘタリ下院ハ既ニマンホルス、件ニ於テ議論ヲ生シ今マ復タ同趣ノ困難ニ遭遇シタルカ故斯ル場合ニ

ニ處ス可キ慣行ヲ一定セント欲シ次日再ヒ之カ爲メニ討論ヲ開ケリサー、ロベルト、ピール曰ク余カ意見ヲ以テ議定法ヲ解釋スレハ就職ノ内論ヲ受ケタル議員モ法律上拜命ノ徵証ト爲ル可キ儀式ヲ踐行スル迄ハ其議席ヲ去ルコトヲ要セサルカ如シ然レ余ハ筆記セル内論書ト就職承約トヲ以テ議席ヲ去ルニ充分ナル根據ト爲スノ説ニ異議ナシ單一ナル口舌上ノ談話ハ以テ充分ナル根據ト爲スニ足サルナリサー、イー、ビー、サグデンニ在テハ就職ノ手順ヲ運フコト既ニ之ヲ辭ス可ラサルノ程度ニ達セリ故ニ余ハ改撰令頒布ノ動議ニ同意ストロード、ジョン、ラッセルハ大ニ議席ヲ去ルニ先テ筆記セル承諾ヲ必要ナラシムル事ノ便否ヲ疑ヒ討論數回ノ後チ終ニ改撰令ヲ頒

布シタリ

千八百三十年十一月二十二日下院ハ愛蘭尙書ヲ拜命セ
 ルホソ、イー、ザ、スタンレーノ爲メニプレストンニ向テ
 新撰令ヲ布達シタルコ全月二十五日之カ取消ヲ出ス可
 シト發議セル者アリ其言ニ曰 スタンレーハ未タ必要
 ナル制規ヲ履ンテ就職セル者ニ非ス故ニ當院ノ新撰令
 ナ布達セルハ欠席ノ事實ヲ誤解シタルニ基原スト審議
 ノ末下院ノ措置ハ全ク先例ニ協合スル者ト決定シ後チ
 八日毫モ異議ナク再ヒ新撰令ヲ布達ス
 千八百三十五年メルボルン内閣ノ組成ニ方リ下院ハ
 新ニ之ニ入ルヲ承約セル諸議員ノ爲メニ新撰令布達
 議決シタレト獨リ愛蘭尙書ト爲ル可キロード、モルベ

貴族ニ舉ケラ
 レシ者アルニ
 方テ頒布スル
 所ノ新撰令

スニ至テハ未タ尙書ト爲ル可キ手順ヲ運フニ違アラサ
 リシカ故チルテルン、ハンドレッヅノ職ニ就ケル事トシテ
 改撰令ヲ出セリ然レヒ氏ハ候補人ト爲テ撰舉會ニ出テ
 愛蘭尙書ノ資格ヲ以テ再撰セラレタリ
 下院ノ欠席ヲ補充センカ爲メ新撰令ヲ頒布スルニ適當ナ
 ル時日ハ貴族ニ舉ケラレタルカ爲メ生スル所ノ欠席ニ關
 シテ之ヲ説明スルヲ得可シ
 下院議員貴族ニ舉ケラル、時ハ假辭令書ヲ發セル後チ吸
 手ノ禮ヲ行フニ方テ(是レ唯タ叙任ノ第一着步ニ過キサレ
 也)新撰令ヲ出スヲ常例トス但シ叙任式全ク終ル迄則チ請
 書ヲ出ス迄新撰令頒布ヲ猶豫スルヲナシトセス
 下院議員若シ世襲法ニ因テ貴族ト爲ル時ハ繼續者ノ上院

ニ召喚セラレ、ヲ待ツテ常例ナリ父祖ノ爵ヲ繼ケル者既
 ニ上院ニ召喚セラレハ下院ハ只今上院ニ召喚セラレタ
 ル某ノ後任ヲ新撰ス可シトノ動議ヲ起ス此慣行アルハ召
 喚狀ヲ受ケルト受ケサルトノ一事能ク繼續權ヲ動スカ爲
 メニ非スシテ其能ク或ル人物ノ貴族ト爲リ下院ニ出席ス
 ルヲ得サルニ至レル最好ノ徵証ヲ該院ニ供スルカ爲メナ
 リ蓋シ故意若クハ不注意ニ因テ召喚狀ヲ出サ、レハ正統
 ノ繼續者ハ之ヲ要求スルノ權理アレハナリ且ツ召喚狀發
 出ノ一事ノミナリ以テ斯ル場合ニ於ケル無上ノ証據ト爲ス
 一ヲ得ス何トナレハ不當ノ遲延アリ若クハ他ニ情狀ノ之
 ヲ要スル者アルキハ下院ハ要求者ニシテ該院議員タル者
 ノ誕生、父母及ヒ血統ノ正否ヲ調査審問スルヲ得可レハナ

リ
 普通ノ慣行新撰令公布ノ議ヲ發スル者ハ下院議員ニシテ
 貴族ノ位爵ヲ繼續セル者ノ上院ニ召喚セラレタルコトヲ斷
 言シ得ル迄待ツコトノ慣行ニ遵據セサリシ例証ノ甚タ稀少
 ナルハ以テ此慣行ノ當然ナルコトヲ確定スルニ足レリ
 例ハ千八百十一年ベルケレ一侯ノ長逝スルヤ其子ニシ
 テ繼續人ト評判セラレタルコロチル、ベルケレ一(通常ロ
 ード、ダルスレイト呼ハル)ノ爲メグローセスタルシア
 ニ向テ新撰令ヲ布ケリ然ルニコロチル、ベルケレ一ノ此
 位爵ヲ繼ク可キ權理ニ付テ異議起リ終ニ上院ニ於テ此
 權理ナシト決定セラレ是ヨリ先キ速了ニモ不當ノ新撰
 令ヲ出セルカ爲メ既ニ下院ノ議席ヲ失ヒ今マ復タ上院

ヨリ拒絶セラタルヲ以テ氏ハ一時ノ間全ク議院ニ出席スル能ハサリキ然レモ是レ不當ノ新撰令ヲ出セルカ爲メニ非ス若シ速了ニモ不當ノ新撰令ヲ出セルノミナラバ其前席ヲ回復シ得タルヲナラン氏ハ後子他ノ撰舉地ノ爲メニ下院ニ出席シタリ

千八百四十年ペルトシアノ代議士ロード、ストルモントノ其父卒スルニ及ンテ英ニ於テハマンسفールドノアイル爵ヲ繼キ蘇格蘭ニ於テハストルモントノ「少」スカウント爵ヲ襲フヤ下院ハ唯タ父侯ノ死ヲ聞ケルノミニテ未タ其長子ノロード、マンسفールドトシテ上院ニ召喚セラレシヲ聞カサリシト雖モ直チニ氏カ爲メニ改撰令ヲ布達セリ蓋シ蘇格蘭ノ貴族ハ英國貴族ノ如ク悉皆上

「チルテルン、ハ
ンドレツ」

院ニ出ルノ權理ヲ有スルニ非スト雖モ一貴族死スレバ長子直チニ其位爵ヲ襲ヒ別ニ權理附與ノ處置アルヲ要セス且ツ英蘇聯合規約ニ因リ蘇國貴族ハ下院ニ撰舉セラル、ヲ得サルカ爲メナリ然レモ新撰令布達ノ動議ハ大ニ異論ヲ招キ小過半数ニ因テ漸ク可決スルヲ得タリ

王室ヨリ利益アル官職ヲ受ケタル下院議員ノ議席ニ關スル法律ト慣行トヲ如何ニ説明スルモ「チルテルン、ハ」ンドレツ」ノ性質ヲ一言セズンハ終ニ説明不足ノ譏ヲ免ル、能ハサル可シ人民ニ撰舉セラレタル代議士ノ其依托ヲ辞スルハ議院古來ノ法律ニ背戻スルカ故議員ノ退職センヲ希フ者ハ法律上其議席ヲ去ラサル可ラサル官職ニ就クスト

ク、デスポロー、ボチンハムノ二三チルテルン、ハンドレッツ」若ク
ハイースト、ヘンドレドノースステッドヘムフタルムノ王土若
クハマンスタ―没収地等ノ管理職ハ之カ爲メ置ク所ノ者
ニシテ議員ノ之ヲ望ム者ニ與フ可キ官職ナリ此等ノ管理
職ハ唯タ名義ノ官職タルニ過ギズト雖モ尙ホ今マ説ク所
ノ目的ヲ達スルニ足レリ之ニ就ク者既ニ其目的ヲ達スレ
ハ直チニ之ヲ辭ス

「チルテルン、ハンドレッツ」ニ叙任スルノ權ハ之ヲ出納検査長
ニ委任ス出納検査長ハ之ヲ請フ者アル毎ニ儀式ニ從テ此
職ヲ與フ但シ之ニ叙任ス可ラサル充分ノ理由アル者ヲ除
シ例ハ腦力狂亂セル者及ヒ法律上其議席ヲ奪ハル可キ者
若クハ下院ヨリ放逐セラル可キ者ニハ決シテ之ヲ與ヘサ

富撰者調査期
日ノ終ル迄ハ
新撰令ヲ發ス
可ラス

ルカ如シ

新撰議院第一回ノ開會ニ先チ或ハ少シク後レテ則チ新ニ
撰舉セラレタル議員ノ着席後十四日內ニ若クハ死シ若ク
ハ貴族ト爲リ若クハ官職ニ就テ下院ニ欠席ヲ生スルモ撰
舉ニ關スル諸願書受理ノ爲メニ定メラレタル期日過クル
迄ハ新撰令ヲ布達ス可ラス此期日ハ開會ノ日ヨリ十四日
間トス且ツ其撰舉或ハ着席ニ反對セル請願書ヲ出ス者ア
レハ欠席ヲ生スルモ撰舉委員之ヲ審査判定スル迄ハ新撰
令ヲ公布スル能ハス何トナレハ斯ル審査ノ結果トシテ議
院ニ欠席者ナク則チ之ヲ去レリト云フ者ハ議席眞誠ノ占
有者ニ非スシテ他ニ正當ノ占有者アルヲ發見スルヲナキ
ヲ保ツ可ラサレハナリ

請願書出ルル片
ハ新撰令ヲ發
ス可ラス

然ルニ千八百五十二年ニハ此通則ノ後部ヲ放置シ官職ヲ
拜セル議員ノ爲メニ反對ノ慣行ヲ確立セリ此年全數改撰
アリ議院開會後少シクシテ新ニ施政府ヲ組成スルノ止ム
可ラサルニ至レリ健全ニシテ從來常ニ敬重セラレタル制
規則ヲ被撰權ノ有無(若シ疑ハシキ時ハ)ヲ判定スル迄新撰
令ノ頒布ヲ猶豫ス可キ制規モ此際ニ於テハ公務上多少ノ
不便ヲ生セシヲ疑フ容レヌ而モ新ニ内閣員ト爲レル者ニ
シテ其着席ニ反對セル請願書ヲ出サレタル者少ナカラス
是ニ於テ乎議長ニ訴テ其裁定ヲ請ヘルニ議長之ヲ斷シテ
曰ク撰舉請願書唯タ當撰舉ノ不當ナルヲ(則チ賄賂ノ爲メ
ニ投票ヲ得タリト云フノ類)ヲ訴フルノミニテ他人ノ爲メ
ニ議席ヲ求メサル時ハ當院ハ新撰令ヲ發スルヲ得可シ撰

舉請願書唯タ當撰ノ不當ナルヲ訴フルノミナラス併セ
テ他人ノ爲メニ議席ヲ求ムル時ハ未タ請願ノ當否ヲ判定
セザルニ方テ當院新撰令ヲ發スルヲ得ス蓋シ此場合ニ於
テハ當院ハ二人(候補人ヲ云フ)ノ内何レカ正當ニ撰舉セラ
レタル者ナルヤヲ知ル能ハサルニ因ルト今回新任執政官
ニ反對セル請願書ハ一ヲ除ケハ皆チ他人ノ爲メニ議席ヲ
求メサル者ナリシカ故直チニ新撰令ヲ發セリト雖ヒ獨リ
ケチニ對スル請願書ハ他人ノ爲メニ其議席ヲ要メタルカ
故之ヲ審査判定スル迄ハ氏ハ愛蘭檢事副長ニ任セラルト
雖ヒ新撰令ヲ出サハリキ
此新法則チ他人ノ爲メニ議席ヲ求ムルニ非スノハ撰舉請
願書受理ノ爲メニ定メタル期日盡キタル後チ直チニ新撰

令ヲ發シテ議員ノ官職ニ就ケル者ヲ再撰セシムルノ法ハ
 千八百五十八年右ニ類似セル場合ニ於テ遵據セラレタリ
 千八百十二年ヲ以テ議長ノ下セル裁定ハ撰舉委員ノ問題
 ト爲リ之ヲ以テ下院ノ再考ス可キ者ト爲スノ說起レリ便
 宜上如何ニ急速新撰令ヲ出スヲ可トスルノ說アレモ法律
 家ハ概テ下院ノ採用セル新法制定ニ反對スルヲ認承セ
 サル可ラス

新法ヲ改メ
 ト欲シテ成ラ
 ス

千八百六十七年他ノ候補人ノ爲メニ議席ヲ要ムル請願書
 ニ關シテ議長ノ定メタル區別ヲ廢棄セント企テタル者ア
 リ全年四月五日一議員アリ王室ヨリ利益アル官職ヲ拜命
 セル者ニ反對シテ他人ノ爲メニ議席ヲ要ムル所ノ請願書
 出ル時ハ之ヲ判定スル迄新撰令ヲ發スル能ハサルノ慣行

ヲ論シテ近時之カ爲メニ起レル惡例則チ一執政官ハ其議
 席ヲ要ムル請願書出タルカ爲メ(此請願書ハ後チ出願者之
 チ願下ケタリ)下院ニ出席スル能ハサリシ事實ヲ舉ケ又動
 議ヲ起シテ曰ク現行法ヲ改テ請願書受理ノ爲メニ定メタ
 ル期日ノ既ニ尽クルト未タ尽キサルト又議席ヲ要ムル請
 願書ノ出ルト出サルトチ問ハス苟モ當院議員ニシテ王室
 ヨリ利益アル官職ヲ拜スル者アレハ直チニ新撰令ヲ發ス
 ルヲ得セシム可シト此動議ハ遂ニ討議ノ問題ト爲ラサ
 リシト雖モ老練ナル一議員之ヲ評シテ曰ク動議者ハ未タ
 此事項ニ關シテ當院ノ規則ヲ變更スルニ足ル可キ理由ヲ
 說カス何トナレハ一人ノ所有物ト爲ル可キ者ハ之ヲ他人
 ニ與フルヲ得サレハナリ且ツ内閣執政官ノ議席ヲ得サル

一二週日若クハ三週日ニ及フノ例証ハ極テ少ナシ(中略)大藏尙書其他議席ヲ去ラサル施政府ノ劣等官ニシテ執政官ノ欠席中之ニ代テ必要ナル事務執行スルヲ得可キ者多シ

第二章 議員ニ關スル執政官ノ職任

余輩ハ是レ迄執政官カ王室ノ權勢ト行政府諸部局ノ措置トヲ代表シ又多力ニシテ莊嚴ナル議會ノ意見ト一致シテ其擔任セル國務ヲ執行センカ爲メ由テ以テ議院ニ入ルノ法道ヲ論セリ

余輩ハ是レヨリ議院ニ關スル執政官ノ職任ヲ指示シ併セテ執政官全体ニ屬スル所ノ職分ト格段ナル執政官ノ擔任ス可キ職分トヲ説明セサル可ラス

第一節 執政官全体ノ職分

余輩今マ本題ヲ論スルニ方リ之ヲ分テ下ノ數項ト爲スヲ得可シ(甲)陛下ノ演説及ヒ之ニ對スルノ答詞(乙)議案ノ提出及ヒ立法上ノ管理(丙)事務全体ノ監視及ヒ管理(丁)執政官ハ黨派ヲ根據トシテ互ニ一致協力セサル可ラス反對黨モ亦然リ(戊)執政官若クハ在野議員ニ對スル質問及ヒ執政官ノ説明(己)調査掛ノ設置及ヒ管理

(甲)陛下ノ演説及ヒ之ニ對スルノ答詞

陛下ノ演説

近時憲法上ノ慣行ニ依レハ議院ニ關スル執政官第一着ノ職分ハ每會ノ始ト終トニ於テ至尊ノ演ヘラル可キ或ハ至尊ノ爲メニ演フ可キ演説文ヲ草定スルニ在リ
議院ハ實ニ邦家ノ一大議會ナルカ故其初メテ會集スルニ

方テ至尊親ヲ之ニ臨御スルヲ以テ常例トス然レモ議院ヲ開ケル原由ヲ説明スルハ古ヨリ陛下ノ重立タル執政官即チ通常大法官ノ職分ト爲レリ
召集ノ原由ヲ説明シテ儀式ヲ整フルハ大法官ノ職分ナレモ陛下モ亦其信實ナル議院ニ向テ謝勞祝賀注意等ニ關スル二三ノ言辭ヲ演ヘ給フコアリ是レ直チニ至尊ノ御心ヨリ出ルト了解セラル、者ニシテ儀式上職務上ヨリスル執政官ノ演說ニ代ハル可キ者ニ非ス千六百三年ジョームス王第一次ノ議院記事ニ云ハスヤ陛下ノ演說既ニ終レル後チ大法官ハ儀式ニ從テ簡短ナル演說ヲ爲セリト然レモ他時ニ於テジョームス一世ハ大法官ノ義務ヲ省略シ已カ演說ヲ以テ召集ノ原由ヲ議院ニ通知スルノ具ニ供セリ

ジョーレス一世ノ位ニ登ルヤ其第一次ノ議院開場ニ際シテ下ノ如キ儀式ヲ舉行セリ王ハ玉椅ニ倚ラセラレ上院議員ハ長衣ヲ着シ下院議員ハ玉座ヲ下ル一段ニシテ整列ス陛下此時王經文ヲ誦ス可キヲ命シ誦經ノ間ハ其冠ヲ脱シテ玉椅ノ傍ニ跪キ給フ誦經既ニ終ルヤ陛下ノ演說アリ以テ議員召集ノ原由ヲ説明ス此演說ハ父王ノ虛飾多キ演說ニ比スレハ簡ニシテ要ヲ擧ケタリ其結末ニ曰ク余ハ長キ演說ニ堪ヘサルカ故前人ノ習行ニ倣ヒ大法官ヲシテ余ニ代テ諸事ヲ説明セシメント欲シ今マ之ニ下スニ演說ノ命ヲ以テセリ大法官今日ノ演說ハ他日述フル所ノ何レノ大事ヨリモ儀式上一層重要ナル者ナリト是ニ於テ大法官ハ數辭ヲ演ヘテ議員召集ノ理由ヲ説明ス

王政復舊後モ至尊親ヲ其希望意見ヲ陳述セサルニ非スト
 雖モ大法官ヲシテ議員召集ノ原由ヲ通知セシムルノ舊慣
 ハ依然之ヲ遵守セリ議院ニ對シテ至尊親ヲ朗讀ス可キ演
 說文ヲ認メタルハ必スチアールレス二世ヲ初トス可シ千六百
 八十年十月二十一日兩院議員ヲ召集セルニ方リ王之ニ言
 テ曰ク我カ貴族及ヒ縉士余ノ今々諸士ニ告ク可キ者多シ
 余ハ茲ニ陳述スルコトヲ要スル所ノ者ヲ悉皆記憶ニ委ヌル
 能ハサルカ故諸般ノ事項ヲ此紙上ヨリ朗讀ス可シト是ヨ
 リ陛下ノ演說アリタレモ常慣ニ反シテ大法官ノ演說ナカ
 リキ

千六百八十八年ノ革命後陛下ヨリ無筆記ノ演說アリシハ
 唯タ一回ニ過キス其他ハ皆ナ筆記セル演說文ノ朗讀ナリ

執政官ハ陛下
 ノ演說ノ責ニ
 任ス

キ此演說ハ陛下親ラ之ヲ爲スコトアリ大法官陛下ノ爲メニ
 又陛下ノ特命ニ因テ之ヲ爲スコトアリ其御不在ニ方テハ陛
 下ノ設定セラレタル代理委員之ヲ爲スコトアリ此演說ハ何
 人ノ手ニ成ルヲ問ハス之ヲ認テ時ノ内閣ノ意見ト倣シ平
 常ノ如ク自由ニ之ヲ論評非難スルコト既ニ不易ノ慣行ト爲
 レルノミカ實ニ認承セラレタル憲法上ノ權理ナリ
 ウヰリアム三世ハ獨立不倚ノ君ニシテ其演說ノ他人ノ手ニ
 成ルコトヲ許サ、リシト雖モ大法官サマルスノ智力閱歷ヲ利
 用シ之ヲシテ莊麗敏捷ナル文辭ヲ以テ己カ高尚ナル思慮
 目的ヲ發露セシムルニ至テハ毫モ躊躇スル所ナカリキサ
 マルス職ヲ退クノ後ト雖モ王ハ尙ホ其筆ヲ用ヰテ演說文ヲ
 草セシメタリ

爾後幾ノト不易ノ慣行ト爲レル措置ノ濫觴ハ千七百一年ノ議院開場演說文ニ於テ吾人之ヲ見ル狡獪ヲシテ老練ナルサンドンデルランド侯(其不幸ナル治世ノ大半間シエームス二世ノ重立タル顧問ト爲リ又千六百九十七年ニ於テ政治世界ヲ退ケル迄ハウヰリアム王ヲ左右セント企タル人ナリ)ハ新議院ニ對スル方法ニ付キ其意見ヲロード、サマレスニ告ンカ爲メ之ニ書ヲ贈テ曰ク陛下ノ爲メニ計ルニ既ニ草定セル演說文ヲ内閣ニ示サンヨリ寧ロデヴランシー侯及ヒヴエルトンノ如キ内閣員二名ニ命シテ之ヲ起草シメ私ニロード、サマレスト商議セシムルヲ可ナルニ似タリトウヰリアム王ハサンドンデルランドノ意見ヲ聞テ其已レニ便利ナル所ヲ取リ千七百一年十二月三十一日ノ議院開場演說文ハ當時頗ル

特別演說ノ
演說ノ
特別演說ノ

顯要ノ職ニ居レリト雖ヒ執政官タラサリシロード、サマレスニ命シテ之ヲ草セシメタリ史家バルテット之ヲ評シテ曰クウヰリアム王否ナ古來諸君主カ其民ニ向テ爲セル演說中モ一之カ右ニ出ル者ナカル可シト
千七百十一年アンチ女王ハ保守黨ノ參議者ニ懲懲セラレ議院開場演說ヲ以テ大ニ其將軍ニシテ向ニ改進黨ノ執政官タリシマルボロー侯ノ行爲ヲ駁撃スルノ具ニ供セリ侯ノ近時歐陸ニ於テ行ヘハ戰爭ハ朝廷ト人民トノ歡心ヲ失ヘリ其演說ノ初ニ於テ陛下演テ曰戰ヲ喜フ者ノ術數ヲ施スニモ拘ハラズ今ヤ既ニ和平條約ヲ開クノ時ト所トヲ確定シテ告クルヲ得ルハ余ノ歡ヒニ堪ヘサル所ナリト下院ハマルボロー侯ノ行爲ヲ非トスルノ情感特ニ切ナ

リシヲ以テ陛下ノ演說中右等ノ言辭アルヲ喜ヒ所謂ル(私計ノ爲メニ戰ヲ喜フ者ノ權謀術數)ニ關シ答詞中故ヲ一言ヲ加ヘテ之ニ應シタリ

千七百六十年ジョージ三世ノ即位後初テ演說シ給ヘル演說文ハ憲法上ノ翼賛者ノ起草シタル者ニ非ズシテ前ノ大法官ハードウキックト王ノ寵臣ピョート侯トノ手ニ成リ王親ラ之ニ加フルニ其英人トシテ生レ英人トシテ教育セラレタル旨ヲ記シタル一節ヲ以テセル者ナリキ然レモ内閣會議ニ於テ王ノ認許ヲ得ンカ爲メ此草案ヲニューカスル侯ニ回附セリ聞ク此際王ハ向ニ英國ノ關與セル殘酷且ツ多費ナル戰爭ヲ論評セル數語ヲ加ヘント企圖シタレモ該戰爭ノ責ニ任セルピットハ頻ニ王ニ說テ漸ク之ヲ刪除スルヲ得タ

リト

今日憲法上ノ慣行ニ依レハ至尊ノ議院ニ於テ演フ可キ演說案ハ大宰相自ラ之ヲ起草シ或ハ他人ニ訓示命令シテ之ヲ起草セシメ而ル后ヲ内閣全体ノ認許決定ヲ得ンカ爲メ之ヲ全内閣員ニ回附シ而ル后ヲ陛下ニ奏シテ其考定裁許ヲ請フ

陛下ノ演說文
ヲ起草スル者
ノ注意

至尊ノ演說文ヲ草スルニハ勉テ議院ノ異議ヲ招キ激烈ナル討論ヲ誘起シ若クハ王室ト立法部トノ間ニ生存ス可キ調和ヲ減少スルカ如キ言語ナカラントニ注意セサル可ラス議院開場ノ演說ハ閉會後生起セル大事件ノ要領ヲ説明シ執政官ノ議員ニ下附セント欲スル措置ノ大要ヲ指示ス可シ然レモ議院ハ其見聞スル所ノ万事ヲ討議ス可キ者ナ

ルカ故議院ノ自由ニ討議スルヲ得サル者ト之ヲ討議スレ
 ハ其盡ス可キ敬禮ヲ失スル者トハ至尊決シテ之ヲ演述ス
 可ラズ陛下ノ演說ハ決シテ崩御スル外國ノ君主ニ及ハサ
 チノ慣行アルハ蓋シ之カ爲メニシテ崩御セル外國ノ君主
 ル提出シテ議員ヲシテ之ヲ討議セシムルカ如キハ能ク他
 國ノ君主ニ盡ス可キ敬禮ヲ守ル者ト云フヲ得サレハナリ
 加之ナラス閉會其他ノ演說ニ於テ至尊ハ未タ制規ニ從テ
 奏上セサル議案決議若クハ議院ノ演說等ニ關スル言語ヲ
 避ケサル可ラス

千八百六十四年大宰相ロード、バーメルストンハ至尊ノ演
 說中古來用サ來レル諸外國ヨリ親交ノ保証ヲ受ケタリト
 ノ字句ヲ刪除セル所以ヲ説明シタリ其言ニ曰ク斯ル無味

ノ字句ヲ刪除シタルハ今回ヲ以テ始トス向後モ再ヒ之ヲ
 用ウルヲナカル可シ何トナレハ親交ノ保証ハ決シテ之ヲ
 與ヘ又受クルヲナキ者ナレハナリ所謂ル親交ノ保証ヲ受
 ケクリトハ至尊ハ外國ト善キ關係ニ於テアリシヲ表ス
 ルニ過キス外交果シテ親密ナリシナラハ明ニ之ヲ叙述ス
 ルコソ善ケレ右ノ如キ言語ハ實況ヲ説明スル所以ニ非サ
 ルナリト

往時大宰相ハ公然上下兩院ニ向テ朗讀スルノ前日「コックピ
 ット」則チ大藏省「コックピット」ハ闘雞場ノ義ニシテ今ノ大藏省
 ハ往時ヘンリー八世雞ヲ闘ハシメンカ爲メニ築造シ後チ
 チャーレス二世之ヲ大藏省ノ用ニ供セル者ナリ故ニ此名アリ
 リニ於テ至尊ノ演說文ヲ政府ノ保助者ニ讀ミ聽カスルノ

慣行アリシガ此慣行ハ千七百九十四五年ノ頃ニ及ンテ廢棄セラレ爾後ハ公然朗讀スルノ前夜上下兩院諸首領ノ宴會ニ於テ該演說文ヲ兩院中政府ノ重立タル保助者ニ讀ミ聽カスルノ習ヲ生セリ

陛下ノ演說ニ對スル答謝ノ奏議

會期ノ初ニ於テ兩院ノ爲ス可キ第一ノ行事ハ陛下ヨリ下レル演說ニ對シ答謝ノ奏議ヲ議定スルニ在リ兩院ヨリ奏議ヲ上テ陛下ノ演說ニ答謝スルノ例規ハ千七百二十六年カ、ロベルト、ワルポール大宰相タルニ際シテ起リ爾後必ス之ヲ遵奉スルコト爲レリ

千六百八十八年ノ革命前ハ議院ニ與フルニ充分其包蓄スル所ヲ知ルノ機會ヲ以テセンカ爲メ次日迄陛下ノ演說ノ討議ヲ見合ハスルノ慣行アリシカ爾後ハ勅語下ルノ日直

答謝ノ奏議ヲ草定スルノ方法

チニ之ニ對スル奏議ヲ提出スルコト爲レリ蓋シ之ヲ討議スルノ前ニ於テ演說ノ綱目ヲ知ラント欲セハ其前夜コクピトニ出席スルモ新聞紙ヲ見ルモ豫メ之ヲ知ルヲ得可キ方極法テ多ケレハナリ該演說文ノ要領ハ通常其朗讀セラ

ル可キ日ノ朝ニ於テ新聞紙上ニ現出スル者トス千八百二十二年下院ニ於テ陛下ノ演說ノ討議ニ二日間ノ猶豫ヲ與ヘント企タル者アリシカ終ニ成功セサリキ
往時ニ在テハ至尊ノ演說常ニ長フシテ諸般ノ趣旨ヲ包蓄セシカ故之カ答詞ヲ議定スルニ多少ノ猶豫ヲ要シモシタレ議院政治法ノ確立以來ハ陛下ノ演說ヲ待スル稍ヤ其法ヲ異ニシ該演說中可否ノ疑フ可キ事項アルニ方リ議院ハ必スシモ答謝ノ奏議ニ於テ其意見ヲ速フルヲ要セス立法

府ノ議員中其意見ヲ異ニスルコトアル可キ事項ハ之ヲ他日ニ讓テ審案スルヲ得ルノ慣行ヲ生セリ

陛下ノ演説ト之ニ答謝スルノ奏議トヲ以テ王室ト議員トノ間ニ交換スル所ノ儀禮ト視做スハ既ニ確定セル法規ト爲レリ故ニ奏議ハ唯タ會期ノ初ニ於テ至尊ヨリ下レル第一ノ勅語ヲ敬重スルノ衷情ヲ表スルニ過キスシテ議員ハ之カ爲メ王室ニ對シテ格段ノ責任ヲ負擔スルニ非ズ唯誠心實意以テ演説中ニ敘述セラレタル事項ニ審案詳考ス可キヲ約スルノミニ二者ノ性質既ニ此ノ如クシテ演説ト云ヒ奏議ト云ヒ人ノ之ニ向テ異議ヲ容ル、者ナキ様注意シテ起草セサル可ラス奏議ヲ起草スル者ハ反對黨ト雖モ之ニ向テ修正説ヲ起ス能ハサル様注意セサル可ラス

奏議ニ對スル
修正説

例ハ千八百三十一年十二月六日下院一般ノ意望ニ從ヒ出納検査長ハ奏議中某所ノ文意ヲシテ一層漠然クラシメンカ爲メ修正動議ヲ起セリ讀者須ラク知ル可シ千八百五十二年ニハ或ル政治上ノ疑問ニ付テ意見ヲ明言スルヲ避ンカ爲メ頗ル奏議ノ措辞法ニ注意シタル例証アルコトヲ讀者又須ラク參觀ス可シ上院反對黨ノ首領タルロイド、デルビーハ該事項ニ關シテ叙列セル文字ハ之ヲ可トシタレモ事項其者ハ將ニ之ヲ答メントシタルコトヲ至尊ノ演説ニ對シテ答謝ノ奏議ヲ上ルハ固ト敬禮上ノ事ナルカ故奏議中重大ナル政治上ノ目的ヲ包藏シ而モ之ヲ達スルヲ得可キ勢アルニ非スンハ又奏議中反對黨ノ決シテ同意スル能ハサル斷言アルニ非スンハ之ニ向テ修正説ヲ

出サ、ルノ慣行漸ク生シタリ

然レモ執政官或ハ初テ議院ト會スルニ方リ其公行ヲ規整
セシカ爲メニ提出セル或ル大事件ニ付テ議院ノ確定動カ
ス可ラサル意見ヲ聞クヲ以テ其職分トシ國家ノ爲メニ肯
要ナリトスルヲアリ又反對黨或ハ會期ノ初ニ於テ施政府
ハ議院ノ信任ヲ有スルヤ否ヤヲ決定セシカ爲メ奏議ニ對
シ修正動議ヲ起スヲ以テ其本分ト考テルヲアリ然レモ是
レ幾ント絶無稀有ニ稱ス可キ異例ナリ

千八百四十年一月十六日^少トリア陛下ノ遠カラスニ
テアルベルト殿下ト結婚セラル可キヲ包蓄セル至尊
ノ演說ニ對シテ上ル可キ上院ノ奏議ヲ議スルニ方リウエ
リントシ侯ハ修正動議ヲ起シテ殿下ノ名ノ前ニ新教奉

奏議ノ發議者
及ヒ贊成者

信者ト云ヘル文字ヲ加ヘンコト主張シタリ此修正說ハ
先例ニ合スルコト明カナリケレハ大宰相ノ之ニ反對シタ
ルニモ拘ハラズ終ニ可決セラル修正說行ハレタルノ一
事ハ議院ノ内外ニ於テ大ニ議論ヲ誘起セシト雖モ尙ホ
影響ヲ政治上ニ及ホスニ至ラサリキ

下院ノ首領ハ至尊ノ演說ニ對スル奏議ノ發議ト贊成トヲ
以テ其名餘リ議院ニ知ラレサル代議士ニ委ヌルヲ常慣ト
ス是レ巧ニ顔見セノ役ヲ務ムルヲ得可キ代議士ヲシテ
議院ノ注意ヲ惹カシムルノ良法ト云フ可シ下院ハ常ニ名
ヲ議院ニ賣ラント欲スル新候補人ヲ善待スルノ意向アリ
且ツ該演說ハ多ク國家重大ノ事項ヲ包藏スルカ故末タ經
験ヲ積マサル討論者ヲシテ初テ其意見ヲ吐露セシムルコ

於テ異常ノ便利アリトス余輩ハ茲ニ一言ス可シ下院規則第三十七條ニ依リ斯ル動議ノ發言者ト賛成者トハ禮服着用ニテ出席スルヲ要スルヲナ
 此職任ニ當ル可キ人物ヲ撰定スルニ際シ下院ハ通常土地ニ關スル利害ヲ代表スル者ヲ舉テ奏議ノ發議者ト爲シ通商貿易ノ事ニ明カナル者ヲ舉テ之カ賛成者ト爲ス此点ニ於テ上院ハ別ニ一定ノ慣行ヲ守ラス
 演說ニ對シテ起草ス可キ奏議ノ形式及ヒ順序ト奏議ニ向テ修正動議ヲ起スヲ得可キ場合トハメーノ著書議院慣行論之ヲ說シテ詳明ナルガ故茲ニ說明スルヲ要セス
 議院ハ未ダ該奏議ニ一致セザル間ニ於テ疑ヲ執政官ニ質スチ得可ク文書ノ下附ヲ請フカ如キ尋常一樣ノ奏議ヲ通

過スルヲ得可シ

(乙) 議案ノ提出及ヒ立法上ノ管理

執政官ノ義務

陛下ノ演說中特ニ議院ニ指示スル所ノ事務ニ加フルニ其以テ國家ノ爲メニ必要ナリトスル万般ノ事務ヲ考案シテ之カ實施法ヲ計畫スルハ執政官ノ權理ニシテ亦義務ナリ
 議案ノ特ニ陛下ノ權理特權ニ關係スル者ハ妄ニ之ヲ討議スルヲ得ス陛下其演說ニ於テ汎然該案ノ要旨ヲ議院ニ通知シ以テ其注意ヲ促スカ如キハ未ダ之ヲ討議スルノ根據ト爲スニ足ラス陛下ノ或ル事項ニ關スル利害等ヲ議院ノ意見ニ任セント欲セラレタルヲ証セント欲セハ特ニ陛下ノ通知其花押ヲ捺セル文書ナルト執政官ニ傳へ給ヘル口語ナルトヲ問ハスヲ得サル可ラス此通知ハ該案下院ニ

王者ノ權理ニ影響スル所ノ議案

下附セラル、ノ前ニ於テ之ヲ與フルヲ要ス此類ノ議案若シ内閣ヨリ出テスシテ在野議員之ヲ出サントスルキハ下院ハ該案提出ノ前ニ方テ先ツ書ヲ陛下ニ上テ之ヲ討議スルノ許可ヲ請ハサル可ラス然レモ議院ノ慣行ニ依レハ未ダ必スシモ第三議會前ニ於テ此許可ヲ請フヲ要セサルカ如シ

執政官ハ立法上ノ責ニ任ス

近時憲法上ノ慣行ニ依レハ執政官ハ何等ノ法律ニテモ國民ノ幸福ヲ進メ國家諸種族ノ政治上若クハ社會上ノ進歩ヲ圖ルカ爲メニ要用ナリトスル所ノ者ヲ議院ニ德憑スルトニ對シテ責任ヲ負擔ス是レ其兩院ニ於テ卓出セル位地ヲ保ツカ爲メニ生スル自然ノ結果ニシテ事ノ毫モ怪ムニ足ラサル者ナリ見ヨ執政官ハ全体トシテハ王室ノ權勢ヲ

代表シ兼テ行政府ノ諸部局ニ居ルカ爲メ得可キ智慮經驗ヲ集テ之ヲ使用シ得ルノ便ヲ有スルニ非スヤ又議院ナル多數ノ首領トシテハ全國民ノ上ニ非常ノ勢力ヲ使用シ得ルニ非スヤ

然レモ重要ナル立法事務ハ執政官皆ナ之ヲ立案シ其議院ヲ經過スル亦執政官ノ尽力ニ因ルノ大義ヲ確立シタルハ一朝一夕ノ業ニ非ス多クハ千八百三十二年ノ改革案通過後ニ成レル者トス

附言 例ハ當時政府ト反對ノ位地ニ立テルグレ一侯ハ千八百二十九年ニ於テ執政官陛下ニ勸ムルニ或ル事項ヲ議院ニ附シテ審案セシム可キヲ以セハ此上言ニ對シテ責任ヲ負擔ス然レモ其之ヲ議院ニ提出スルニ方テハ

執政官トシテ提出ノ責ニ任スルニ非ス唯々議院ノ代議士トシテ之カ責ニ任スルノミナラシラ論シタリ是レ今日ニ在テハ決シテ世人ノ贊成ヲ得可ラサル議論ナリ往時ニ在テハ執政官ハ唯々其行政職分ヲ尽スト其政策ヲ實行スルニ必要ナリト考フル所ノ措置ニ議院ノ同意ヲ得ルトノ二者ニ向テ責任ヲ負擔スルニ過キサリシカ執政官ノ負擔ハ逐日愈々増加ノ終ニ公利進歩ノ爲メニ要用ナル者ハ皆ナ之ヲ議案ニ編成シ議院ニ下院シ又在野議員ノ粗糲不充分其他非難ス可キ議案ヲ提出スルニ遇ヘハ議院ヲ誘導シテ之ヲ修正シ或ハ廢棄セサル可ラサルニ至レリ其是ニ至レル所以ノ原由亦多シ今マ其一斑ヲ舉クルハ曰ク人民ノ政治上ノ疑題ニ注意スルノ傾向ハ近年ニ及シテ大

ニ増加シ從テ我カ政治上并ニ社會上ノ制度ヲ進歩セシメシカ爲メ秩序アリ改進セル法律ヲ制定スルヲ必要ナルニ至レルナリ曰ク文化ノ進歩ニ因テ生スル所ノ需求ニ應シテ法律ヲ改良スルヲ必要ナルニ至レルナリ曰ク在野議員ニシテ議案ヲ提出シ議院ヲ通過セシムルヲ困難ナルナリ

附言 施政府員ノ議案提出ヲ請フニ方テ可否ヲ衆意ニ問フハ議院慣用ノ禮式ニ背戾ス然レモ強チ其例証ナキニ非ス嘗テ愛蘭ニ關スル政府ノ議案ノ提出ニ抗スル者有テ數々決議ヲ取レルカ如キハ其一例ナリ余ハ茲ニ一言ス可シ政府ノ議院ニ提出シ又之カ可決ノ責ニ任スル議案モ内閣執政官ノ自ラ提出スルヲ要スルニ非ス施政

府ノ屬官ニ委ネテ之ヲ提出シ得可キヲ例ハ千八百三十一年英國議院改革案ハ當時執政官タラスノ劣等ノ政務官アリシロード、ジョンラッセルヲノ之ヲ下院ニ提出セシメ千八百六十六年愛蘭撰舉法改革案ハ愛蘭尙書ナリシト雖モ内閣執政官ナラサルチユタス、フナルステキユーチノ之ヲ提出セシメ又千八百六十七年ロード、ナースハ同様ノ場合ニ於テ同様ノ議案ヲ提出シタリ

執政官ハ議院特ニ下院ニ對シ直接ノ責任ヲ負フテ右等ノ高貴ナル職務ヲ執行ス蓋シ執政官ハ其全力ヲ傾ケテ陛下ニ事フ可キ者ニシテ若シ程能ク之ヲ執行スルニ要用ナル才力ナキコスル職任ヲ負擔スレハ正シク其罰ヲ受ク可キ者ナルカ故其行爲万般ノ巧拙善惡正否ニ付キ下院ニ對シ

重大ナル立法
事務ハ執政官
皆之ヲ創起
ス

テ責任ヲ負擔ス可キ者トス

重大ナル事務ノ創起ニ關シテ執政官ノ職任ノ増加スルニ從ヒ議院ノ之ヲ論評修正若クハ拒絕スルノ區域モ亦之ヲ擴張シテ議院設へ或ル議案ニ反對スレハ迎之ヲ以テ直チニ廣ク執政官ヲ信任セサルノ証ト爲サ、ルニ至ラシメサル可ラス又在野議院ニ與フルニ苟モ王室ノ特權ト議院ノ慣行トニ因テ置カレタル制限ヲ侵スニ非ラズンハ何レノ疑問コテモ議院ノ注意ヲ惹ク所ノ者ニ付テ其意見ヲ提出スルノ自由ヲ以テセサル可ラス

讀者須ラク記ス可シ重大緊要ナル事件ハ行政部皆之ヲ提出スルノ制規ハ近年ニ及ンテ益々世人ノ同意ヲ得タルヲ第一、第一次ノ議院改革前ニ在テハ反對ノ例証極テ多カリ

シト雖也今日若シ此ノ如キ例証ヲ現出スルコトアラハ是レ内閣既ニ下院ニ對スル真誠ノ關係ヲ失シテ頗ル微弱ニ趣ケル徵証ナリ近時ノ慣行ニ依レハ大事件ノ行フ可キ者アル毎ニ議院ハ直チニ政府ノ之ヲ擔當センコトヲ要ム是レ決シテ議院ノ懶惰ナルカ爲メニ非ス此ノ如クセサレハ重大ナル事件ハ概テ議院ヲ通過スルニ充分ナル動力ヲ得ル能ハサルヲ知ルカ爲メナリ又是レナクンハ事件ヲ有効ナラシメ其性質ヲ全フセシムル能ハサル所ノ目的之一致ヲ得難キヲ知ルカ爲メナリ上下兩院ノ政府ヨリ提出セル議案ニ反對ノ修正ヲ加フルカ爲メ議案若クハ議院ニ對スル執政官ノ位地ニ及ホス所ノ影響ハ固ヨリ議案ノ大小輕重ニ因テ多寡ノ別ナキヲ得ス

執政官ノ提出
シタル議案ニ
反對ノ修正ヲ
加フ

奇ナル哉
此トヤ

千八百三十年内務卿サー、ロベルト、ピールハ贖造罪ニ關スル諸法律ヲ統合修正セント欲シテ一議案ヲ提出シタルニ贖造罪ニ向テ死刑ヲ廢ス可シトノ說ヲ提出スル者アリ終ニ氏カ意見ニ背テ之ヲ修正ス是ニ於テ平氏ハ該案ニ對シ責任ヲ負擔スルコトヲ謝絶シ反對議員ノ一人ナルサー、ジームス、マッキントッシュ之ヲ引受テ下院ヲ通過セシムルヲ得タリ然レモ上院ハ之ヲ修正シテ政府ノ意見ニ合ハシメタルカ故ビール再ヒ之ヲ擔當シ上院ノ修正ニ下院ノ同意ヲ得テ法律ト爲セリ

千八百五十二年大宰相ロード、ジョン、ラッセルハ地方民兵ニ關スル法律ヲ修正セント欲シテ議案提出ノ動議ヲ起セルコトロード、パーメルストン地方ノ文字ヲ廢ス可シトノ

修正説ヲ出シテ多數ノ賛成ヲ得タリ大宰相ハ之ヲ視テ
 下院ハ執政官ノ重要ナル行政上ノ改革ニ關スル計畫ヲ
 提出スルヲ許サス却テ執政官ノ未ダ用意セサルノミカ
 之ニ付テ毫モ知ル所ナク又之ニ向テ責任ヲ負擔スル
 ヲ希望セサル或ル他ノ議案ノ提出ヲ主張セント決心シ
 タル者ト倣シ該案提出ヲ謝絶シ後チ三日内閣執政官皆
 ナ辭表ヲ上レリ是ニ於テ平下院ハ暫ク休會シ新内閣員
 ナシテ議案ヲ編制シ提出スルノ用意ヲ整ヘシム

修正ノ許ス可
 キ者

今日立法上ノ事件ニ於テ執政官ニ歸屬スル責任ノ性質ト
 其廣袤トハ左記ノ先例ヲ參考セハ一層明瞭ナルヲ得ン
 千八百四十一年ロード、ジミンラッセルハ信任欠乏ノ議ヲ起
 セルサ、ロヘルト、ビールニ對シテ政府ヲ防護スルニ方

リ政府ヲ視テ其提出スル悉皆ノ議案ヲ通過ス可キ者ト
 倣シ若シハ往日執政官唯タ施政事務ノミヲ擔當セル時
 ト同シク事々皆ナ下院ノ賛成保助ヲ得可キ者ト倣スノ
 糺纏ヲ辨シタリ氏又云ヘルアリ諸君若シ一方ニ於テ執
 政官ノ負擔ヲ増加シ之ニ要ムルニ其以テ重要欠ク可ラ
 スト爲ス所ノ議案ヲ通過センコトヲ以テセハ他方ニ於テ
 ハ審論熟議ノ勢力ヲ等閑視セス當院議員ト吾人執政官
 トニ與フルニ充分其意想ヲ吐露スルノ餘地ヲ以テセサ
 ル可ラス寔ニ此ノ如クセハ必ス或ル議案ヲ改更シ或ル
 議案ヲ廢棄スルコトアル可シ是レ政府ノ提出セル議案ト
 雖モ未ダ必スシモ多數ノ賛成ヲ得テ可決セラルハニ限
 ラサル所以ナリト

千八百四十四年サー、ロベルト、ピール内閣ノ製造所議案ヲ出スヤ下院ハ執政官ノ頻ニ之ニ抗抵セルニモ拘ハラズ原案ニ勞役時間十二時トアルヲ減シテ十時間ト爲スノ説ヲ可決スルヲ三回ニ及ヘリ然ルニ執政官ハ前回ト其要趣ヲ同ウセル動議ヲ起シ四タヒ論場ニ出テ七名ノ多數ニ因テ前回ノ決議ヲ顛倒スルヲ得爲メニ該案ヲシテ頗ル困難ノ位地ニ陷ラレメタリ爾後少シクシテ内務卿サー、ジョー、ムス、グラハムハ己ガ爲メ同僚ノ爲メ下院ニ告テ曰ク吾人ハ之カ爲メ吾人ノ以テ公利ニ反對スト爲ス所ノ者ヲ主張センコトヲ要メラル、ニ非スンハ當院ノ決議ヲ承受スルヲ以テ執政官タル者ノ義務ト認ム當院ノ製造所ノ勞役時間ヲ十時ニ限ル可シトスルノ決議

ニ關シテモ吾人ノ見ル所ハ右ノ如クナルカ故一ヒ該案ヲ引テ更ニ他案ヲ提出セント欲ス此新案ハ既ニ當院ノ承諾ヲ得タル諸種ノ個條ヲ包蓄スト雖モ勞役時間ハ舊ニ依テ十二時ヲ取ル可シトロード、ジョン、ラッセルハ此動議ニ反對シテ議院若シ政府ヲ顛覆スルノ決心アルニ非スンハ之ヲシテ止ムヲ得ス既ニ不可ト明言セル個條ヲ包蓄スル所ノ新議案提出ヲ認許セシメント欲スル執政官ノ舉動ヲ非難シ其之ヲ改メラレシコトヲ請ヘリ氏ハ政府ノ万般ノ事件皆ナ其初メ提出シタル時ノ形貌ニ於テ施行セサル可ラスト考定スルヲ以テ公利ヲ企圖スル所以ニ非スト爲シ又議員ノ之カ情感ヲ熟知スル者甚タ多キ所ノ人民全体ニ關スル立法事務ニ付テハ下院モ亦多少

其立法權力ヲ保持センヲ希望セリサ、ロベルト、ピール之ニ答テ曰ク多クノ大事件ニ於テハ政府モ立法府ノ意見ニ從ハサル可ラス又事ノ左迄重要ナラサル者ト大害ノ之カ爲メニ生ス可キ恐ナキ者トニ於テハ執政官ハ其進退ヲ是ニ繫クヲ明言ス可ラサルヲ固ヨリナリト雖此場合ニ因テハ其保助者ノ明言セル意見ニ對シテ適宜ノ敬重ヲ置カサルヲ得サルヲアリ執政官斯ル讓與ヲ爲スニ方テハ其意見ヲ棄テ、多數ノ意見ニ從フモ之ヲ罵詈ス可キニ非スト凡又其下院ニ向テ上ニ記シタル非難ス可キ個條ヲ包蓄セル新議案ノ受理ヲ請フ所以ヲ辨シテ曰ク憲法上ノ慣行ハ數々立法事務ヲ審案スルノ機會ヲ供スルニ在テ此過半数一二回ノ決議ヲ以テ終極ノ

決議ト爲スニ在ラス故ニ議論分裂シ若クハ幾ント等分スルニ方テ決議ヲ再考スルノ機會ヲ與ヘンカ爲メ明文ヲ揭テ議事ニ數種ノ段階ヲ置クト是ニ於テ平初ノ議案ヲ引テ新案ヲ提出シタルニ該案調査委員會ニ於テロイド、アッシュレー再ヒ勞役時間減縮ノ動議ヲ起シタリ然レモサ、ロベルト、ピール此動議若シ可決セラレハ執政官皆ナ辭職ス可キヲ演ヘタルカ爲メ大多數ニ因テ廢棄セラレ

千八百六十六年五月二十八日ラッセル侯ノ執政ニ際シ新改革案ニ一條ヲ加ヘテ賄賂ノ行ハル、ヲ制ス可シトノ動議ヲ起ス者アリテ終ニ執政官ノ意見ヲ破レリ執政官ハ其敗北セルニモ拘ハラズ改革案ヲ主張セント決心シ

賄賂ニ關スル條章ハ其勳議者ニ委テ之ヲ調製セシメタルニ反對黨ハ此條章ヲ設クルノ最良法ヲ考案スルハ執政官ノ職分ナリ迎之ヲ非難セリ爾後幾何ナラス執政官ハ再ヒ改革議案ニ敗北シテ辭職シ該案爲メニ廢棄セラレタリ千八百六十七年デルビー内閣ノ提出シタル英國撰擧法改革案ニ對セル下院ノ措置ハ議院内閣ヨリ下附セラレタル議案ヲ變更スルコ方リ執政官ノ承諾スルヲ得可キ變更ノ程度ノ一例ト爲スニ足レリ蓋シ當時ノ内閣ハ其黨與下院ニ少數ナルニ方テ就職シ反對黨ノ耐忍ニ因テ依然其職ニ止レル者ニシテ其位地既ニ尋常ニ非ス且ツ此際ニ於テ改革案ヲ通過セシムルノ必要ハ諸人ノ皆ナ許ス所ナリキ是レ其提出セル議案ノ全ク反對

議員ノ投票ニ因テ變更セラレタルニモ拘ハラヌ執政官ハ尙ホ之ヲ拒絕セスシテ之ヲ認承セル所以ナリ
 次回ノ會期ニ於テ蘇格蘭及ヒ愛蘭撰擧法ノ改革案ヲ議スルニ際シ下院ニ起レル措置ノ如キモ亦同様ノ理由ニ因テ之ヲ辨護スルヲ得可シ此際ニ於テハ右ノ諸理由ニ如フルニ更ニ困難ノ一大原由アリタリ則チ執政官ハ愛蘭國立寺院ノ疑問ニ付キ陛下ニ請フテ議院解散ノ許可ヲ得タリト雖ヒ撰擧權ヲ伸擴ス可キ法律既ニ施行セラ
 ル、ノ後ニ其スノハ實際議院ヲ解散シテ舉國人民ニ訴フル能ハサルヲ是レナリ内閣ハ之カ爲メ議院解散ヲ猶豫スルヲ數月ノ久シキニ涉リ此間ハ議院ヲシテ其提出スル所ノ議案ヲ可決セシム可キ見込アルニ非スシテ其

職ニ居レリ事々議院ノ意見ニ從フテ王者ノ執政官タル位地ヲ汚シ兼テ議院政治法ノ健全ナル活動ヲ傷ツクルニ至レリ余輩ハ今後再ヒ斯ク不規則ナル措置ヲカランコトヲ希望ス然ラスンハ我カ現行ノ制度ニ因テ備ヘラレタル執政官ト下院トノ權刀誤用ヲ豫防ス可キ最大要義ハ必ス之カ爲メニ破壊ノ端緒ヲ開カン

重大ナル議案
ニシテ在野議員ノ爲メニ提出セラレ、
アリ

サ、ロベルト、ピールハ千八百四十四年ニ於テ在野議員ハ如何ナル立法事務ニテモ之ヲ提出シ得ルコトヲ論シテ曰ク在野議員ハ政府ノ認許ヲ得シテ其適宜ト思考スル所ノ事件ヲ提出ス可キ充分ノ自由ヲ有スト千八百五十年ニ於テ氏ハ再ヒ在野議員ニ與フルニ議院ノ注意ヲ國家ノ大疑題ニ惹キ得ルノ機會ヲ以テス可キ旨ヲ主張シタレトモ尙

然レハ執政官
ノ同意ヲ得ス
シテ通過シタ
ルコトナシ

執政官ヲシテ國家ノ大事ニ係ル議案編制ノ職任ヲ負擔セシムルコトノ善法ナルヲ認承セリ

在野議員ニシテ重要ナル議案ヲ提出シタルノ例証甚タ多シト雖レ執政官ノ同意協力ヲ得ルニ非スンハ兩院ノ承認ヲ得タルコトナシ

例ハ千八百三十八年在野議員ノニコ、シーランドニ假政府ヲ設置スルノ議案ヲ提出ス可キ許可ヲ請フ者アルニ方リシ、ダブリュー、ウヰン(頗ル憲法ニ明カナル人)及ヒ其他ノ議員ハ此ノ如ク万国公法上ノ疑問ヲ含蓄スル所ノ議案ハ執政官ノ提出ス可キ者ナル由ヲ演テ之ニ反對セリ動議者ハ之ニ答テ南澳斯土禮利亞ニ殖民地ヲ設置ス可キ議案ハ儀式ニ從テ陛下ノ認許ヲ得タルニモセヨ兎ニ角

在野議員之ヲ提出シタルヲ引証ス是ニ於テ乎内務卿
ロイド、ジョン、ラッセルハ執政官ノ爲メニ向後之ヲ賛成シ若
クハ反對スルノ權理ヲ豫備シテ該案提出ニ陛下ノ認許
ヲ與フ動議者ハ之ニ因テ該案ヲ提出スルヲ得タリト雖
モ其個條中非難ス可キ者アリシカ故執政官ノ攻撃ヲ受
ケ第二讀會ニ於テ廢棄セラレ

千八百四十四年ロイドプロハムハ刑法ヲ輯纂シテ一
部ノ律令書ヲ制定ス可キ旨ノ動議ヲ起シ他ノ貴族ノ反
對說ニ答テ余ハ未タ此種類若クハ此他ノ種類ノ議案ヲ
以テ政府ノ提出ス可キ者ト爲セル憲法上ノ格言アルヲ
聞カサルヲ演ヘ終ニ之ヲ提出スルヲ得タレモ第二
讀會ニ於テ廢棄セラレタリ

千八百六十一年ローク、キングハ州郡カウンティ往時カウント諸
テ今日ハ司法上ノ便宜ノ爲メニ他ト區別スル者ナシ
レモ今マ妥當ノ譯語ヲ得サルカ故假ニ州郡ト譯スノ撰
舉權伸擴說ヲ提出シベーンスハ市邑ノ撰舉權伸擴說ヲ
提出シタレモ其第二讀會ヲ開カントスルニ方リ大宰相
ロイド、パーメルストンハ斯ク重大ナル議案ハ責任政府
ノ提出ス可キ者ニシテ在野議員ノ手ニ委ヌ可ラサル者
ナル所以ヲ論シテ之ニ抗抵シ又在野議員ハ如何ニ有力
ナルモ唯タ己レト己レヲ撰舉セル者トニ對シテ責任ヲ
負擔スルノミナルカ故其見ル所自ラ社會ノ一局部ノ意
望及ヒ情狀ニ止マラサルヲ得ス是レ理勢ノ然ラシムル
所在野議員ニ向テ所見廣濶ナル議案ヲ望ム能ハサル所
以ナリ迎之ヲ攻撃スル者アリシカ爲メ終ニ廢棄セラレ

之ニ反シ千八百六十一年ニ於テハ在野議員ナル蘇格蘭
 ナル州郡投票者ノ記録法ニ關スル法律ヲ改正ス可キ精
 細且ツ重要ナル議案ヲ提出シテ議院ヲ通過セシムルヲ
 得タリ議員中之ニ抗抵シテ國ノ憲法ニ變更ヲ生スル
 カ如キ議案ハ執政官之ヲ提出セサル可ラスト主張セル
 者アリシガ蘇國檢事長ハ此說ヲ駁シテ頻ニ該案ヲ贊成
 シ終ニ兩院ノ可決ヲ經テ法律ト爲ストテ得タリ
 千八百六十五年ウワイトサイトハ執政官ノ議院ニ下附セ
 ル議案ニ反對シテ愛蘭ノ大審院ヲ整理ス可キニ議案ヲ
 提出シタレヒ其第二讀會後共ニ廢棄セララル
 千八百六十六年ワード、ハントハ家畜ノ疫病ニ關シ政府

ノ議案ニ抗シテ一議案ヲ提出シ下院ヲ通過セシムルヲ
 得タリト雖ヒ上院大ニ之ヲ修正シタルカ故前日ノ贊成
 者モ之ヲ採用スルヲ欲セス上院ノ修正ヲ考案スルニ
 際シテ終ニ廢棄セララル

千八百六十七年三月一日下院議員ハ主僕相ヒ對スルノ
 法律ヲ商量セリ前回ノ會期ニ際シ精選委員ヲ設テ之ヲ
 調査セシノタルニ該委員ハ現行法ノ充全ナラサルヲ報
 告シ兼テ改正意見ヲ呈シタリ改正ノ必要ナルハ諸員皆
 ナ之ヲ認許シタレヒ誰カ此任ニ當ル可キヤノ疑問ヲ生
 シ審議ノ末終ニ該件ノ重大ナル在野議員ノ擔任ス可キ
 者ニ非ス宜ク政府ヲシテ之ニ當ラシム可シト一決ス是
 ニ於テ平内務卿ワルポール議院ニ向テ該件ハ目下檢事長

ト商議中ナル旨ヲ告ケ又政府ノ事務ノ状態之ヲ許スヤ
否ヤ直チニ該件ニ關スル議案ヲ提出シ得ンコトヲ希望ス
ル旨ヲ告ケタリ

千八百六十七年四月九日在野議員ノ愛蘭代議法ノ改正
動議ヲ下院ニ提出セシメテ請フ者アルニ方リ愛蘭尙書
ロード、ナースハ斯ク老練ナル議員ノ計畫セル改正法案ヲ
觀察スルハ當院ノ爲メニ賀ス可キ事ナルカ故政府ハ決
シテ該案ノ提出ニ反對セサル可シ然レトモ余ハ今日ニ
於テ該案ヲ可否スルヲ欲セス平生ノ意見ハ他日ニ至テ
吐露ス可キ旨ヲ演ヘタリ動議者ハ議案ヲ提出ノ第一讀
會ヲ經タリト雖ヒ六月二十八日ニ及ンテ該案終ニ廢棄
セラル千八百六十七年五月十五日在野議員ニ因テ提出

セラレタル愛蘭ノ陪審者ニ關スル法律ノ修正議案ノ第
二讀會ヲ開ク可キ動議ヲ起スニ方リ此件ヤ頗ル重大ニ
シテ在野議員ノ一身ニ擔任シ充分成功シ得可キ者ニ非
スト論スル者特ニ多カリキ故ニ動議者ハ衆議ニ從テ此
議案ヲ引キタレモ尙ホ次回ノ會期ニ於テハ愛蘭尙書ノ
保助力ヲ請フテ再ヒ此重要ナル議案ヲ提出ス可キ旨ヲ
告ケタリ

千八百六十八年四月二十九日州郡ニ財務局ヲ設置シテ
租稅ヲ徵収セシメ英國及ヒ瓦耳斯ナル州郡ノ費用ヲ管
理處置セシム可キ議案ハ在野議員ニ因テ提出ヒラレ既
一讀會ヲ經テ將ニ二讀會ヲ開ントスルニ至レリ然ルニ
此際執政官ハ此議案ヲ議定セシヨリ寧口調査委員ヲ設

テ全体ノ景況ヲ調査セシムルヲ可トシ委員ノ報告ヲ得
 ハ政府ハ一層満足ス可キ議案ヲ編制スルヲ得可シト論
 シテ多數ノ賛成ヲ得調査委員ヲ設置セリ調査委員ハ其
 報告書ニ於テ一部ハ民撰一部ハ官撰ノ議員ヲ以テ組織
 スル所ノ州郡財務局ヲ置テ其財務ヲ一層直接ニ納稅者
 ノ管理ニ歸セシムルハ今日ノ要務ナル旨ヲ述ヘタリ此
 意見ハ必ス新ニ改革セル議院ニ因テ速ニ實行セラル可
 シ
 何等ノ事務ナルヲ問ハス苟モ國家ヲ防護シ政府ヲ維持ス
 ルカ爲メニ要用ナル者ハ之ヲ議案ニ編制シテ議院ニ下附
 シ憲法及ヒ國ノ大法ヲ修正若クハ改正シ又其意見ト勢力
 トニ因テ在野議員ノ提出セル議案ヲ整理スルカ如キハ執

議院ノ自由討
 議ノ權ヲ有ス
 ルカ爲メニ生
 スル利益

政官ノ特務ニシテ執政官能ク此職任ヲ盡スカ爲メニ生ス
 ル所ノ利益實ニ多シト雖モ議院ノ社會全体ニ關スル疑問
 ナ自由ニ審査討議スルカ爲メ生スル所ノ利益モ亦實ニ大
 ナリトス

議院ノ最大要務ハ其實行政府ノ議案ヲ通過スルニ在ラス
 シテ却テ國民ノ大議會タル職分ヲ以テ公務執政ノ法道ヲ
 陛下ニ奏上シ絶ヘス輿論ノ注意ヲ惹ク所ノ万般ノ事物ニ
 注意シテ其改進セル意見ヲ發露スルニ在リ然リ而シテ此
 職務ハ在野議員ニ與フルニ我カ政治上并ニ社會上ノ制度
 中事ノ改良ス可キ者アル毎ニ之ヲ改良センカ爲メ其企圖
 ナ議院ニ提出シ得可キ機會ヲ以テスルニ非スンハ決シテ
 之ヲ尽ス能ハサルナリ又此職任ハ輿論既ニ之ニ同意シ政

府之ヲ施行スルモ全ク危害ナキノミナラス大ニ便益アル
 可キ景狀ヲ現出スル迄議員ニ充分ノ自由ヲ與ヘテ之ヲ討
 議セシムルニ非スンハ決シテ之ヲ尽ス能ハサルナリ輿論
 既ニ之ヲ施行シ大ニ便益アル可キ形狀ヲ現ハスニ至レハ
 之ヲ實施センカ爲メ議院ニ向テ議案通過ヲ懇願スルハ執
 政官ノ義務ナリ責任ナリ今百年期中議院ノ認許ヲ得タル
 重大ナル改革ハ幾ント皆ナ上言フ所ノ如キ方法ヲ以テ起
 リタル者トス

議院ノ意望ハ
 終ニ勝ヲ制ス

我カ政治史中下院多數ノ議員執政官ノ意見ニ反對シテ直
 チニ政治上ノ大改革ヲ決行センコトヲ要求シ執政官之ニ當
 ル能ハスシテ其意見終ニ敗レタルノ例証少ナカラス此ノ
 如キ場合ニ於テハ執政官ハ議員ヲ助ケテ(若シ陛下ノ裁許

ヲ得再クシテハ)其主張スル所ノ改革ヲ行フト斷然辭職シテ
 其位地ヲ他人ニ讓ルトノ二者其一ヲ擇ンテ之ニ處セサル
 可ラス若シ辭職シ其位地ヲ他人ニ讓ラハ議院ハ新任執政
 官ニ因テ諸代議士ヲ満足セシム可キ法ヲ設テ其主張セル
 改革ヲ實行スルコトヲ得可シ千八百二十八年ニ議院ノ誓約
 條例ト結社爲政條例ヲ廢シ全二十九年ニ久シク朝野ノ一
 大疑問ト爲レル羅馬舊教徒解放案ヲ議定シタルカ如キハ
 初ヨリ政府ノ賛成ヲ得テ實行シタル者ニ非ス其初ニ方テ
 ハ執政官之ニ反對シタリト雖モ終ニ同意協力ノ之ヲ實行
 スルニ至レルナリ之ニ反シテ千八百三十年ニハ執政官議
 院改革按テ抗拒シタルカ爲メ辭職ヲ強促セラレ該案ノ實
 行ヲ約セル者之ニ代テ内閣ニ入レリ

サーロベルト、
ピール穀法ヲ
廢ス

千八百四十六年ノ穀法廢止ハ以上舉ケル所ト反對ノ例証
ヲ供シ且ツ國家ノ急務ヲ見ルコト敏捷ニシテ之ニ處スルノ
法ヲ定ムルコト斷乎タル勇膽果決ノ執政官ノ勢力ヲ示スニ
足レリ此時ニ方リ上院ハ固ク保護說ヲ持シ下院ノ多數ハ
自由貿易ノ反對者トシテ撰舉セラレ兩院共ニ穀法廢止ヲ
希望セサリシノミナラスサーロベルト、ピール其人ノ如キ
モ亦從來熱心ニ保護說ヲ主張シタリ然ルニ當時ノ勢穀法
ヲ廢スルニ非スンハ國利得テ保進ス可ラサルヲ見ルヤ氏
ハ斷然之カ廢止說ヲ唱フルノ責ニ任シ激論數回ノ後チ漸
ク其同僚ト(陛下ハ此疑問ニ付テハ中立ノ位地ニ立チ給ヘ
リ)上下兩院トノ同意ヲ得テ穀法廢止案ヲ實行スルコト得
タリ

愛蘭寺院事件

反對黨議員ノ提出シタル重大ナル議案ニ關スル執政官ノ
位地ハ次ニ舉ケル近時ノ例証ニ因テ一層分明ナルヲ得可
シ
千八百六十八年五月十四日反對黨ノ首領グラットストーン
ハ陛下ノ認許ヲ得テ制定年期間ハ新ニ愛蘭寺院ノ僧官
ヲ命スルコトヲ防ク可キ議案ヲ提出ス是ヨリ先キ下院ハ
法律ニ因テ國家公共ノ官職俸祿ヲ以テ一人私人ニ私スル
ノ弊ヲ防ンカ爲メ愛蘭寺院ノ收入ニ於ケル王室ノ利益
ハ之ヲ議院ノ管理ニ歸セシム可シト云ヘル奏議ヲ議定
セリグラッドストーンノ提出シタル議案ハ此奏議ト連絡
スル者ニシテ既ニ其一讀會ヲ經五月二十二日二讀會ヲ
開クニ方リ執政官ハ力ヲ極テ之ヲ駁撃シタリト雖モ五

收稅吏員ノ投票權

十四名ノ多數ニ因テ可決セラル議案調査委員ハグラッド
ストーンノ之ヲ非難セルコモ拘ハラス向後王室ヨリ補
助費ヲ受クル者ノ權理ハ之ヲ議院ノ意見ニ委ヌ可シト
云ヘル一節ヲ追加ス此議案ハ終ニ下院ヲ通過シタリト
雖ヒ六月二十九日上院其二讀會ヲ開ントスルニ方リ九
十五名ノ多數ニ因テ之ヲ廢棄セリ
千八百六十八年六月三十日收稅吏員ヲシテ代議士ヲ投
票スル能ハサラシムル所ノ制限ヲ除ンカ爲メ一議案ヲ
提出シ下院ハ出納検査長官及ヒ反對黨ノ首領タルグラ
ッドストーンノ抗抵セルニモ拘ハラス之カ三讀會ヲ開ク
コテ可決ス然ルニ政府ハ其說ヲ屈シテ下院ノ意見ニ從
ヒ再ヒ該案ニ反對セザラントテ決心シ上院其二讀會ヲ

寺院稅

開クニ方テハ大法官之ヲ贊成シテ該案終ニ法律ト爲レ
リ
時ノ出納検査長ニシテ下院ニ於テ在朝議員ノ首領タル
グラッドストーンハ千八百六十六年寺院稅ヲ廢止ス可キ
議案ヲ提出シ既ニ其一讀會ヲ經テ未ダ二讀會ノ定日ニ
至ラサルニ執政官皆ナ其職ヲ辭セリ斯ル場合ニ於テハ
前任内閣ノ議案ハ公然之ヲ引クニ非スンハ之ヲ其放棄
セラル、ニ任スルコト理勢ノ當ニ然ル可キ者ナリト雖ヒ
今ヤ政府ヲ去テ反對黨ノ首領ト爲ソルグラッドストーン
ハ依然該案ヲ維持ス可キニ決心セリ其言ニ曰ク余カ見
ル所ヲ以テスルモ又前同僚諸氏ノ說ニ依ルモ此議案ハ
他ノ議案ト其性質ヲ異ニス何トナレハ該案ハ固ト前任

支給議案ハ政
府ノ提出ス可
キ者ナリ

内閣ノ發議セル者ニ非ズシテ余ノ發議シ余ノ其責ヲ己
レ一身ニ負フテ提出シタル者ナレハナリト氏ノ説ク所
此ノ如シト雖モ該案ハ判然政府ノ議案トシテ下院ニ提
出シ及他ノ執政官モ命ヲ受テ氏ト共ニ之ヲ編制提出シ
タル者ナリト云フ新任執政官ハグラッドストーンノ説明ニ
依テ之カニ讀會ヲ開クコトニ同意シタレモ其主義ニ至テ
ハ當タ之ヲ贊成セサルノミカ當會期中ハ其三讀會ヲ開
カサランコトヲ要メタルカ故議案ハ終ニ放棄セラレタリ
凡ソ公務ノ爲メニ經費ヲ支給シ若クハ人民ニ租稅ヲ賦課
スル等ノ議案ハ余輩既ニ論シタルカ如ク下院ニ於ケル執
政官皆之ヲ提出セサル可ラス千八百六十六年ヲ以テ議
定セル新規則ハ陛下ノ德、德ヲ受クルニ非スンハ實際在野

議員ノ斯ル議案ヲ提出スルコト妨ケタリ此新規則ハ舊規
則ヨリ一層嚴重ナル者トス

千八百六十七年六月六日事例ノ以テ下院ハ嚴ニ此新規
則ヲ實行ス可キ傾向アルコトヲ証スルニ足ル者起レリ在
野議員中法廷ニ關スル或ル經費ハ之ヲ集合資本ヨリ支
辨シテ年々議院ノ支出ヲ求メサラシメンカ爲メ數種ノ
決議案ヲ提出セント欲スル者アリテ公然陛下ノ認許ヲ
得タリ既ニ陛下ノ認許ヲ得タル以上ハ決議案ヲ提出ス
ル毫モ儀式上ニ於テ不可ナシト雖モ爾後エールトンノ
忠告ニ因テ勳議者モ經費ヲ集合資本ヨリ支出ス可キ決
議案ハ執政官ヲシテ之ヲ提出セシムルヲ以テ便宜ト爲
シ反對黨ノ議員之ヲ提出セサルヲ可トスルニ至レリ是

執政官其議案ヲ通過スルノ力

ニ於テ乎動議者ハ右云ヘルカ如キ性質ノ決議案ヲ提出スルヲ止メテ唯タ該案ニ指定シタル俸給及ヒ其他ノ經費ヲ集合資本ヨリ支出スルヲ廢ス可シト云ヘル決議案ヲ提出セリ是レ國家ノ負擔ヲ輕減ス可キ決議案ニシテ何レノ議員ト雖ヒ提出スルヲ得可キ者タリ
余輩ノ下ニ説明スルカ如ク下院ノ規則ハ施政府ニ與フルニ何等ノ事項ニテモ其發議ス可キ者ト思惟スル所ノ者ニ議院ノ詳密ナル注意ヲ惹キ得可キ充分ノ機會ヲ以テス然レ之ヲシテ巧ミニ兩院ヲ通過セシムルト否ニ至テハ全ク其議院特ニ下院ノ信任ヲ有スル程度ニ從テ異ナラサルヲ得ス執政官ハ嘗タ其位地ヲ保ツカ爲メニ議院ノ保助ヲ要スルノミナラス其立法事務ヲ嚴正有効ナラシメンカ爲メ

政府豫メ下院多數ノ意見ヲ問ヒ之ニ準據シテ議案ヲ作レルコトアリ

ニモ亦議院ヨリ充分ノ保助ヲ受クルヲ要ス執政官若シ其議案ヲ通過シ得可キ勢力ニ倚賴スル能ハスンハ自ラ之ヲ完全無欠ナラシメンカ爲メニ必要ナル辛勞ヲ避クルニ至ル可シ此ノ如クニシテ議定録ハ粗雜不充分ナル法律ヲ以テ充滿スルニ至ル可シ然ラスンハ則チ責任執政官ハ要用ナル議案編制ノ職任ヲ放棄シテ單ニ下院ノ意望言説ヲ代表スル所ノ人物之ヲ執ルニ至ル可シ其國家ノ不利ニシテ又議院 治法ノ大義ニ違背スルコト明ケシ
前十年間ニ行政府カ異常ノ處置ニ倚賴シタルコト二回アリ則チ憲法上ヨリ觀察スレハ極テ重大ノ事件ナルモ歴世ノ内閣皆ナ之ヲ提出シテ議院ノ好待ヲ得ル能ハサリシ者アルニ方リ據テ以テ之ヲ議案ニ編制ス可キ要點ヲ定メンカ

爲メ下院ヲ誘フテ其助力ヲ請ヘルコト是レナリ斯ル場合ニ於テハ執政官ハ豫メ其施行セント欲スル事件ノ要領ヲ書シテ下院ニ附與シ全會ヲ委員トシテ之ヲ審案セシメ委員會ニ行ハレタル多數ノ意見ニ準據シテ之ヲ議案ニ編制シ而ル后之ヲ内閣ノ議案トシテ公然下院ニ提出ス然レモ此ノ如キ措置ハ執政官責任ノ大義ニ背戾スルカ故唯タ國利上止ムヲ得サルノ場合ニ於テノミ用ユ可キ者トス

印度政府議案

此類ノ初例ハ千八百五十八年印度政府ニ關スル議案ニ付テ起レリ全年二月十二日内閣ハ印度ナル陛下ノ所領地ヲ英政府ノ直轄ニ移サント欲シ大宰相ロード、パーメルストン之ヲ下院ニ提出シタレモ未タ其二讀會ヲ開クニ至ラスノ内閣更迭ス新任出納検査官デスレーリハ三

月二十六日之ヲ實施スルノ方法大ニ異ナリト雖モ尙ホ其目的ヲ同ウセル議案ヲ提出シタリ此兩議案ハ共ニ議院ノ好待ヲ受ケス輿論亦未タ之ヲ好待スルニ至ラザリキ是ニ於テ乎ロード、ジョン、ラッセルハ大ニ其說ノ可シヲ疑ヒ頗ル之カ主張ヲ躊躇シタレモ斯ク重要ナル議案ノ議院ヲ通過セザランコトヲ憂慮シ四月十二日終ニ一策ヲ獻シテ曰ク執政官ハ依然其議案ヲ固守セス全會ヲ委員トシテ豫メ該案ノ要領ヲ審案商議セシム可シ果シテ此ノ如クセハ印度政府議案編制ノ根基ト爲ル可キ者ニシテ政府下院ト協和一致スルヲ得可キ者ヲ發見スルコトアラント氏ハ千八百十三年ノ處置ヲ引証シ此說ノ據ル所ト爲セシカ他ノ議員ハ千八百十三年ニ豫メ委員ヲ設置シ

テ議案ノ要領ヲ審案セシメタルハ貿易ニ關スル院内ノ規則ニ從ヘル者ナレハ之ヲ引テ其先例ト爲スニ足ラサル旨ヲ演ヘタリヂスレ——リハ直チニロード、ジョン、ラッセルノ説ニ同意シ氏ヲシテ決議案ヲ提出セシメント欲スルニ至レリ然レモ下院ハ在野議員ヲシテ斯ク重大ナル決議案ヲ提出セシムルヲ不可トセルカ故後チ數日ヂスレ——リハ明カニ議案編制ノ要領ヲ敘述セル十四個條ノ決議案ヲ提出ス(此決議案ハ頗ル向ニ政府ノ提出セル議案ト異ナレリ)委員會ハ審論詳議ノ末六月十七日ヲ以テ其五箇條ヲ下院ニ報告シ他ノ九箇條ハ之ヲ廢棄シタリ政府ハ下院ノ豫メ議定シタル所ニ基テ議案ヲ編制シヂスレ——リ之ヲ提出シテ終ニ法律ト爲スヲ得タリ

改革議案

千八百六十七年議院改革案ニ關シテ起レル所ノ者ハ政府ノ其議按ヲ編制センカ爲メ下院ノ助力ヲ請ヘル第二例トス此際政府ノ發議セル決議按ハ漠然トシテ其意義分明ナラストテ之ヲ非難スル者甚ク多ク特ニ下院ノ斷乎タル反對ヲ受ケタルカ故執政官モ終ニ之ヲ放擲シ之ニ代ユルニ眞誠ノ議按ヲ以テセリ其情狀左ノ如シ

ラッセル内閣ハ下院ヲシテ其發議セル改革按ヲ可決セシムル能ハサルカ爲メ千八百六十六年ヲ以テ辭職シテルビ——内閣代テ政ヲ執レリ新任執政官ハ其因テ以テ議院ヲ改革ス可キ基礎ニ付テ各々意見ヲ異ニシ一致協和スル能ハサリシカ故初ヨリ議案トシテ之ヲ提出セス先ツ數個ノ決議案ヲ提出シ改革按ノ要領ニ於ケル下院ノ意

見ヲ諮問セシメテ決定ス此決議案ノ漠然トシテ其意義ニ限界ナキヲ明カナリシト雖ヒ其目的固ト改革案ニ關スル下院大体ノ意見ヲ問フニ在テ其細目ヲ問フニ在ラサリシカ故故ラニ文義ヲ廣濶ニシ以テ細目ニ於ケル政府ノ行爲ヲ束縛セシメサランヲ希望セルナリ千八百六十七年二月十一日出納検査長ヂスレーリハ下院ハ某ノ日ニ於テ先ニ下附セル改革案ヲ審査センカ爲メ全會委員ヲ組ム可ク政府ハ委員會ニ附スルニ改革法ニ關スル決議案十三個條ヲ以テス可キ旨ヲ發議ス豫定期日ニ至リ氏ハ約ヲ踐ンテ決議案ヲ提出シタルニ下院ハ該案ノ記スル所皆ナ單獨ニシテ實事ニ據ラス其意義漠然トシテ限界スル所ナク且ツ其施行手續ノ如キモ未ダ當院ニ

通知セラレサルヲ以テ當院實ニ其可否如何ヲ判スルニ苦ムトテ之ヲ非難セリ下院又論シテ曰ク當院ニ忠告シ其事務ヲ創起シ國家ノ重要ナル時機ニ際シテ如何ナル發議ヲ爲ス可キヤヲ斷定スルハ政府ノ職任ナリ之ニ反シテ政府ノ處措ヲ觀察シテ其可ナル者ヲ可決シ其非ナル者ヲ否決スルハ當院ノ業務ナリ今マ若シ當院自ラ許シテ政府ノ商議ヲ受ケ政府ノ創起ス可キ者ヲ創起シ政府ノ問フニ任セテ其意見ヲ答ヘハ是レ當院ハ執政官ノ責任ヲ奪フテ自ラ之ヲ負擔スル者ニ非スヤトヤスレーリハ次日ヲ以テ執政官ハ下院ニ迫ルニ決議案ノ商議ヲ以テセス成ル可ク速ニ改革議接ヲ提出ス可キヲ告ケタルニ諸議員皆ナ満足シ特ニグラッドストーンノ如キ

ハ其提出セント欲スル勸議ヲ放棄シタリ該勸議ノ趣旨
ハ政府ノ提出セル決議案ハ實際ニ於テ改革案ノ討議ヲ
遅延セシメタルノ結果ナキ能ハス純然タル議案トシテ
直チニ政府ノ計畫ヲ下院ニ附與スルヲ却テ公共ノ便益
ナル可シト云フニ在リシト聞ク

議院ノ好待ヲ
得ンカ爲メ數
々改革案ヲ變
更ス

二月二十五日政府ハデスレリーリナシテ新ニ改革案ヲ下
院ニ提出セシメタレニ其勞役社會ノ自由ヲ擴張スルヲ
尙ホ狹少ナルカ爲メ下院ノ満足ヲ得ル能ハサリキ政府
ハ下院ノ否決ヲ待タス早ク其機ヲ察シテ自ラ議案ヲ引
キ三月十八日ヲ以テ更ニ一層寛裕ナル議案ヲ提出セリ
内閣ニハ初ヨリ之ヲ提出ス可キノ議アリシト雖モ三名
ノ有力ニシテ重立タル執政官之ヲ不可トセルカ爲メ暫

ク之ヲ措テ前ノ改革案ヲ提出セル者ノ如シ一旦廢接ト
爲レル者はニ至テ再ヒ蘇生セルカ故三名ノ執政官ハ辭
職シタレニ政府ハ直チニ此欠席ヲ補充シテ依然役ノ改
革案ヲ保持ス下院ノ之ヲ討議スルニ方リ内閣ノ意見ニ
抵抗スル者甚ダ多ク原案大ニ修正加除セラルト雖モ七
月十五日終ニ下院ヲ通過スルヲ得タリ其上院ニ到ルヤ
上院更ニ之ヲ修正加除シタルニ下院ハ此修正ヲ不可ト
シ該案再ヒ危急ノ地ニ陥リタレトモ後チ漸クニシテ法
律ト爲レリ此ノ如クシテ諸執政官計議ノ上草定セル原
案ハ頻ニ諸般ノ變更ヲ受ク其間執政官ノ意見ト認承ト
ニ反對セル者ナキニアラナド尙ホ執政官ヲシテ之カ擔
任ヲ辭シ若クハ之カ責任ヲ負擔スルヲ嫌ハシムルニ

至ラサリキ

立法事務ニ關シテ執政官カ負擔スル所ノ責任ハ多クハ國家ノ公務ヲ創起シ管理スルニ限ル故ニ執政官ハ議院ノ之ニ因テ一私人若クハ一私物ノ權理ノ有無ヲ裁定スル所ノ私議案ニ關與セサルヲ常トス私議按トハ議按ノ公共ノ性質ヲ帶ヒスシテ私ノ性質ヲ有スル者ヲ云フ千八百三十年内務卿サー、ロベルト、ピールハ當時議院ノ問題タリシライ港事件ニ付キ論シテ曰ク余ハ何レノ私議案ニモ關與スルコトヲ辭セサル可ラス余ノ日々經驗スル所ヲ以テスレハ執政官ノ私議案ニ關與セサルハ事ノ最ニ善美ナルモノト考定セサルヲ得スト千八百四十年出納檢査長バーリング又云ヘルアリ執政官ノ私議案ニ付テ意見ヲ述フルハ確立

私議案

私議案ニ對ス

ル執政官ノ位

地

私人若クハ一私物ノ權
利ノ有無ニ云々

王室ノ立法權

セル慣行ニ背反スト此理由アルト其職務ノ繁劇ナルトニ因テ在朝議員ハ私議案審査委員タルヲ免カル然レモ委員ノ之ヲ不可トスルニモ拘ハラズ私議案審理ヲ主張シテ議員ノ定則ヲ破ラント企ツル者アレハ商務局副議長若クハ其他ノ在朝議員ハ委員ヲ助テ其權勢ヲ維持スルヲ常トス又國家ノ公利若シ私議案ノ爲メニ阻碍セラル可キ悞アレハ執政官ハ其勢力ヲ用ヰテ之ニ反對スルヲ得可シ何トナレハ執政官ハ事ノ公私ヲ問ハス苟モ國家ノ福利ヲ増進ス可キ者ニ向テ議院ノ立法事務ヲ管理セシカ爲メ王者ノ特權ヲ使用ス可キ責任ヲ負擔スレハナリ議院政体確立以來立法府不可欠ノ一部タル王室ハ陛下親ラ議事ニ關與シテ其特權ヲ使用セラレタルヲナク常ニ責

任執政官ヲシテ王室ノ立法權ヲ兩院特ニ下院ニ施行セシム此執政官ハ議院ノ代議士トシテ保持スル所ノ勢力ヲ利用シ我カ憲法中ノ君主分子ノ口ト爲リ舌ト爲リ以テ之ヲ議院ニ代表ス昔時ニ在テハ至尊ハ常ニ立法事務ニ於テ上下兩院ノ上ニ直接且ツ有形ノ權力ヲ使用セラレタリ其親ラ之ヲ使用セラレサルニ至リシハ近今ノ事ナリ此憲法上ノ慣行我カ制度中ニ入レルト同時ニ余輩ハ王室ノ爲メ立法事務ヲ管理スル新法ノ生シタルヲ見ル英國王カ其裁許ヲ得ンカ爲メ奏上セル議案ヲ認可セラレサリシ最末ノ例證ハ千七百七年ニ在リ下院カ初テ王室ノ認許ヲ經スノ金圓支給ノ請願ヲ受理スルヲ禁スルノ議ヲ決定シタルハ其前年ニ在リ爾後議院ハ規則ヲ誤テ陛下ノ意ニ因リ責任

執政官ノ手ヲ經ル者ニ非スンハ租稅ヲ適用ス可キ議案ヲ提出スルヲ禁シ又先ツ陛下ノ認許ヲ得スシテ皇權ニ影響ス可キ議案ヲ決スルヲ禁シタリ加之ナラス苟モ下院ノ信任ヲ有スル間ハ公務ノ進歩ヲ整理スルヲ得可シト云ヘル執政官ノ權理ハ普ク世人ノ認承ヲ得タリ立法体ノ組成分子タル至尊ノ權理ハ之カ爲ノ頗ル鞏固ニ趣キ其安全ナルヲ遠ク不認可權ヲ用ウルニ過クルニ至レリ

ロイド、アルビー云ハスヤ英國ニテハ王室ノ權勢ハ議案既ニ議院ヲ通過セルノ後テ陛下之ヲ用ウルヲ得可キ不認可權ニ在ラスシテ陛下其執政官ノ上ニ使用シ又執政官ニ因テ立法兩部局ノ上ニ使用スル所ノ權理ト適宜ナル勢力トニ在リ陛下唯々此權理ト勢力トヲ掌握シ給フ故ニ議案未

可ヲ得スト雖此認許ハ陛下先ツ行政上ノ資格ニ於テ之
 チ與フルノミ故ニ此認許ハ以テ陛下ノ或ル議案ヲ賛成シ
 タルコトノ証左ト爲スニ足ラス唯タ陛下ノ立法二部ヲシテ
 之ヲ審案セシムルヲ許シタルコトヲ表スルニ足ルノミ立法
 上ノ資格ニ於テハ陛下ノ決斷ハ最後ノ決斷ニシテ其意見
 ハ上下兩院既ニ其議ヲ定メテ批准ヲ請フ迄ハ毫モ規制束
 縛セラレスシテ依然タル可キ者ナリ陛下一ヒ其可否ヲ斷
 スレハ何者モ之ヲ動かス能ハス是レ最後ニ至テ陛下ノ裁
 決ヲ請フ所以ニ非スヤ且ツ英國君主ノ不認可權ハ徒ラニ
 空名ヲ存シテ實力ナキ者ニ非ス勸王ノ民之ヲ賛成スルキ
 ハ之カ使用ニ因テ專横ナル内閣ト腐敗スル議院トヲ擊破
 シ以テ國家ノ大難ヲ救治スルヲ得可シ

上院ヲ勸スニ
 不認可權ノ使
 用ヲ以テス

上院ノ立法權

千八百五十八年王室有財產ノ權理ニ影響ス可キウクト
 リア停車場及ヒビムリコ鐵道議案ニ關シテ起レル事態
 ハ以テ不認可權ノ利用スルヲ得可キ一証ト爲スニ足レ
 リ土木掛長サー、ペンヂ、ミン、ホールハ此議案ニ同意シタ
 レヒ其尙ホ議院ノ手ニ在ルコト方テ内閣變更シ新任掛長
 ロード、ジョン、マンナルスハ停車場及ヒ鐵道建設請願者ノ
 意望ニ反對シテ或ル個條ヲ變更センコトヲ主張セリ然ル
 ニ當時之ヲ討議中ナリシ上院ハ之ニ反對シタルカ故若
 シ之ヲ變更セスンハ政府ハ陛下ニ勸ムルニ議案不認可
 說ヲ以テス可キ旨ヲ諷告ス是ニ於テ乎上院ハ掛長ノ意
 見ニ從テ之ヲ終正シ陛下ノ裁許ヲ得タリ
 通常ノ事態ニ於テ執政官若シ下院ノ其意見ニ反對セル議

案ヲ通過スルヲ防ク能ハサルキハ第二院ノ獨立ナル立
 法權ニ頼テ之ヲ拒絕シ若クハ其意見ニ從テ之ヲ修正シ若
 クハ被我ノ意見ヲ折衷シテ之ヲ修正スルヲ得可シ蓋シ上
 院ハ衆情ト一時政治上ニ起レル激物トニ因テ左右セラル
 、下院ヨリ少ナキカ故少ナクハ暫時間ハ弊害ヲ生出ス
 可キ恐悞アル議案ノ採用ヲ妨ケ以テ執政官ヲ援ケタルヲ
 得ルヲ多シ執政官若シ上院ニ倚頼スルヲ能ハスンハ議案
 未タ兩院通過セルコ方リ下院ヲ解散シテ全國民ニ訴フル
 ヲ得可シ全國民ニ訴テ輿論ノ該案ヲ可認スルヲ明知セ
 ハ王室モ到底之ヲ拒絕スルヲ得ス

執政官ハ議院

ヲ解散シテ可

否チ全國民ニ

訴フルヲ得

執政官兩院ヲ

主宰ス

(丙)事務全体ノ監視及ヒ管理

執政官ハ憲法上嘗テ議案ヲ編制シテ兩院ヲ通過セシメ又

此慣行ノ便益

在野議員ノ提出セル議案ヲ編制スルノ責ニ任スルノミナ
 ラス兩院ニ出ル万般ノ公務ヲ監視シ管理スルノ責任ヲ負
 擔ス執政官ハ何事モ變動極リナキ多數ノ意趣情感ニ放任
 セス常ニ公利ヲ増進シ議員全体ノ便益ヲ保拂ス可キ法途
 ニ從テ議院ノ事務ヲ執行スルヲ盡力セサル可ラス蓋シ
 執政官ハ兩院自然ノ首領ニシテ議院ノ權力ノ守護者ナレ
 ハナリ執政官ハ王室ノ權勢ヲ議院ニ代表シ又執政官タル
 資格ニ附從スル所ノ勢力ヲ使用シテ議院悉皆ノ事務ヲ制
 規シ之ヲシテ適宜ノ制限ヲ超ヘス鞏固ナル進路ヲ取ラシ
 メサル可ラス是レ其職任ナリ

千六百九十二年ウリアム三世ノ初テ議院政治法ヲ執行ス
 ルニ方リ執政官上奏シテ曰ク何人モ下院ハ次ニ何ヲ爲ス

可キ乎ヲ知レル者ナシ下院ハ何レノ事務ニテモ其附與セラル、所ノ者ヲ爲ス可キ乎將タ爲サ、ル可キ乎是レ何人モ斷言スル能ハサル所ノ者ニシテ之ヲ斷言セント欲スルハ自信ノ厚キニ過クル者ナル可シト爾後歷代ノ智識ト經驗トハ此惡狀ヲ改テ王室ト議院トヲシテ調和一致セシムルノ功果ヲ奏シ終ニ今日ノ美觀ヲ啓出セリ今日ニ在テ新ニ内閣ヲ組成スル者ハ直チニ行政府ノ常務ヲ擔當スルノミナラス又一層重要ナル事務ヲ擔當ス是レ憲法ノ理義ノ知ラサル所ノ者タリ則チ其何人ノ手ニ成レルヲ問ハス政治經濟上已カ意見ニ從テ悉皆ノ立法事務ヲ施措シ管理シ指揮スルコト是レナリ内閣ニシテ苟モ下院ノ信任ヲ失セザル以上ハ議院ヲシテ其不便若クハ不策トスル所ノ議案ヲ

採用セサラシムルヲ得可シ

今日執政官負擔スル所ノ公務ハ既ニ多クシテ益々増加スルカ故歷代ノ議院ノ委員ハ政府ヲシテ容易ク之ヲ配賦シ施措セシム可キ規則ヲ採用センコトヲ懇懇シタリ且ツ下院常ニ執政官手中ノ事務ヲ渉ラシムルノ意ヲ有シ苟モ在野議員ノ權理及ヒ特許權ヲ侵害セサル以上ハ之ヲ渉ラシムルノ法ヲ施セリ

執政官ノ事務 施措法

千八百四十八年公務施措法ヲ調査センカ爲メ設置セラレタル精撰委員ハ爾後探テ下院ノ慣行中ニ加ヘラレタル許多ノ貴ム可キ意見ヲ包藏セル報告書ヲ呈シ且ツ一言ヲ加ヘテ曰ク議案ノ編制ニ注意シ早ク之ヲ提出シ事務ヲ兩院ニ配賦スルノ法ヲ巧ニシ又之ヲ執行スルノ順序方法ヲ撰

メハ政府ハ大ニ事務施措ノ勞ヲ減シ困難ヲ除クヲ得可シ
 余輩ハ確信ス果シテ此ノ如クセハ政府ノ意見ハ在野議員ニ
 因テ賛成セラソフヲ、余輩ハ又確信ス果シテ此ノ如クセハ
 諸議員皆テ序次ヲ案サスシテ速ニ公務ヲ施措セント欲ス
 ルノ決意ヲ生センコトヲト
 千八百六十一年ヲ以テ設置セル同上ノ下院ノ委員ハ其報
 告書ニ先ツ今日下院ニ於テ施措スル事務ノ大半ハ執政官
 ノ擔任ニ歸シタルコトヲ舉ケ次ニ其意見ヲ記シテ曰ク在野
 議員ニ與フルニ立法事務ヲ提出シ又通過スルニ充分ナル
 機會ヲ以テスルノ便利ナルヲ明ケシト雖也其以テ必要ナ
 リトスル所ノ議案ヲ提出スルハ執政官ノ一大職分ナリ故
 ニ執政官ニシテ苟モ下院ノ信任ヲ有シ政治ノ善惡ト國家

政府ノ議案ヲ
 討議ス可キ時
 日

ノ安危トニ向テ責任ヲ負擔スル以上ハ之ニ一層ノ便利ヲ
 與ヘテ容易ク議案ヲ提出シ又其討議ヲ要求スルヲ得セシ
 ムルヲ可ナルニ似タリト此等ノ理由ニ因テ委員ハ政府ヨ
 リ出タル議案ヲ討議スルノ時日ヲ増加センコトヲ懇懇シタ
 ルニ下院ハ委員ノ意見ニ從テ之ヲ増加セリ
 下院ノ現行規則ハ每週ノ月曜日、木曜日、金曜日ヲ以テ政府
 ノ議案ヲ討議スルノ日ト爲シ水曜日ヲ以テ在野議員ノ議
 案ヲ討議スルノ日ト爲シ火曜日ヲ以テ動議提出ヲ通知ス
 ルノ日ト爲ス閉會期既ニ迫テ議案尙ホ餘アルハ火曜水
 曜ノ兩日モ亦之ヲ議案討議ニ適用スルコトアリ斯ル場合ニ
 於テハ先ツ政府ノ議案ヲ議シ次テ在野議員ノ議案ニ及フ
 ヲ法トス又事務ノ進歩ヲ捗ラシメンカ爲メ或ハ午前ヨリ

政府ノ議案

開會スルコトアリ
 下院ノ首領ハ其意見ニ從テ政府ノ爲メニ別置セル日ニ討議ス可キ議案ノ順序ヲ定ムルヲ得、下院ノ規則ニ云ハスヤ議案ハ順序ヲ逐フテ討議ス可キ者ナレトモ政府ノ爲メニ別置セル日ニ於テハ執政官ハ政府ノ議案ヲ議目ノ最初ニ置クコトヲ得可シト此特許權ハ充分ノ敬禮ヲ加ヘ充分ノ公平ヲ存シ充分該院全体ノ情感ニ注意シテ使用ス可キ者トス
 千八百六十八年四月三十日グラッドストーンノ愛蘭寺院ニ關スル決議案ヲ提出シテ政府ノ意見ヲ破ルヤ氏ハ執政官ノ氏ニ與フルニ該案ヲ執行スルノ機會ヲ以テセサランコトヲ慮リ下院ニ通知シ曰ク次ノ政府ノ爲メニ別置セル日ニ於テ余ハ四時半ヲ以テ執政官ヲノ政府ノ議案

先ツ發言權ヲ
 在野議員ノ動議

ヲ議目ノ最初ニ置クコトヲ得セシムルノ規則ヲ停止シ又余カ決議案ヲ審査ス可キ委員ヲ設置スル迄ハ當日ノ他ノ議目ヲ延擱ス可キ旨ノ動議ヲ起ス可シ然ルニヤスレ
 一リハ此疑問ヲ討議スルニ充分ノ機會ヲ與ヘンコトヲ約セルカ故氏モ終ニ動議ヲ起サ、リキ

在野議員ノ動議

在野議員ノ手裡ニ在ル議目ハ議院ノ常則ニ因テ支配セラ
 ル可キ者ニシテ執政官ト雖モ之ヲ左右スルノ權ナシ又政府ノ爲メニ別置セル夜ニ於テ在野議員ヲシテ或ル動議ヲ討議セシメントテ定メタル私約ハ動モスレハ該院ノ爲メニ破毀セラル、ノ悞アリ然レモ通常ノ場合ニ於テハ該院ノ首領ノ結ヘル約束ハ敬重セラル可キ者トス
 下院ノ討議ニ際シアハ施政府吏員ノ演說セント欲スル者

先ツ發言權ヲ

ニ先ツ發言權ヲ與フルヲ慣行トス重要ナル事項ヲ議スルニ方テハ議長常ニ其維持者ト抗敵者トナシテ代ル々々發言セシム他人ニ發言權ヲ與ヘント欲シテ議長ノ指名ニ容喙スルハ不當ノ事トス數多ノ議員皆テ發言セント欲スルキハ諸員ニ與フルニ發言ノ機會ヲ以テセンカ爲メ政府ト反對黨トノ整理人常ニ計議シテ約束ヲ定ム

政府ノ重立タル整理人ハ議院ニ屬スル大藏尙書ニシテ頗ル重要ノ人物ナリトス政治上ノ大事ニ於テ議論分裂スルキハ此人常ニ計數者ノ一人ト爲テ各説ヲ贊成者ヲ數フ該院首領ノ命ヲ受テ諸黨ノ議員ヲ調和セシメ以テ公務執行ノ途ヲ圓滑ニシ以テ下院ヲ管理スルカ如キハ此人ノ職分ニシテ飽ク逸人類ノ職性ヲ熟知シ温厚且ツ克己ノ人ニ非

下院ノ整理人

ズンバ一日モ其職分ヲ全フスル能ハサルナリ議員ノ出席ヲ促シテ定數ニ充タシメ議員ヲ制シテ妄ニ退席セサラシムルカ如キモ亦此人ノ職分トス

此尙書ハ整理人ノ職分ヲ盡スニ方リ通常大藏ニ大輔ノ補助ヲ受ク何レノ討議ニ於テモ政府黨議員ノ最大多數ヲシテ内閣ノ意見ヲ贊成セシメンコトヲ勉ムルハ此等緊要ナル職員ノ責任ナリ德意説明約束等百般ノ手段ヲ用キテ諸方ヨリ政府ノ幫助者ヲ蒐集スルハ其責任ナリ内閣幫助者中ノ不滿ヲ抱キ若クハ遲疑スル者ヲ調和シ悉皆ノ議員ヲモテ可成的滿悅セシムルモ亦其職分ナリ

反對黨モ亦其黨ノ爲メニ同様ノ職事ヲ盡サシメンカ爲メ整理人ヲ置ク此整理人ハ通常該黨政權ヲ握レル時同様ノ

職ニ居レル者ヲ以テ之ニ充ツト雖モ或ハ該党ノ首領新ニ之ヲ撰定スルコアリ

上院ノ整理人

上院ニ在テハ驛遞總監ト司獵長官トノ二職員常ニ内閣ノ整理人ト爲リ反對黨ハ嘗テ此官職ニ居レル者若クハ向後之ニ就ク可キ望アル者ヲ撰ンテ整理人ト爲ス

(丁) 執政官ハ黨派ヲ根據トシテ互ニ一致協力セサル可ラス

執政官政治上ノ一致

執政官ノ上下兩院ニ有スル所ノ勢力ハ内閣員ノ互ニ一致協力スル程度ト其党派ノ上ニ使用スルヲ得可キ管理力ノ多寡トニ因テ増減ス吾人今マ理實ヲ引証シテ内閣生存ノ此二大元素ヲ細説ス可シ

執政官ハ政治上ノ一致ヲ要スト云ヘル制規ノ起源發成ヲ

内閣執政官

觀察スルニ方テ吾人ハ一事ノ普テ世人ニ認承セラレ我カ政治上ノ大義ト爲レル者アルヲ知レリ則チ何レノ執政官モ其政府ニ在ル間ハ諸執政官ノ施措シ若クハ議定シタル所ノ者ニ對シテ其同僚ト同一ノ責任ヲ負擔セサル可ラサルコト是レナリ可否ノ容易ニ決定ス可ラサル者アルニ方テハ政府之ヲ公然タル疑問トシテ處措スルコアリ斯ル場合ニ於テハ執政官皆々各々其意見ニ從テ之ヲ可否スルヲ得可シト雖モ公然タル疑問以外ノ事項ハ其政府ニ因テ施措セラルト内閣中ノ一員ニ因テ主張セラルトト問ハス之ヲ視テ既ニ内閣全員ノ一致認承ヲ經タル者ト做サ、ル可ラス故ニ内閣執政官中ノ之ニ同意セサル者ト雖モ政府ノ處置ニ抗抵スルヲ得ス之カ責任ヲ辭スルヲ得ス、議院

他ノ執政官

ニ於テ其同僚ヲ援ケテ或ル處置ヲ主張スルヲ拒ムヲ得
 ス、又政府ノ決議ヲ實施スルカ爲メニ必要ナル行政事務ノ
 執行ヲ怠ルヲ得ス、此制規ヲ破ル者ハ直チニ其職ヲ辭セ
 サル可ラス

内閣ニ議席ヲ有セサル執政官ノ責任ノ區域ハ内閣執政官
 ヲリ狹隘ナリト雖モ其程度ハ決シテ輕少ナルニ非ス内閣
 以外ノ執政官ハ充分力ヲ尽シテ政府ノ政策ヲ維持シ又政
 務長官ノ命ヲ奉シテ智巧誠實ニ其職事ヲ執行セサル可ラ
 ス是レ其職任ニ其負擔スル所ノ責任蓋シ此ニ止マル故
 ニ其附屬スル所ノ行政部局ヲ上院若クハ下院ニ代表ス可
 キヲ命セラレハ命ニ從テ之ヲ代表スト雖モ其長官ノ
 機關及ヒ口舌ト爲テ之ヲ代表スルノミ之カ計畫ニ參與セ

公然ノ疑問

サル政府ノ政策ニ向テ責任ヲ負擔スルニ非ス且ツ其責任
 ハ第二流ノ責任ニシテ第一流ノ責任ニ非ス故ニ能ク長官
 ノ權力ニ順從シテ充分其分賦セラレタル職務ヲ執行スレ
 ハ足レリ

然レモ時ニ疑問ノ精細緻密ニシテ其可否容易ニ決定ス可
 ラス政府中ノ重立クル人々ハ之ニ付テ其意見ヲ一致調和
 セシムル能ハスト思考スルモ尙ホ急速ノ決定ヲ要スル者
 生スルコトアリ斯ル疑問ニ關シテハ内閣執政官モ豫メ其意
 見ヲ異ニス可キヲ約シ其議院ニ提出セラル、コト方テハ各
 自ノ意見ニ從テ或ハ賛成シ或ハ攻撃スルヲ得可キ公然
 ル疑問ニ爲ス

蓋シ内閣ノ協同一致ハ普クシ認承セラレタル制規ナルカ

故豫々如何ナル事項ハ之ヲ公然タル疑問ト爲スヲ得可
 キヤチ説明シ難シ之ヲ説明スレハ必ス内閣ノ性格ヲ傷ツ
 ケ多少議院ニ對シテ有ス可キ尊重信任ヲ失墜ス彼ノ議院
 改革案、投票法案、奴隸貿易廢止案、羅馬舊教徒解放案ノ如キ
 ハ或ル内閣ハ之ヲ公然タル疑問ト爲シ或ル内閣ハ之ヲ公
 然タル疑問ト爲サ、リシ者ナリ
 内閣ノ執行ス可キ事務甚々多シ其間固ヨリ公然タル疑問
 トシテ待遇セサル可ラサル者ナキヲ得サル可シト難ニ公
 然タル疑問ノ増加スルハ國家ノ慶事ニ非ス何トナレハ内
 閣執政官タル者ハ皆テ進ンテ責任ヲ負擔スルノ必ナカラ
 サル可ラスシテ公然タル疑問増加スルキハ執政官自ラ責
 任心ヲ減却ス可ケレハナリ政府万般ノ事務皆テ公然タル

内閣執政官政
 府ノ處措ニ抗
 抵ス

疑問ト爲テ内閣中ノ少數常ニ多數ニ反對シ或ハ之ヲ助援
 セサラン乎重要事件ノ實施セラル、モノ必ス少ナカル可
 シ而シテ汎ク國民ノ了解知得ス可キ一定ノ主義ニ基テ處
 斷セサル可ラサル政治上ノ重大事件陸續生起スルモ政府
 ハ常ニ一定ノ政策ナク朝改暮變ノ醜狀ヲ現呈セシテ必セ
 リ
 此点ニ關セル憲法上ノ慣行ノ進歩發成及ヒ今日ノ現況ヲ
 示サンカ爲メ左ニ實証ヲ掲ク

(一) 内閣執政官

ヒット第一次ノ執政ニ際シロード、サルロー、大法官ノ職ニ
 在リ千七百八十三年此内閣組成ノ初ヨリ大法官ハ獨立
 ノ位地ヲ固取シ絶ヘス政府ノ處措ニ激抗シ、決シテ其同

僚ト一致協力セス以テ自ラ内閣困難ノ源ト爲レリ其同僚ニ抗抵スルノ甚ダシキビットヲシテサルローノ内閣ニ在ルヤ万事ニ反對シ一事ヲ發言セズ又何レノ言説ニテモ之ヲ賛成スルノ用意アリキト云ハシメタリ氏ノ拔群ノ智能ヲ備ヘ其職任ニ適スルヤ大宰相ハ久シク氏カ行爲ヲ耐忍セリト雖モ終ニ氏ヲシテ其行爲ヲ改メシメンカ爲メ陛下ノ助援ヲ請ハサル可ラスト考定スルニ至レリ千七百八十九年ビットハ書ヲ陛下ニ奉テ其困難ナル狀況ヲ陳ヘ且ツ内閣員互ニ協和一致スルコトノ願ハシキ所以ヲ陳フ陛下ハ此書ヲ得テ直ニ勅諭シ大法官ニ賜ハリタルニ大法官ハ謹ンテ陛下ノ命ニ從フ可キ旨ヲ答フ是ヨリ二三年間ハ事務ノ進歩圓滑ナリシガ其後ニ及ンテ

サルロー再ヒ如何ヒス可ラサルニ至レリ彼ノ執政官ノ會食ハ常ニ飲食終ルノ後チ國事ヲ商議センカ爲メ設クル者ナルニロート、サルローハ決シテ其意見ヲ陳述セサルコト多ク甚ダシキハ則チ他室ニ退テ睡眠スルニ至レリ議院ニ在テモ氏ハ常ニ内閣ヲ保助セス之ヲ攻撃スルコト多カリケレハ大宰相ハ止ムヲ得ズ他人ヲ以テ上院ニ於ケル政府ノ首領ト爲セルコト氏ハ大ニ之レヲ怒テ上院ニ於テ政府ノ處措ヲ攻撃スルコト益々激烈ナリキビットノ忍耐ナルモ是ニ至テ再ヒ忍耐スル能ハス書ヲ陛下ニ奉テ大宰相ト大法官トハ到底協力同心スル能ハサルカ故陛下ハ二者其一ヲ免黜セサル可ラサル旨ヲ奏ス陛下ハサルローヲ寵愛セラル、ニモ拘ハラス直チニ歩チ大宰相

ニ讓テ大法官ヲ免黜シロート、ラッフボローヲ擧テ大璽ヲ
依托シ給ヘリ

政府ノ處措ニ
反對スル者ハ
直チニ辭職セ
サル可ラス

ビントノ在職後ハ一層嚴重ナル習慣行ハレテ施政府員ハ其
内閣ニ議席ヲ有スルト否トチ問ハス皆チ其同僚ヲ助援セ
サル可ラサルニ至レリ施政府員若シ其同僚ニ反對ノ政府
ノ議案公然タル疑問ヲ除クニ投票スレハ直チニ辭表ヲ呈
シテ大宰相ニ與フルニ其官職ヲ他人ノ手ニ移スノ機會ヲ
以テセサル可ラサルニ至レリ大宰相ノ職權ヲ以テ内閣不
和ノ狀觀ヲ呈スルヨリ生ス可キ弊害ヲ豫防スルノ道唯ダ
此一法アルノミ其同僚辭表ヲ呈スルニ方リ陛下ニ之ヲ認
許ス可キ旨ヲ德通スルト其或ル事項ニ於テ政府ニ反對セ
ルニモ拘ハラス依然之ヲ政府ニ留メント欲スル由ノ希望

チ陳述スルトハ大宰相ノ意見ニ在リ

例ハロード、リヴァプール内閣ノ非常處罰ノ議案ヲ提出シテ
ジョージ四世ノ后宮ヲ罪セントスルニ方リ印度事務局長
カンニングハ嘗テ女王ノ知遇ヲ被リ其信任補導者ノ位
地ヲ占メタルカ故女王ニ反對セル處置ニ加擔スルヲチ
欲セス親シク四世王ニ謁シテ辭表ヲ奉レリ然ルニ王ハ
大宰相ヲ經テ書ヲ送り氏ニ命スルニ依然其職ニ居ル可
キヲ以テシ之ニ與フルニ女王ノ事ニ關シテハ其意見ニ
從テ行動ス可ク又若シ之ヲ要スルキハ其依然在職スル
ノ理由トシテ王ノ直命ヲ引用スルヲ得可キ自由ヲ以テ
セリカンニングハ陛下ノ意ニ從ヒ毫モ女王ニ反對セル
處置ニ參與セスシテ幾ント六個月間内閣ニ止レリ然レ

此後チ下院ハ女王ノ件ニ關シテ討議ヲ開ク可キ勢ヲ現
 ハシ且ツカノンニシテ若シ執政官ノ一人トシテ該院ニ出
 席シ乍ラ之ニ關與セズンハ爲メニ已ント同僚トノ困難
 ナ招ク可キヲ明カナリキ故ニ氏ハ再ヒ辭表ヲ奉呈シタ
 ルニ王モ此度ハ憾ヲ遺シテ之ヲ許セリ
 千八百二十八年殖民部國務尙書ハスキントンハイースト、
 レット、フナードノ撰舉權剝奪議案ニ付キ其同僚ニ反對シテ
 投票セリ其意蓋シ向キニ爲セル所ノ誓約ヲ履行センカ
 爲メ今マ剝奪スル所ノ撰舉權ヲハスキントンハムニ移サン
 ト欲スルニ在リ氏ハ直チニ書ヲ大宰相ウエリントン侯ニ
 贈テ辭職ヲ請ヘルニ侯ハ之ヲ諾シテ辭職ノ願書ヲ陛下
 ニ奉呈シタリハスキントンハ竊ニ大宰相ノ之ヲ止メント

劣等執政官ノ
反對

ナ期セシニ侯毫モ躊躇スル所ナク直チニ其辭職ヲ諾シ
 タル故頗ル侯ヲ恨ミ朋友ニ頼テ辭表ヲ奉レル所以ノ眞
 意ヲ辨殊セント企タリ然ルニ侯ハ斷然答テ曰ク是レ失
 誤ナラス失誤ナル能ハス又失誤ト爲ラサル可シト

(二) 内閣以外ノ執政官

千七百七十二年二月フックスハ當時調制中ナリシ國王
 結婚ノ議ニ反對センカ爲メ海軍會議局ヲ去レリ此議ハ
 陛下大ニ之ヲ希望セルカ故執政官止ムヲ得スシテ同意
 セル所ノ者トス該案ノ議院ニ在ルニ方リ陛下書ヲ大宰
 相ロードノースニ贈テ政府ノ吏員ニシテ充分之ヲ賛成
 セサル者ハ皆ナ陛下ノ震怒ニ觸ル可キ旨ヲ諭セリ全年
 十二月フックスハ再ヒ大藏大輔ト爲テ政府ニ入ルト雖

其長官ロードノリスニ順從セサルカ爲メ後十二年ヲ
經テ免黜セラル

千八百二十二年ハスキツンハ森林掛長ニシテ位地ヲ内
閣ニ有セサリシト雖ニ穀物事件ニ付テ其同僚ニ反對セ
サル可ラスト思惟セシカハ直チニ辭表ヲ大宰相ロード
リヴァプールニ呈シタルニ大宰相ハ氏ニ勸ムルニ之ヲ引
ク可キヲ以テシ依然其職ニ居ラシメタリ千八百二十九
年檢事長サー、チアーレスグヱザロールハ政府ノ議案トシテ
現出セラレタル羅馬舊教信奉案ニ反對シ後チ少シクシ
テ其職ヲ免セラレサー、ジョー、スカitleット之ニ代テ檢事長
ト爲レリ千八百三十一年十月ホウ侯ハ改革案ニ反對シ
テ投票セルカ爲メ女王ノ「ロード、チアムフローン」ノ職ヲ免

セラル是ヨリ先キ改革案ノ議院ニ出ルヤ侯ハ之レニ反
對シテ投票セント欲スル旨ヲ通知シ其官職ヲ政府ノ與
奪スルニ任セタリ然ルニ政府ハ侯ヲ以テ通常黨派政治
ヨリ獨立スト思惟セラル、所ノ女王宮中ノ職員ナルカ
故其意見ニ從テ投票スルノ特許ヲ有スル者ト爲シ依然
其職ニ居ラソフヲ請ヘリ斯ル先例アレハホウ侯モ此度
ハ其爲サント欲スル投票ニ關シテ政府ニ通知スルヲ要
セスト思考シタルニ執政官ハ其政策ニ反對シテ投票セ
ルノ故ヲ以テ陛下ニ懇懇シテ侯ヲ免黜セシメタリ千八
百三十二年軍務尙書サー、エーチ、パーチルハ執政官ノ答
責ニ關スル動議未ダ決定セサルニ方リ内閣員ノ氏カ爲
メニ疑問ノ性質ヲ詳細説明セルニモ拘ハラズ議院ヲ去

レルカ故内閣全員ノ奏議ニ因テ免黜セラル千八百四十九年貧民救助法制局長ベーンズハ政府ノ議案タル航海規則廢止案ニ反對シテ投票シタレハ大宰相ハ下院ニ對シテ「氏ハ其意見ニ從テ此疑問ニ投票スルノ約束ニテ就職ヲ承諾シタル」由ヲ説明セリ千八百五十四年ベーンズハ再ヒ他ノ疑問ニ於テ其同僚ニ反對スルヲ以テ其職任ト感覺シ辭表ヲ呈スト雖ハ大宰相ハ氏カ國家ニ盡セル功勞ノ多キヲ思フテ之ヲ許サ、リキ

嚴密ナル規律

今日劣等執政官ノ間ニ執持セラル、規律ノ嚴密ナルハ左ノ事例ニ因テ一層詳明ナルヲ得可シ
千八百六十三年愛蘭尙書ハ書ヲ下院ノ一議員ニ贈リ之レヲ援テ或ル議案ヲ通過セシムルニ盡力ス可キヲ約シ

タレハ愛蘭ノ諸長官皆ナ之ヲ不可トセルカ故議院ニ出ルニ及ンテ之ニ抗抵セリ

千八百六十六年サー、ラウンデル、パーマー(檢事長)ハ政府ノ改革案ヲ討議スルニ方リ該案中儲蓄銀行ニ撰權ヲ與フルノ一項ヲ指シテ是レ決シテ政府ノ議案中ノ最良ナル事項ニ非サル可シト斷言セリ「此言辭ハ氏カ後チニ演ヘタルカ如ク余一個ノ意見ヲ以テスレハ余ハ之ヲ不可トスト云ヘルニ同シ千八百六十七年氏時ニ政府ト反對ノ位地ニ立テリ」ハデルビー内閣ノ提出セル改革案中全上ノ事項ヲ評シテ其主義全ク誤リ且ツ到底實行ス可トサル者ナリト云ヘリ

劣等執政官ノ

内閣執政官ハ政府ノ劣等職員ノ言語ニ向テ責任ヲ負擔セ

ス

例ハ千八百三十一年九月二十一日改革案ノ討議ニ際シ
 愛蘭ノ檢事副長ハ國王ハ下院ニ計レハ上院ノ意見ヲ問
 ハスシテ郡邑ノ權理ヲ剝奪スルヲ得可シト云ヘル憲法
 違背ノ言辞ヲ演ヘタルニ此言論ハ頗ル議員ヲ激昂セシ
 メ執政官ニ向テ之カ取消ヲ要求スル者アルニ至レリ出
 納檢査長ロード、アルソルプハ右ノ言說ヲ不可トスト雖
 此尙ホ之カ取消ヲ拒ンテ曰ク政府ヲシテ内閣員ヲサ
 ル縉士ノ討議ノ際ニ發セル言語ノ責ニ任セシムルハ不
 正、不當、不公ニシテ且ツ當院ノ習行慣例ニ合ハサルカ如
 シト

執政官ハ議院

執政官ヲシテ民會ノ一機械ヲラシメス議院ト協和一致シ

多數ノ保助ヲ要ス

テ政務ヲ執行セシメント欲セハ之ヲシテ兩院特ニ下院多
 數ノ保助ヲ得セシメサル可ラス而シテ此目的ハ通常政黨
 ノ働キニ因テ之ヲ達スルヲ得可シ何レノ政黨カ國民ニ立
 法府ニ勝ヲ制スルニモセヨ該黨ハ黨中最良ノ人物ヲ舉テ
 其首領タリ代議士タラシム至尊ハ此等ノ最良人物中ニ就
 テ其參議者タリ施政者タラシメント欲スル者ヲ撰擇シ給
 フカ故政黨ノ利害上ヨリ觀察スルモ國家ノ利害上ヨリ觀
 察スルモ議院ハ之ニ向テ充分ノ保助ヲ與ヘサル可ラス上
 下兩院少ナクモ下院ニシテ之ヲ信任スル以上ハ執政官ハ
 其位地ニ屬スル所ノ權勢ヲ以テ議院ノ討議ヲ勸誘影響
 スルヲ得可シ且ツ王室ト議院トノ共ニ視テ公務ヲ附托ス
 ルニ適任ト認メタル所ノ人物ハ諸議員モ亦其判斷意見ノ

果シテ失誤ナキヲ信シ執政官ノ以テ議院ニ下附スルヲ便
宜ト爲ス所ノ者ハ如何ナル事務ニテモ皆ナ之ヲ好待セン
ト欲スルノ意アル可シ著明ナル弊害ノ攘除ヲ要求スルハ
議院固有ノ特權ナルカ故斯ル場合ニ於テモ毫モ忌避スル
所ナク政府ノ處措ヲ論評咎責ス可シト雖也是ヨリ以外ノ
方法ヲ以テ行政事務ニ於ケル執政官ノ行爲ヲ妨害シ又之
ニ干渉セサル可シ

議員ノ出席

大藏尙書ハ議院發會前若クハ會期中ト雖也重要ナル議案
出ルヒハ特ニ回章ヲ發シテ政府ノ保助者ト知ラレタル代
議士ノ出席ヲ誘促ス或ル場合ニ於テハ該院ノ首領自ラ回
章ヲ其保助者ニ贈ルヲアリ反對黨モ亦絶ヘス同一ノ回章
ヲ發シテ黨人ノ出席ヲ促ス

黨派ノ結束大ニ弛緩ス

千八百三十二年ノ改革案通過前ヨリ千八百四十六年サ、
ロベルト、ピール内閣ノ敕法ヲ廢止セル迄ハ政黨ノ結束特
ニ嚴重ニシテ施政府ハ常ニ議院ニ於テ至當ノ保助ヲ得タ
リシカ該疑問ヲ決定スルニ方リピール俄ニ其說ヲ一變シ
テヨリ黨派政治ノ舊制忽チ變動シテ充分之ヲ回復ス可ラ
サルニ至レリ蓋シ氏ハ保守黨ノ重立タル人々ニスラ豫メ
通知セヌシテ俄然其說ヲ一變シタルカ故朝野皆ナ大ニ驚
愕シ終ニ啻タ敕法廢止事件ヲシテ我カ理財史ノ一大標点
ト爲ラシメタルノミナラス又我カ憲法史ノ一大標点ト爲
ラシメタリ加フルニ嘗テ改進保守ノ二黨ヲ兩分シテ各々
敵地ニ立タシメタル大疑問ハ皆ナ粗ホ其緒ヲ収メ且ツ教
育益々進ンテ深ク政治ニ注意スル者大ニ増加シタルカ故

反對黨

政黨以外ニ獨立スル議員ノ員數自ラ増加シ終ニ何レノ政黨モ必ス多數ノ保助ヲ下院ニ得ルヲ甚ク困難ナルニ及ヘリ然レヒ余カ本書ヲ著スノ目的ハ固ト此趣旨ヲ詳論スルニ在ラス又必ス政府ノ微弱ナルカ爲メニ生ス可キ弊害救治ノ法ヲ計畫スルニ在ラス余ハ事實ヲ敘記スルヲ目的トシテ理論ヲ排列スルヲ目的トセス余ハ當初ノ目的ヲ堅守シテ之ニ違ハサランヲ期ス余ハ今マ唯タ立憲政府ノ下ニ於テ議院カ施政府ノ行爲ト立法事務トヲ自由ニ論評スルノ便利ヲ有スル實例ヲ擧テ讀者ノ注意ヲ惹キ又執政官ハ議院ニ對シテ其充分ナル保助若クハ適宜ノ試験ヲ期待ス可キ理由アル所以ヲ敘述セント欲スルノミ

我カ政制中議院政治法ト同時ニ其發成ヲ始メ大ニ議院政

治法ヲ強固有効ナラシメタル者ニシテ是ニ略記ス可キ者アリ則チ其結束整然タル反對黨ノ上下兩院ニ現出セルト是レナリ

時ノ施政府之カ口舌タリ代表者タル所ノ政黨ハ必ス他ノ政黨ノ爲メニ議院ニ於テ抗敵セラル此政黨ハ力能ク政敵ヲ覆ヘシテ政權ヲ掌握スルヲ得ルニ至レハ代テ政府ニ入ランヲ期ス此政黨モ亦能ク明確ナル主義ヲ守テ憲法ノ嚴密ナル區域内ニ行動シ且ツ憲法ヲ尊重スルヲ其政敵タル在朝黨ニ異ナルナシ是レ所謂陛下ノ反對黨ナル者ニシテ此名稱ノ當否ハ世間之ヲ疑フ者ナキニ非スト雖ヒ王室ト憲法トニ忠ナルハ國民ノ大會ニ列ナル諸政黨ノ皆ナ然ル所ナリ故ニ反對黨トハ王室憲法等ニ反對スル政黨ノ

其業務

謂ニ非スシテ在朝黨ニ反對スル政黨ノ謂ナリト知ル可シ
 反對黨ハ憲法上万般ノ公務ヲ論評ス可キ者ナルカ故其議
 院ノ討議ト議院ニ於ケル公務ノ執行トニ向テ有スル所ノ
 勢力ハ甚タ健全有効ナリトス政府ハ何等ノ方途ヲ追行ス
 ルモ反對黨ハ其位地ノ然ラシムル所必ス攻撃ヲ試ム可キ
 弱点ヲ發見セント欲ス施政府ノ行爲ニ反對セル事例ヲ檢
 出シ施政府万般ノ行爲處措言語ニ反對シテ理上演フルヲ
 得可キ者アレハ皆ナ之ヲ陳述スルハ反對黨ノ業務ナリ之
 ヲ約言スレハ恰モ審査官ト爲テ詳密ニ政府悉皆ノ行爲處
 措ヲ檢点スルハ反對黨ノ業務ナリ
 利弊相ヒ伴フハ事物ノ常數ニシテ彼ノ議院ニ於ケル反對
 黨ノ如キモ政府ノ失行ヲ豫防スルノ効力實ニ大ナリト雖

能動モスレハ其勢力ヲ誤用シ一變シテ朋黨比周ノ醜狀ヲ
 呈スル一身上ノ攻撃無根ノ咎責ノ機關ト爲ルコアリ、私利
 私慾ヲ逞フセンカ爲メ輿衆ノ惡勢慾望ニ枉從スルコアリ、
 議院ナル反對黨ノ此醜狀ニ陷ルコ少ナキ所以ノ者ハ二事
 ノ之ヲ矯制スル者アルニ因レリ其行爲モ亦撰擧人ト新聞
 紙トノ爲メニ觀察論評セラル、コ一ナリ其盡力奏功シテ
 現任政府ニ代ハルニ至レハ其野ニ在テ主張セル所ヲ實行
 セサル可フサルコ二ナリ、以對黨モ代テ政府ニ入ルヲ得可
 キ見込アルノ一事ハ能ク其狂暴ヲ制シ万般ノ行爲ニ於テ
 適度ヲ越ヘサラシムヒアル云ハスヤ官職ヲ得ルノ望ハ反
 對黨ノ苛酷ヲ減シ、就職ヲ強迫セラル、ノ畏ハ其無法ヲ制
 スト

古格言ニ曰ク反對黨ノ職任ハ甚ク簡單ナリ万事ニ抗抵シテ一事ヲ發言セサルニ在リトサー、ロベルト、ピールノ如キモ亦同一ノ精神ニテ數々云ヘラク余ハ他ノ計畫ヲ論評セシカ爲メ召喚セラル、迄ハ余カ計畫ヲ演ヘサリキト反對黨ノ職分ハ一種奇異ナル者ニシテ炯眼ヲ注テ抗抵スル政府ノ行爲ヲ觀察シ事ノ善カラサル者咎ム可キ者論評ス可キ者ヲ檢出スルニ在リ其自ラ倒ル可キヲ知ルモ尙ホ一撃ヲ試ムルニ在リ政府若シ蹶躓スレハ其蹶躓シタルヲ暴露シ以テ向後再ヒ蹶躓セサランヲ請求スルニ在ルヲ疑ヲ容レヌオスレリ曰ク議案ヲ起草シ政策ヲ考出シ其計畫ヲ議院ニ提出シテ衆員ノ賛成ヲ求ムル者ハ反對黨ニ非スシテ執政官ナリ吾人反對黨ハ執政官提出スル所ノ告知

反對黨ノ首領

計畫ヲ論評センカ爲メ議院ニ在リ而シテ此告知計畫ハ吾人ノ與リ知ルヲ得サル知識ニ基テ起リ執政官負フ所ノ責任ニ誘導セラレテ起ル者ナル可シト
正當ノ反對黨ハ在朝黨ニ對立シテ憲法ノ平衡ヲ維持スル者ナルカ故政府ノ首領ハ恰モ反對黨ノ首領ニ對立シテ唯雄ヲ争フ、有力ノ首領ナケレハ政黨ノ結束ハ充分ナル能ハス反對黨ノ首領ハ該黨ノ兵士ヲ訓練管督スル所ノ者タリ其德行ハ以テ黨員ノ敬重ヲ買フニ足り其才能ハ以テ該黨ノ政權ヲ握ルニ方テ國事ヲ主宰スルニ足ル可キ人物常ニ撰マレテ反對黨ノ首領ト爲ル首領ハ議院ノ内外ニ於テ敏捷果決ノ行爲ヲ示シ以テ該黨員ノ心ヲ收攬スルノ力ナカテサル可ラスロード、ボリンブロークノ言ニ曰ク人民モ亦

獵犬ノ如ク之ニ獲物ヲ示ス所ノ人ニ從フト然レモ政黨ノ
首領ハ慎密ニシテ果敢ノ氣力ニ富マサル可ラス

反對黨ノ當ニ
取ル可キ行爲

反對黨ノ首領ハ妄ニ執政官ノ手中ニ在ル立法事務ヲ拒任
セント欲スル者ニ助力ス可ラス却テ上下兩院ヲシテ公正
自由ニ之ヲ討議セシムルニ尽力ス可シ既ニ討議ヲ經タル
上ハ己ノ不可トスル所ノ者ト雖モ之カ進步ヲ挫ラシムル
ニ尽力ス可シ政黨ノ抗爭ノ激烈ナルニモ拘ハラズ幸ニシ
テ英國ノ反對黨ハ常ニ正當ノ法道ヲ守テ狂暴ノ行爲ナカ
リキ今マ之ヲ証センカ爲メ一二ノ事例ヲ舉ク可シ例ハ政
府ノ首領若シ王室ノ吉凶ヲ慶吊センカ爲メ奏議ヲ了ル可
シト云ヒ或ハ某人ノ美行ヲ賞センカ爲メ議院ノ謝狀ヲ附
與ス可シト云フカ如キ動議ヲ發スルコトアレハ上下兩院ハ

在朝黨ト在野
黨トノ通信商
議

必ス之ヲ賛成スルヲ以テ反對黨ノ首領ノ至當ナル職分ト
爲ス加之ナラス嘗テ官職ヲ占メタル反對黨員ハ國家ノ公
益ヲ傷害ス可キ動議出ルコトアレハ之ヲ通過セシメサラン
カ爲メ或ハ其意見ヲ述テ議院ヲ教導シ或ハ之ニ其在職中
ニ實驗セル所ヲ通知シ以テ執政官ヲ援クルノ慣行アリ
議院ノ首領ハ立法事務ノ進歩ヲ挫ラセンカ爲メ數々反對
黨ノ議員ト通信商議スルコトアリ豫メ之ト通信商議スレハ
無用ノ誤解ヲ防キ相互ノ協和ヲ得困難ナル疑問モ圓滑ニ
之ヲ決定スルヲ得ル等議院全体ノ便益ヲ生スルコト甚ク多
シ然レモ政黨ノ疑問ニ付テハ豫メ通信商議スルコト少ナシ
是レ設ヘ通信商議スルモ容易ニ相互ノ協和一致ヲ得可ラ
サルニ因ルナリ

此通信商議ハ通常公務ノ左迄政治上ニ關係ヲ有セサル者ニ限ルト雖也時ニ或ハ重要ナル觀相ヲ呈シ困難ナル政治上ノ疑問ニシテ之ヲ決定センカ爲メニハ議院兩黨ノ協力ヲ要スル者ニ涉及スルコトアリ

ピットトフォックストハ右ノ如キ商議ヲ爲サンカ爲メ會合セルコト兩三回アリ、アッギントンハ諸般ノ事項ニ於テ其前任官タリシピットト商議セリ、ブローハムハ下院ニ於テ反對黨ノ位地ヲ占ムルニ方リ數々ロード、カッスルリー、カンニングト商議シタリ氏ノパースヴァルニ抗敵セルコト通常反對黨員ト政府ノ首領トノ間ニ行ハル、爭執ヨリ激烈ナリシト雖也氏ハ尙數々之ト商議シタリ、ロード、メルボールノ執政ニ際シ上院反對黨ノ首領タリシウヰリント

ン侯ハ兵事ニ付テ絶ヘス政府ト通信商議シタルノミナラス其他諸般ノ事項ニ付テモ亦通信商議セリ千八百四十年豫メ反對黨ト商議量定セサリシカ爲メ政府ノ議院ニ於テ敗北シタルコト二回ニ及ヘリ下院ハ女王陛下ト結婚シ給ヘルアルベルト殿下ノ爲メニ支出ス可キ費用額ヲ減少シタル一ナリ上院ハ歸化議案中殿下ヲシテ女王陛下ノ直下ニ居ラシメンカ爲メ設ケタル一條ヲ刪除シタルニナリ大宰相ロード、メルボールン若シ豫メ反對黨ノ諸首領ト通信商議セハ決シテ斯ル難事ヲ生出セサル可キニ毫モ之ヲ商議セサリシカ故終ニ此不都合ヲ生スルニ至レリ爾後政府ハ茲ニ鑑ミル所アリ且ツ殿下ノ指示ニ依リ疑問ノ政治上ニ涉ラスシテ寧ロ一身

上ノ性質ヲ帶フル者ハ概テ之ヲ反對黨ノ諸首領ニ通信
商議シタリ

之ニ反シテ千八百三十四年愛蘭尙書リットルトンハ竊ニ
政府愛蘭抑制議案ニ關シテ執行ス可キ方途ヲダニール
チーコンチルニ通知シタルニ啻ダ好結果ヲ生セサリシ
ノミナラス頗ル議員ノ憤怒ヲ招キ爲メニ激烈ナル討議
ヲ來タセリ此通知ハ豫メ政府ノ認許ヲ得ス又幾ント政
府ヲ覆ヘサントシタル輕忽不當ノ者ナリシコト明ケシ
リットルトンノ同僚ハ他日ニ至テ氏カ過ハ反對黨ノ首領
ト通信シタルニアラスシテ通信シタル境域ノ餘リ廣キ
ニ在リシコト明言セリ

(戊) 議院ニ於テ執政官若クハ在野議員ニ對スル

執政官ニ對ス
ル質問

質問及ヒ執政官ノ答辨

公務上ノ事項ニ就テ執政官若クハ在野議員ニ質問スルコ
ト許スハ上下兩院ノ慣行ナリ此慣行ハ議員ニ便宜ヲ與ヘ
公共ノ便益ヲ生スルコト少ナカラズ何トナレハ万般ノ公務
ニ就テ議員ノ誤解ヲ去リ正當ノ知見ヲ來タスコトヲ得可ケ
レハナリ又此慣行ハ議員ヲシテ説明ヲ求メソカ爲メ動議
ヲ起スノ必要ヲ感セサラシムルコト多シ何トナレハ通常ノ
説明ハ故ラニ動議ヲ起シテ之ヲ求メサルモ質問ヲ以テ之
ヲ聞クコトヲ得可ケレハナリロード、ジョン、ラッセル曰ク質問ノ
限界ハ其動議ノ主旨ト爲ステ得可キヤ否ヤニ在リト此言
ヤ質問ニ關スル制規ト視做スモ不可ナカル可シ
今日專ラ行ハル、此慣行ハサンデルランド侯大宰相タ

ルニ方リ一千七百二十一年二月九日上院ニ起レル者ヲ以テ記録ニ留マル最先ノ例証トス可シ此日政府ハ上院ノ之ヲ審理セント欲シタレモ未ダ着手セサルニ方テ逃亡セル罪人ヲ外國ニテ逮捕シタルヲ報告ス此事ノ大ニ社會公衆ノ注意ヲ惹ケルヤロド、カウパーハ施政府ニ向テ此報告ノ確乎タル根據アルヤ否ヤヲ該院ニ通知セラレノヲテ請求セリ是ニ於テ平ロド、サンデルランドハ報告ノ誤ナキヲ告ケ罪人ノ逮捕セラレタル狀況ヲ説明ス上院ハ大宰相ノ説明ヲ得テ満足シ陛下ニ請フニ有司ニ命シテ之ヲ英國ニ檻送セシメラレノヲ以テスルノ奏議ヲ議定セリ

議院ニ於テ事ノ疑ハシキ者ヲ質問スルヲ許スハ久シク行

レタル慣行ニシテ之カ爲メ或ハ議事ヲ妨クルヲアルニ至レリ然レモ兩院共ニ公然之ヲ認承シテ規則中ニ編入セルハ全ク近時ノ事ナリトス

千八百三十年四月廿九日下院議長議員ニ告テ曰ク當院ノ規則中議員ノ疑ヲ質シ之カ説明ヲ求ムルヲ禁スル者ナシ且ツ疑ヲ質スルハ少シク不規則ノ嫌ナキニ非スト雖モ議員ヲ便益スルヲ甚タ大ナリト次日多少ノ非難ト説明トヲ費シタル後下院ハ禮讓ノ事トシテ當日第一ノ議案ニ先テ疑ヲ質スルヲ認許セリ

千八百五十四年メーノ議長ノ命ニ因テ下院ノ規則ヲ編制スルニ及ヒ一條ヲ設テ質疑答辨ノ時間ト方法トヲ定ムルヲ決セリ

規則第五百二十二條ニ曰ク公務執行ニ先チ公務上ノ疑問ヲ
 執政官ニ質シ又議案動議其他該院ノ事務ト連絡セル公務
 上ノ疑問ヲ之ニ關與セル他ノ議員ニ質スヲ得ト
 議員ノ質疑セント欲スル者ハ其趣ヲ議事録ニ筆記シ若ク
 ハ私ノ談話ニ因テ豫メ之ヲ通知スルヲ常例トス此通知ヲ
 ケレハ之ヲ以テ疑問ニ答辨セサル充分ノ理由ト爲スヲ
 得、質疑ス可キ執政官ヲ誤リタル時モ亦然リ然レモ事態切
 迫ナルモハ議員ハ豫メ通知スルヲナクシテ質疑權ヲ主張
 スルヲ得可シ
 議員ハ疑ヲ質スルニ方テ之ヲ説明スルニ必要ナル者ノ他
 何等ノ議論モ意見モ之ヲ演ヘス如何ナル事實モ之ヲ吐露
 セサルヲ要ス其言語ハ簡單ニシテ明瞭ナラサル可ラス何ト

ナレハ之ヲ駁撃スル能ハサルニ際シテ意見ヲ演フルハ則
 チ討議ノ自由ヲ蠶食スル者ナレハナリ、嘗テ疑問單ニ意見
 上ノ事項ニ關セリ迎答辨ヲ拒マレタルコトアリキ
 設若疑問(若シ斯クナルモ)如何スルヤト云フカ如キ質問
 ヲ質スルハ不可ナリ斯ル質問ニハ答辨セサルヲ法トス蓋
 シ執政官ハ其場合ニ遭遇シ其狀情ヲ熟知シタル後ニ非ス
 ンハ豫メ政府ハ何事ヲ爲ス可キ乎又已レ自ラハ如何ニ之
 ニ處ス可キ乎ヲ明言スル能ハサレハナリ、時ニ或ハ未來ニ
 關スル疑問モ之ヲ質スヲ得可キ程ノ重大ナル事件ノ起ル
 アルヲ疑ヲ容レスト雖モ一般ニ論スレハ議院ニ於ケル執
 政官ノ位地ハ其爲ス所ノ者ニ向テ責任ヲ負擔スルノミ諸
 般ノ小事件ニ就テ其爲サントスル所ノ者ヲ該院ト商議ス

在野議員ニ對スル質問

可キ責任ヲ有スルニ非ス
 質問若シ攻撃ノ意趣ヲ含ミ或ハ其他非難ス可キ個條アル
 キハ下院ニ於テハ議長上院ニ於テハ該院自身之カ變更ヲ
 命シ若クハ之ヲ引カシム可シ又議員ハ現ニ該院ノ手ニ在
 ル事項ニ適切ナラサル疑問ヲ執政官ニ質ス可ラス
 執政官ニ質問スルノ他其代表スル所ノ格段ナル利害ニ就
 テ前任執政官反對黨ノ首領劣等官則チ事務官等ニ質問ス
 ルヲアリ例ハ玉若クハ法律ニ因テ設置セラレタル事務
 掛僧侶會ノ上院議長タルカンテルバリーノ大教正及ヒ市
 都ノ土木掛ニ向テ各自ノ擔任事務ニ關スル質問ヲ爲スカ
 如シ
 然レモ上下兩院ノ在野議員ニ向テ質問スルノ權理ハ嚴密

質問ニ對スル答辨

ニ制限セラレ議院ノ手ニアル者ニシテ其關與スル格段ナ
 ル事務若クハ處措ノ他何事モ之ニ質問スルヲ得ス質問若
 シ此制規外ニ出ルキハ議長ハ之ニ處中シテ之ヲ制止シ若
 クハ之ヲ好ムニ非スハ之ニ答辨スルヲ要セサルヲ受
 問者ニ告知ス可シ
 答辨ハ質疑者ヲ之ヲ了解セシムルニ必要ナル丈ケノ事
 項ヲ説明スルノミ決シテ疑問外ニ涉ルヲ得ス然レモ執政
 官ニハ多少ノ餘地ヲ與フルヲ通慣トス
 下院ニ於テ詳細ナル質問ヲ爲スノ習慣ハ益々盛行シ終ニ
 天下万邦ニ生起スル公事ヲ質問スルニ至レリ且ツ議員或
 ハ執政官ノ之ニ答辨スルヲ不便ト視做ス所ノ疑問ヲ質ス
 ニアリ斯ル場合ニ於テ執政官ハ數々汎然之ヲ説明シテ直

接ノ答辨ヲ爲サス是レ直接ニ答辨シ難キ質問起ルニ方テ採用ス可キ適當ノ方法ナリ

執政官若シ答辨ヲ拒ムキハ特ニ質問ノ主旨ヲ動議トシテ該院ニ提出スルヲ得可シ蓋シ之カ爲メニ議論ヲ生シ又ハ討議ノ際ニ非スンハ適宜ニ説明スルヲ得ザル者ハ何レノ事項モ之ヲ質問スルヲ得サルカ故之ヲ一種ノ動議トシテ提出スル方却テ可ナルアリ

執政官其他ノ議員カ質問ヲ無用トシ不便宜トシ常例外トシ無關係トシテ之ニ答辨スルヲ拒メル例証甚々多シ質問ニ答辨スルヲ拒ムキハ通常其所以ヲ説明スト雖モ質問ノ趣旨殊ニ非難ス可キ時ハ至ク之ヲ放置スルアリ

上院ニ於ケル質問

上院ニ於テハ質問ニ關スル制規緩ニ過キテ唯タ私ノ告知

ヲ以テ質問ヲ起スニ充分ノ理由ト爲セリ故ニ未ダ議案ノ討議ヲ始メサルニ議員ハ其主旨ニ就テ質問シ答辨シ爲メニ數々議論ヲ生シテ大ニ不便ヲ醸セルヲ多シ千八百六十七年上院ノ委員ハ貴族ノ注意ヲ惹ンカ爲メ該院ニ懇懇シテ曰ク當院ノ議題ニ就テ質問セント欲スル者ハ其趣ヲ書面ニ認メテ豫メ之ヲ告知セシムルノ法ヲ設ク可シト上院ハ委員ノ意見ヲ審案熟考シタル後千八百六十八年四月二日終ニ議定シテ曰ク質問ニ就テ意見ヲ陳述シ若クハ議論ヲ起サント欲スル者ハ其趣ヲ當日ノ議目ト揭示トニ記録セシムヲ希望スト

執政官ノ答辨

執政官ハ直チニ其質問セラレタル事項ニ答辨セス別段之ニ關スル疑問若クハ動議ニ遭遇セスシテ他時ニ及ンテ答

辨スルヲアリ又執政官ハ質問セラレサルモ自ラ好シテ國家重大ノ事項ヲ説明スルヲ得可シ

執政官ハ之カ筆記シタル証跡ヲ示サスシテ議院ニ説明シ
ンカ爲メ其手中ニ在ル所ノ事物ヲ用ウルヲ得可シ然レモ
現ニ議院ニ在ル者ト之ヲ下附ス可キ約諾ヲ經タル者トノ
外ハ公信其他ノ公書ヲ朗讀シ若クハ是ヨリ抄出スルヲ得
ス然レモ此規則ハ悉皆ノ公書ニ適合スルニ非ス其特ニ重
要ナル者ト之ヲ提出スレハ必ス公利ヲ傷害ス可キ者トニ
適合スルノミ

(己) 調査掛ノ設置及ヒ管理

議院ニ下附シテ審案セシム可キ議案ヲ起草シ行政府ノ執
行ス可キ事項ヲ調査スルニ方リ執政官ヲシテ公務ニ關ス

調査掛

ル明瞭充全ナル知識ヲ蒐集センカ爲メ各所ヨリ適應ノ補
助ヲ得ル能ハシムルヲ必要ナリ

内閣執政官ハ皆ナ其事務極テ多端ナルカ故細カニ立法事
務ニ關スル重大ノ事件ニ注意シ其執行セル事件ノ國家ニ
及ホス所ノ影響ヲ觀察スルヲ得可キ者少ナシ故ニ議院ハ
確乎クル証跡ニ基テ之ニ關スル法律ヲ設クルヲ必要ナル
諸般ノ大事件ヲ調査セシメンカ爲メ執政官ノ發議ニ因リ
若クハ其同意ヲ得テ委員ヲ撰定シ以テ執政官ヲ補助セシ
メタリ然レモ斯ル場合ニ於テ議院ノ委員ニ依頼スル時ハ
爲メニ執政官ノ負擔ス可キ責任ヲ減スルカ故之ニ倚賴ス
可ラサルヲナシトセス加之ナラス議員ハ皆ナ繁多ナル職
務ヲ有スルカ故其全力ヲ之ニ注ク能ハサルノ不便ナキヲ

得テ、議院ノ委員ハ長時日ヲ費シテ或ル事項ヲ調査シタル後チ自ラ満足ス可キ迄之ニ從事スル能ハス數々中道ニシテ其企圖ヲ放棄セルコアルニ非スヤ又數々全力ヲ傾テ之ニ從事スルヲ得可キ勅命事務掛ヲ設置セラレシコトヲ懲息セルニ非スヤ

調査掛ノ功用

勅命調査掛ヲシテ豫メ立法事務ヲ調査セシムレハ議院政治ノ活動ヲ便益スルコト實ニ大ナリ調査掛ハ管々事實ヲ搜鑿スルニ於テ一種特別ノ便益ヲ與フルノミナラス能ク他ノ方法ニ因テ得可ラサル知識ヲ探出スルコト多シ且ツ有力ニシテ公平ナル調査掛ノ報告ハ數々公衆ヲ教誘シ其心志ヲ改進セシムルノ大功ヲ奏ス彼ノ丐夫及ヒ貧民救助、罪犯及ヒ刑罰、流行病及ヒ衛生製造所ノ勞役時間過度ナルカ爲

調査掛ニ關スル制規

メ生スル禍害等ニ關スル疑問ハ如何ニ決定セラレシ乎ヲ見ハ以テ調査掛ノ勢力ノ一斑ヲ窺フニ足ル可シ調査掛ハ全ク右等疑問ノ要旨チ一變シ幾ント社會公衆、議院ノ委員、及ヒ重立タル政治家ノ據テ以テ法律ヲ制定セントシタル所ノ根據ヲ變轉セシメタルニ非スヤ
與衆ノ勅命調査掛ニ倚賴スルチ可トスルハ嘗タ其立法事務ヲ起草スルニ於テ直接ニ執政官ノ助ト爲ルカ故ノミニ非ス其王室ト議院トノ共ニ知ルコトヲ要スル悉皆ノ疑問ヲ公平ニ調査セシムルノ機械ト爲ルカ故ナリ吾人ハ茲ニ事務掛ノ設置ト爾後之ニ關スル措置トニ適合ス可キ制規ヲ指示セントス
勅命調査掛ハ陛下其意見ト特權トニ因テ之ヲ任命スルチ

得可ク或ハ議院ノ決議ノ指示ナル所ニ從ヒ或ハ一院若クハ兩院ノ勸誘ニ同意シテ之ヲ任命スルヲ得可シ勅命調査掛ノ設置ヲ勸請スルノ奏議ハ必スシモ上下兩院協同シテ之ヲ上ルヲ要セスト雖ヒ^ザトリア第五十七号第十五款及ヒ第十六款ノ如キ議定法有テ特ニ之ヲ命スルキハ兩院協同シテ之ヲ上ラサル可ラス該議定法ハ或ル議院ノ組織体則チ撰舉地ニ行ハル、汚行ヲ調査セシメンカ爲メ調査掛ノ設置ヲ請フノ奏議ハ兩院協同シテ上ル可キ旨ヲ命スル者ナリ

議院若シ調査掛ノ設置ヲ請フ時ハ奏議ノ上院ヨリ出ルト下院ヨリ出ルトニ關セス直チニ之ヲ設置スト雖ヒ斯ル奏議ハ常ニ上院ヨリ出ルト少ナフシテ下院ヨリ出ルト多シ

且ツ陛下ノ常ニ議院ノ明言セル希望ヲ敬重スルヤ執政官ノ反對セル調査掛ノ設置ヲ請フノ奏議ト雖ヒ既ニ該院ノ可決ヲ經テ來ル者ハ陛下之ヲ聽納シテ之カ設置ヲ命スルヲ常慣トス

世間異議ヲ調査事務掛ヲ設置スル王者憲法上ノ權理ニ容レタル者ナキニ非ス然レモ此權理ノ有無ヲ疑フ所以ヲ尋ヌレハ唯タ王權政治ノ生存セル時ニノミ重要ニシテ我カ今日ノ制度ニハ全ク不適當ナル理由ヲ以テ其根據ト爲スニ過キス執政官責任ノ大義確立以來事務掛ハ我カ政治機關ノ要部ト爲リ其荷モ正當ノ調査區域ヲ超脱セサル以上ハ世人皆之ヲ認テ最モ緊要且ツ利益アル目的ヲ達スル者ト爲セリ

調査掛ノ職權

然レ此調査掛ニ委ヌルニ行政府ノ原務及ヒ議院トノ關係ニ連絡スル所ノ事項ヲ以テスルハ憲法違背ノ事トス、何レノ事項ニ關シテモ執政官其責任ヲ避ケンカ爲メ若クハ政府ノ現存部局ノ事務ヲ負擔セシメシカ爲メ調査掛ヲ任命スルモ亦然リ蓋シ執政官ハ行政府ノ細事ニ關シテ知識ヲ得ルコハ充分ノ便利ヲ有スルカ故別ニ調査掛ヲ置テ之ヲ調査セシムルヲ要セサルノミナラス議院ニ對シテ直接ノ責任ヲ負擔ス可キ者ナレハナリ、又格段ナル一個人ノ犯セタル罪狀ヲ密問スルカ如キハ法庭ノ職分ナルカ故調査掛ヲシテ之ヲ調査セシム可キニ非ス、又政府之ニ判然限畫セル訓示ヲ示スノ用意アルニ非スンハ調査掛ヲ命スルヲ得ス、調査掛ノ職分ハ知識ヲ搜鑿シ立法若クハ行政事務ニ關シ

調査掛ノ任命

其以テ便宜トスル所ノ方法ヲ指示スルニ止マル可シ何レノ調査掛モ政策上ノ疑問ニ參與スルヲ得ス蓋シ執政官責任ノ適當ナル境域ト議院ノ占有ス可キ地步トヲ侵犯スルノ悞アレハナリ

格段ナル事項ヲ調査セシメ若クハ或ル重要ナル公務ニ關シテ知識ヲ蒐集セシメ之ニ就テ陛下ヲ勸誘セシメンカ爲メ陛下若クハ行政部局ノ長官ニ因テ命セラレタル調査掛ノ委任狀ハ行政諸部局中特ニ之ニ關係スル者之ヲ附與ス例ハ國務省中ノ一尙書若クハ大藏省若クハ其他ノ諸部局皆ニ委任狀ヲ附與スルヲ得可シ、然レ此行政諸部局中特ニ之ニ關與スル者ナキ時ハ内務卿專ラ調査掛管理ノ任ニ當ル、一般ノ通則ヲ論スレハ勅命調査掛ノ報告ハ唯タ内務省

ノ管理内ニノミ歸ス可キ者ナリ
 至尊ハ花押ヲ捺シタル委任狀若クハ大璽ヲ捺シタル命令
 書ヲ以テ其内ニ指名セル人物ニ揭示ノ事項ヲ調査シ其報
 告書ヲ陛下ニ奏呈ス可キ職權ヲ與フ特ニ調査ス可キ事務
 ニ關與スル行政部局ハ訓示ヲ發シテ委任狀ニ掲記セラレ
 タル勅命ヲ一層明瞭ニ解説指示スルヲ常トス、議院ノ懲懲
 ニ因テ調査掛ヲ設置スル時ト雖モ政府ハ議院ノ企圖セシ
 所ニ超ヘテ調査區域ヲ擴張スルヲ得可シ
 勅命若クハ法律ニ因テ或ル事項ノ調査ヲ委任セラル可キ
 人物ハ其現任内閣ノ維持者タルト反對者タルトニ關セス
 調査ス可キ事項ヲ熟知シ若クハ特ニ之ニ適スルノ故ヲ以
 テ之ヲ撰擇ス、時ニ或ハ政府ノ意見ニ因テ上院若クハ下院

調査掛ノ撰任

議員ヲ舉テ重要ナル事項ノ調査掛ト爲スヲアリ是レ啻々
 其資質之ニ適スルカ故ノミヲ以テ然カスルニ非ス亦調査
 掛ヲシテ直接ニ議院ニ出席セシムルノ便益アルカ爲メナ
 リ
 普通ノ制規ニ依レハ施政府員ハ調査掛ニ任セラレサルヲ
 常トス蓋シ施政府員ハ他日ニ及ンテ調査セル事項ヨリ起
 ル所ノ行政事務ヲ判決ス可キ職任ヲ有スルノミナラス國
 家政策上ノ疑問ニ就テ豫メ其意見ヲ吐露シ以テ之ヲ羈束
 ス可ラサル者ナレハナリ然レモ是レ常ニ必スシモ然ルニ
 非ス内閣執政官ヲシテ特ニ其擔任行政部局ニ關係スル事
 項ヲ調査セシメ若クハ政治ト連絡セサル事項ヲ審案裁斷
 セシメンカ爲メ調査掛ヲシムルカ如キハ毫モ制規ニ戻

ラサルノミナラス却テ便宜ノ事ナリトス
 從令如何ナル事情アリト調査掛ハ決シテ黨派ノ氣習ヲ保
 持ス可ラス平氣虚心ニシテ普ク諸人ノ意見ヲ聽キ其極端
 ニ走ルカ如キ觀相ヲ呈スル者ト雖ト尙ホ之ヲ容レテ報告
 ノ資料ト爲サ、ル可ラス議院ハ勅命調査掛ノ組織ヲ觀察
 シテ之ヲ論評可否スルヲ得可シ

法命調査掛

議院ノ決議ニ因テ調査掛ヲ設置スル時ハ行政府之ニ任ス
 可キ人物ヲ撰定ス然レト自ラ之ヲ撰任スルト撰任セラル
 可キ人名表ヲ作テ議院ニ附與シ議院ヲシテ其内ヨリ撰定
 セシムルトハ執政官ノ意見ニ在リ千六百九十二年地稅額
 ヲ調査決定セシメンカ爲メ置カレタル調査掛ハ執政官其
 人名表ヲ作テ之ヲ下院ニ附與シ其可決ヲ得テ之ヲ任命シ

タリ爾後此先例ニ準據セルト多シ勅命調査掛ハ法命調査
 掛ニ異ナリ勅命調査掛ヲ撰任スルニ方テハ豫メ任命セン
 トスル人名ヲ議院ニ通知シ以テ陛下ノ撰擇ヲ論評セシム
 ルト少ナシ然レト政府ハ時ニ之ヲ通知スルヲ以テ便宜ト
 思考シタルヲアリ

法命調査掛ヲ設置スルニ方リ掛員ニ任セント欲セル人名
 ヲ議院ニ通知スルトセサルトハ一ニ政府ノ意見ニ在リト
 雖ト格段ナル疑問ヲ決定スルニ於テ王室ト議院トヲ充分
 協和セシメンカ爲メ之ヲ議院ニ通知シテ其認承ヲ受クル
 ト多シ

例ハ千八百三十一年第一次ノ改革案未タ可決セラレサ
 ルニ方リ政府ハ撰舉區畫調査掛ノ人名ヲ包蓄セル議案

ヲ提出シテ議院ノ認承ヲ得ント欲シタルハ奏功セザリ
シカ故執政官ハ自ラ其責ニ任シテ嚮ニ指名シタル人物
ヲ任用セリ千八百六十七年新改革案ヲ議スルニ方リ政
府ハ再ヒ撰舉區畫調査掛ニ任セント欲セル人名ヲ下院
ニ附與シ其認承ヲ得テ改革案中ニ編入シタリ

勅命調査掛ノ
償酬

勅命調査掛ハ通常給與ヲ受ケスト雖ヒ時ニ或ハ其時ト勞
トニ向テ償酬セラル、アリ調査ノ爲メニ費ス所ノ實費ハ
國庫ヨリ支辨スルヲ勿論ナリトス

其職權

勅命調査掛ハ其調査ス可キ事項ニ就テ之ニ告知セント欲
スル適應ノ人アラハ其告知ヲ受ケ又筆記シクル通信ヲ受
クルヲ常慣トス加之ナラス勅命調査掛ハ其考鑿ヲ便利ナ
ラシメシカ爲メニ必要ナル時ハ實驗法ヲ設テ格段ナル理

其強迫權

論ノ當否若クハ或ル發明ノ便否ヲ試驗スルヲ得可シ
然レモ議院ノ議決ニ因テ特ニ其權力ヲ附與セラル、ニ非
スンハ調査掛ハ強ヒテ文書ヲ示サシメ證據ヲ出サシメ又
盟誓ヲ納レシムルヲ得ス千八百五十一年ヲ以テ議院ヲ通
過セル議定法ニ曰ク今日及ヒ向後其法律ト諸黨ノ同意ト
ニ因テ證據ヲ聽キ受ケ、檢査ス可キ權力ヲ有スル所ノ調査
掛ハ皆テ法律上召喚スルヲ得可キ證據人ヲシテ誓ヲ納レ
シムルノ權力ヲ有スト然レモ此法律ハ法庭ニ因テ命セラ
タル調査掛若クハ議定法ニ因テ與ヘラレタル權力ヲ以テ
働ク所ノ調査掛ニノミ該當ス可クシテ直接ニ王者ノ爲メ
ニ命セラレタル調査掛ニ關係セサルカ如シ、或ル場合ニ於
テハ王者モ其特權ヲ以テ命シタル調査掛ニ其檢査ス可キ

其特種非常ノ
權力

人物ヲシテ誓ヲ納レシムルノ權力ヲ與フルヲ要用トシ、此
權力ヲ與フルノ權理ヲ要求セルコト疑ヲ容レス然レモ斯ル
權理ヲ要求スルノ當否ハ事ノ大ニ疑フ可キ者ニシテ勅命
調査掛ニ斯ル權力ヲ與ヘタルノ例証甚ク少ナシ加之ナラ
ス其強迫權ヲ有セサルカ爲メ擔當事務ニ就テ充分且ツ公
平ナル知識ヲ得ル能ハサリシガ如キコト稀ナリ之ニ反シテ
議院ハ或ル場合ニ於テ勅命調査掛ニ附加ノ權力ヲ與ヘン
ト欲シ或ハ特種非常ノ權力ヲ有スル調査掛ヲ任命スルヲ
得セシメント欲シテ處中セル例証多シ

商業同盟

千八百六十七年二月八日內務卿ワルボールハ商業同盟
ノ舉動、狀態等ヲ検査セシメンカ爲メニ設置セラレタル
勅命掛ニ特種非常ノ權力ヲ與ヘテ其奏功ヲ俟ラシム可

シト云ヘル議案提出ノ許可ヲ得タリ是ヨリ先キ商業同
盟ナル者シコツフキールドニ於テ暴行シタリ政府ハ數々
其巨魁ヲ探偵シタレモ常ニ之ヲ得ル能ハサリキ故ニ今
マ調査掛ヲ設置シ之ニ非常ノ權力ヲ與ヘテ暴動ヲ檢察
セシメント欲セサルナリ而シテ政府ノ調査掛ニ附與セ
ント欲セル非常ノ權力ヲ問ヘハ曰ク之ヲシテ強テ文書
ヲ出サシムルノ權力ヲ有セシメント曰ク強テ證據人ヲ召
喚スルノ權力ヲ有セシメント曰ク誓ヲ納レシメテ證據ヲ
取ルコト得セシメント曰ク之ヲ侮辱スル者ヲ罰スルノ權
力ヲ有セシメント曰ク罪人ト雖モ充分ニ當日ノ暴行ヲ白
狀シ他ノ犯罪者ノ證據人ト爲ル者ハ之ヲ赦スコト得セ
シメント此議案ハ頗ル諸議院ノ異議ヲ招キシト雖モ終

ニ可決セラレテ法律ト爲レリ此法律ハ又内務卿ニ與フルニ調査掛ヨリ請求セラル、時ハ之ヲ助テ^シエツフ^ルド暴動ニ關スル證據ヲ擧ケシメ^ルンカ爲メ吟味役トシテ適應ノ人ヲ任命スルノ權力ヲ以テセリ然レヒ此法律ニ據テ起ル所ノ審問ハ適應ノ告示ノ後チ公然之ヲ執行ス可キ旨ヲ命シタリ

會期未タ盡キサルニ方リ政府ハ議院ニ請フテ右記ノ法律ニ因テ與ヘラレタル權力ヲ擴張セサル可ラスト思惟シ乃チ内務卿ニ與フルニ調査掛ノ請求アル時ハ他ノ地方ニ於テモ同上ノ方法ヲ施スヲ得可キ權力ヲ以テス可シト發議シタルニ議院ハ之カ爲メ法律ヲ議定セリ

政府ハ元來國王ノ任命シタル調査掛ノ職權業務ヲ伸擴セ

愛國資金

ンカ爲メ議院ノ權力ニ訴ヘタルヲアルハ左ノ一例ヲ見テ知ル可シ

千八百五十四年ヨリ全五十五年ニ至ルクリミア戰爭ニ際シ之ニ斃レタル兵士水夫等ノ遺族ヲ救助シ其孤子教育ノ資ニ供センカ爲メ公私ノ寄附、慈惠ニ因テ大金ヲ彙集シ之ヲ稱シテ愛國資金ト云フ千八百五十四年十月七日此愛國資金ヲ管理シ之カ配分ヲ司ラシメ^ルンカ爲メ敕命事務掛ヲ設置セリ千八百六十六年ノ之ヲ受ク可キ權利アル者ニハ皆ナ應分ノ配當ヲ爲シタル後チ尙ホ大額ヲ餘セシカ故議院ニ向テ之ヲ其性質同ウシテ目的異ナル所ノ陸海軍ニ關スル他ノ費途ニ使用ス可キ權力ヲ請求スルノ必要ナルニ至レリ是ニ於テ乎議院ハ其費目ヲ

議定セリ一ニ曰ク該資金ヲ醸集セル當初ノ目的ニ向テ使用ス可シニ曰ク諸方ノ戦争ニ於テ既ニ死シ若クハ向後死スル所ノ兵士水夫等ノ子女ヲ教育養成スルカ爲メニ使用ス可シ三ニ曰ク適當ノ養老金ヲ給與ス可キ尙書及ヒ録事ノ俸給ト其他ノ經費トノ爲メニ使用ス可シ千八百六十七年議院ハ再ヒ愛國資金ノ費目ヲ議定シテ更ニ其用途ヲ伸擴セリ則チ其在職中ニ既ニ死シ及ヒ向後死スル所ノ兵士水夫等ノ子女ニ同上ノ慈惠ヲ施スヲ得セシメタル是レナリ議院ハ又官司ヲ置テ該資金ヲ委托シ及ヒ支出セル金額ヲ檢査セシム可キ旨ヲ議決シタリ

部局内ノ處置

苟モ其職制ノ限界ヲ越ヘス又之ヲ説明セル議院ノ決議ヲ

經費

遵奉スル以上ハ救命調査掛ハ其部局ノ措置ヲ整理シ及ヒ其會同ニ際シ或ル人物ノ出席ヲ許否ス可キ全權ヲ有ス然レモ調査掛ハ其舉措ハ上下兩院ニ於テ審問檢察セラレハアル可キ者ナルヲ諒知セサル可ラス
救命調査掛ノ經費ハ大藏省之ヲ年々斯ル費途ニ供センカ爲メ議院ノ議定セル金額中ヨリ悉皆支辦スト雖モ掛員ハ豫メ内務省ノ認許ヲ經スシテ非常ノ多額ヲ費スヲ得ス内務省ハ調査掛ノ請求ヲ得テ更ニ之ヲ大藏省ニ請求ス或ル常置調査掛ニ關スル經費ハ文局經費豫算中ノ重要ナル事項ニ屬ス此等ノ費用ヲ以テ國庫ヨリ支出ス可ラサル者ト爲シ斯ル官局ヲ以テ徹頭徹尾自立ス可キ者ト爲スノ説ハ多年間益々盛行ノ勢ヲ示セリ

千八百六十八年四月二十四日在野議員ノ發議ニ依リ下院ハ租ホ地券區畫(塀籬等ヲ以テ他人ノ所有地ヨリ已カ所有地ヲ分割區畫スルヲ云フ)十一稅等ノ調査掛ト區畫及ヒ疏水乾燥法施惠等ニ關スル調査掛トノ經費ハ國庫ヨリ支辨ス可キ者ニ非サルヲ決定セリ然レモ之ヲ討議スルニ方テ執政官ハ皆ナ之ニ反對シ僅ニ一名ノ多數ヲ以テ否決セラル下院若シ國庫ノ二字ノ上ニ悉皆ノ二字ヲ加フルヲ諾セシナラハ執政官モ直チニ之ニ同意ス可キ筈ナリト云フ

經費ニ關シテ調査掛ヲ牽制センカ爲メ行政府ニ因テ若クハ其直接ノ認承ヲ經テ書記官ヲ命スルヲ法トス書記官ハ數々調査掛中ヨリ撰任セラル、コアリ然レモ格段ナル事

書記官

報告書

情アルニ非スノハ常ニ大藏省ノ屬官中ヨリ之ヲ撰任スル敕命調査掛ハ命令狀若クハ議院ノ決議ニ因テ其任期ヲ限ラレ或ハ國王ノ爲メニ解任セラル、ニ非スノハ其調査事務ヲ終結スル迄在職ス擔當事務ノ全部若クハ或ル格段ナル部分ノ調査ヲ終レハ係員ハ内務部國務尙書ノ手ヲ經テ陛下ニ其報告書ヲ上ル陛下ハ通常執政官ニ命シテ之ヲ議院ニ附與セシメ或ハ議院其下附ヲ請フノ奏議ヲ得ルニ及ソテ之ヲ通知ス

然レモ千八百三十六年五月十七日下院中動議ヲ起シテ陛下ニ請フニ調査掛ニ命シテ直チニ其擔任事項中或ル格段ナル部分ノ報告書ヲ呈セシム可キ旨ヲ以テセント論スル者アリタルニ執政官ハ之ヲ駁シテ違例ノ處置ニ

調査掛ト議院トノ關係

シテ陛下ノ手中ヨリ其任命セラレタル調査掛ノ指揮權ヲ纂奪セント欲スル者ナリト云ヘリ此許ノ討議後勳議者自ラ其說ヲ引ケリ

蓋シ敕命調査掛ハ唯タ陛下ノ管理ヲ受ク可キ者ニシテ直接ニ議院ニ對シテ責任ヲ負擔ス可キ者ニ非ス故ニ議院ハ調査掛ノ責任ニ堪ヘサルヲ明知シ若クハ其爲ス所ノ不當ナルヲ明知シ若クハ其政府或ハ議院ノ信任ヲ受クルニ足ラサルコトヲ明知スルニ非スハ其措置ニ干涉スルヲ得ス然レモ此コトアレハ議院ハ奏議ヲ奉テ調査掛ノ解任ヲ請フコトヲ得可シ

千八百六十八年三月二十四日ヂスレーリハ副撰舉區畫調査掛ノ報告書ヲ下院ニ與フルヲ拒メリ其言ニ曰ク該

局命調査掛

報告書ハ之ニ因テ其意見ヲ定メ當院ニ告ケル所ノ意見ニ向テ責ニ任スル撰舉區畫調査掛ノ披見ニ供ス可キ秘密ノ文書ナリト此際該報告書ヲ一見セタル者アリテ書中ノ事項ニ論及シタルニ下院ハ之ヲ認メテ規則違反者ト爲セリ然レモ後チ執政官ハ該報告書ヲ下附スルヲ承諾セリ

勅命法命調査掛ニ比スレハ稍ヤ其重要ヲ減スト雖モ尙ホ施政府ノ事務ヲ抄ラシムルニ於テ其功用甚ク大ナル者アリ之ヲ局命調査掛ト云フ局命調査掛ハ官局ニ關スル事項ヲ調査セシメンカ爲メ若クハ現行施政制置ノ欠点弱所ヲ補救改良セシメンカ爲メ大藏省若クハ國務省ノ命スル所ノ者タリ政府ハ通常調査ス可キ官局ニ屬スル事務官ニシ

テ閱歴多キ者兩三名ヲ舉テ此掛員ト爲ス大藏大輔其他施
 政府ノ劣等官モ之ニ加ヘラル、ト多シ
 千八百六十八年五月八日下院中動議ヲ起シテ軍務部國
 務尙書ノ合衆王國及ヒ其殖民地ヲ防衛ス可キ砦堡ノ疑
 問ヲ調査掛定セシメンカ爲メ任命シタル調査掛ニ該院
 議員二名ト土木學士一名トヲ加フ可キ旨ヲ議決シ又調
 査掛ノ報告書ヲ該院ニ呈スル迄ハ成ル可ク砦堡築造ニ
 關スル經費支出ヲ中止ス可キ旨ヲ議決セント欲スル者
 アリキ是ニ於テ平議論大ニ紛起シ容易ク決定ス可キ景
 況ナカリシカ之ニ反對スル者多キヲ見テ動議者終ニ其
 說ヲ引ケリ反對論者ノ言ニ曰ク下院議員ヲ舉テ局命調
 査掛中ニ加フル時ハ全ク行政府ノ負擔ス可キ責任ヲ大

ニ減少スルノ影響アル可シト爾後再ヒ此局命調査掛ノ
 報告書ヲ當院ニ呈スル迄ハ砦堡築造ヲ中止ス可シトノ
 動議ヲ起セル者アリシカ亦多數ノ反對ニ因テ廢棄セラ
 レタリ

政務官若シ局命調査掛ノ中ニ加ハリ其調査未ク終ラサル
 ニ方テ内閣變更スレハ該掛ハ之カ爲メ必ス死滅ス可キ者
 トス然レハ此際報告書既ニ整頓セハ調査掛ハ新任執政官
 ノ參考ニ供センカ爲メ私ニ之ヲ贈呈シテ其公書中ニ掲記
 セシメント企圖セル所ノ者ヲ通知スルヲ得可ク又政府ハ
 決シテ此通知ヲ等閑視セサル可シ

在野人士ニシテ局命調査掛ニ任セラレタル者ノ報酬ハ大
 藏省ノ認許ヲ得テ文局經費中ヨリ支給ス故ニ下院ハ文局

報告書

經費ノ費目ヲ議スルニ方テ之ヲ審査スルヲ得可シ
 局命調査掛ノ報告書ハ通常之ヲ認テ秘密ノ文書ト見做シ
 之ヲ議院ニ通知スルヲ稀ナリ
 例ハ千八百六十八年六月八日內務卿ハ市都ノ警察事務
 ヲ調査セシメシカ爲メ其任命セル調査掛ノ報告書ヲ其
 蒐集セル証跡トシテ下院ニ附與スルヲ拒メリ蓋シ調査掛
 ハ証據人ニ告クルニ其提出セル証跡ヲ公示スルヲチカ
 ル可キ旨ヲ以テシタルカ爲メナリ直後軍務尙書モ亦其
 公示ス可ラサル事項ヲ包蓄セルノ故ヲ以テ港口防衛ニ
 對スル障礙調査掛ノ報告書ヲ下院ニ提出スルヲ拒メリ
 第二節 格段ナル執政官ノ議院ニ於ケル職分
 吾人ハ是ヨリ議院ニ關シテ格段ナル旋政府員ノ負擔スル

議院諸首領ノ
位地

大藏席

所ノ職分ヲ觀察ス可シ吾人ハ之ヲ觀察スルニ方リ專ラ筆
 鋒ヲ下院ニ向ハシメサル可ラス蓋シ執政官ノ最モ繁忙ナ
 ル勞務ト責任トヲ要スル者ハ上院ニ非スシテ下院ナレハ
 ナリ
 吾人ハ先ツ慣行ニ因テ政府黨及ヒ反對黨ノ諸首領カ議院
 ニ於テ占ムル所ノ位地ヲ簡述ス可シ
 上院ニ於テハ旋政府員ハ議長席ノ右側ナル前面ノ長椅ニ
 坐シ通常旋政府ヲ贊成スル其ノ貴族ハ同側ニ於ケル他ノ
 長椅ニ坐ス貴族ノ政府ニ反對スルモノハ左側ニ列坐シ政
 治上中立ノ地位ヲ保タント欲スルモノハ中央ノ長椅ニ坐
 ス
 下院ニ於テハ議長席ノ右側ナル前面ノ長椅ヲ現ニ政府ニ

居ル者ノ坐席トシ左側ナル前面ノ長椅ヲ樞密院議員其他
 嚮ニ政府ニ在リシ者ノ坐席トス兩黨ノ間ニ中立セント欲
 スル者ノ坐席ハ判然畫定セズ
 新議院ノ開場ニ際シ龍動府四名ノ代議士ハ古來ノ慣行ニ
 因テ樞密院議員ノ長椅ヲ占ム可キ權理ヲ有ス他時ニ於テ
 ハ之ヲ公務多端ニシテ自ラ來テ議席ヲ取ル能ハスト認メ
 ラル、所ノ執政官ノ爲メニ別置ス大藏席ヲ樞密院議員ノ
 用ニ供スルノ慣行ハ少ナクヒチャーレス一世在位ノ往時ニ
 起源スト雖ヒ是レ唯々禮讓上ノ事コシテ權理上ノ事ニ非
 ス在野議員ノ格段ナル場合ニ於テ前面ノ長椅ヲ占メ樞密
 院議員ノ上ニ坐ス可キ權理ヲ主張セル例証少ナカラズ千
 六百二十八年ニ於テ著名ナル官員ホールズ之ヲ主張シ千

上院ノ首領

八百三十三年第一次ノ改革議院ノ開場ニ際シテウヰリアム
 コルベット之ヲ主張シタルカ如キハ其特ニ記憶スルニ足ル
 者ナリワルポールノ日(千七百四十一年)ニ在テハ樞密院議
 官タル兩敵黨ノ諸首領常ニ袂ヲ列テテ前面ノ長椅ニ坐セ
 シカジョージ三世即位以來ハ常ニ大藏席ヲ執政官ニ讓與シ
 テ毫モ其官位ノ高下ヲ問ハス宮内ノ吏員スラ之ヲ大藏席
 ニ着カシムルノ慣行ヲ生セリ
 (甲) 上院ニ於ケル政府ノ首領
 政府ハ上院ニ出席シテ其首領ト爲ル可キ執政官ヲ定メテ
 特ニ之ニ委ヌルニ行政政府ノ爲メニ公務ヲ指導シ管理スル
 ノ職任ヲ以テス大宰相貴族ナル時ハ通常自ラ此職任ニ當
 ルト雖ヒ貴族ナラサル時ハ其以テ最モ適任ト爲ス所ノ執

政官ヲシテ之ニ當ラシム上院ノ首領ハ頗ル重任ナルカ故
此任ニ當ル者ハ皆ナ朝野ノ敬重ヲ受ケ且政府全体ノ措置
ト照顧トニ就テ大勢力ヲ施スヲ得可シ此任ニ當ル者ハ政
治家タル最高ノ資質ヲ備ヘテ之ヲ使用セサル可ラス蓋シ
立法府ノ一部ニ偏倚シテ他部ノ意望情感ヲ放抛スルカ如
キヲナク成ル可ク上下兩院ヲ一致協和セシムルノ方法ヲ
施スハ假令執政官憲法上ノ職任ニ非ストスルモ尙ホ其希
望ナル可レハナリ

(乙) 下院ニ於ケル政府ノ首領

下院ノ首領

大宰相下院議員タル時ハ自ラ該院首領ノ任ニ當ル可シ蓋
シ此職任ハ頗ル高貴重要ノ者ニシテ劣等官ヲシテ之ニ當
ラシメ難キ者ナレハナリ此職任ハ大宰相職ト連絡併行ス

可キ者ニシテ若シ分離スレハ多少大宰相ノ威權ヲ欠損セ
サルヲ得ス然レモ大宰相貴族タル時ハ自ラ此任ニ當ル能
ハサルカ故他ノ執政官ヲシテ之ニ當ラシム、此職任ハ最モ
衆意ニ協ヒ最モ有力ナル立法枝部ニ對シテ非常ノ權勢ヲ
有スル者ナルカ故常ニ施政府諸官職ノ上位ニ居ル、下院ノ
首領ハ威儀ト責任トニ於テ第二位ヲ占ム其上位ヲ占ムル
者ハ唯々大宰相アルノミ蓋シ該職ニ居ル者ハ他ノ執政官
ト共ニスル所ノ職務ニ加フルニ下院ノ權理、特許權ヲ防衛
シ其面目ヲ守護スルノ重任ヲ以テシ併セテ之ヲ負擔スレ
ハナリ

今百年期中ノ最モ著名有力ナル官吏ノ一人ト呼ハレタル
カンニング下院首領ノ位地職任ヲ説明シテ曰ク是レ下院